

令和 5 年度
ケアラー・ヤングケアラー
実態調査結果

令和 6 年 2 月

越谷市

目次

I	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象者	1
(3)	調査内容	1
(4)	調査期間	2
(5)	調査方法	2
(6)	調査項目数	2
(7)	集計結果	3
II	報告書の説明・見方等	4
III	統計上の評価	4
IV	ケアラー	6
V	ヤングケアラー	39
	小・中学生	39
	高校生	45
VI	ケアラーを支援している団体等	69
VII	ヤングケアラーに関係のある機関等	76

I 調査の概要

(1) 調査目的

近年、介護や看病などが必要な家族等が無償でお世話する方（ケアラー）の身体的・精神的負担などが社会問題化しており、ケアラーのなかには、自身の日常生活などに支障をきたしているにも関わらず、誰にも相談できず、社会的に孤立してしまう方もいます。こうした背景を踏まえ、本市では、市内におけるケアラー・ヤングケアラーの現状など、その傾向を把握し、今後の支援策の検討を目的に実施した。

(2) 調査対象者

第一階層	第二階層	第三階層
対象（4分類）	調査票（5区分）	対象者（8区分）
ケアラー	一般向け	要介護認定者の介護者
		要支援認定者の介護者
		障害福祉サービス利用者の介護者
		指定難病患者等で医療給付を受けている方の介護者
ヤングケアラー	小中学生向け	市内小学4年生から中学3年生
	高校生向け	市内県立高校1年生から3年生
ケアラーを支援している団体等	団体向け	介護者サロン、オレンジカフェ、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、障がい者（児）相談支援事業所、子ども食堂
ヤングケアラーに関係のある機関等	要保護児童対策地域協議会向け	医師会、公共機関、主任児童委員、人権擁護委員協議会、幼稚園、認定こども園、私立保育園、小学校、中学校、越谷市保健医療部、学童保育室、公立保育所、地域型保育所、保育ステーション、子育てサロン、児童館、NPO法人、私立中・高等学校、県立特別支援学校

(3) 調査内容

ケアラーのケアの状況、ケアラーへの影響等について実態を調査した。また、潜在化するヤングケアラーの存在を把握するとともに、ケアの状況、ヤングケアラーへの影響等について実態を調査した。

さらに、ケアラー・ヤングケアラーと関わりのある団体等に対して、ケアラー等に求められる支援等の調査を行った。

(4) 調査期間

令和5年6月19日(月)から令和5年7月31日(月)まで

(5) 調査方法

- ケアラー、ケアラーを支援している団体、ヤングケアラーに関係のある機関等
 - ・ 居宅介護支援事業所や地域包括支援センター、障がい者(児)相談支援事業所、保健所や、ケアラーやヤングケアラーにかかわりのある機関および団体を通じて、対象者へ依頼文および調査票を配布。
 - ・ 回答方法は、郵送による回答。または、PC やスマートフォンから Web フォーム(依頼文に記載された URL または、二次元コードから案内)による回答のいずれかを対象者自身が選択。
- ヤングケアラー
 - 高校生
 - ・ 各学校を通じて、生徒へ依頼文を配布
 - ・ 回答方法は、PC やスマートフォンから Web フォーム(依頼文に記載された URL または、二次元コードから案内)による回答。
 - 小・中学生
 - ・ 教育委員会を通じて、各学校へ協力依頼
 - ・ 児童生徒に配布されるタブレット端末を活用して回答。

(6) 調査項目数

調査票	調査項目数
一般向け	25
小中学生向け	9
高校生向け	23
ケアラーを支援している団体等	9
ヤングケアラーに関係のある機関等	7

(7) 集計結果

対象		調査対象者数	有効回答数	有効回収率
ケアラー		1,237	567	45.8%
	郵送回答		502	40.6%
	Web フォーム回答		65	5.3%
要介護認定者の介護者		728	406	55.8%
*以降「ケアラー（高齢者）」とする	郵送回答		369	50.7%
	Web フォーム回答		37	5.1%
要支援認定者の介護者		144	56	38.9%
*以降「ケアラー（高齢者）」とする	郵送回答		47	32.6%
	Web フォーム回答		9	6.3%
障害福祉サービス利用者の介護者		315	90	28.6%
*以降「ケアラー（障がい）」とする	郵送回答		73	23.2%
	Web フォーム回答		17	5.4%
指定難病患者等で医療給付を受けている方の介護者		50	15	30.0%
*以降「ケアラー（指定難病等）」とする	郵送回答		13	26.0%
	Web フォーム回答		2	4.0%
ヤングケアラー		22,857	14,302	62.6%
市内小学4年生から中学3年生 *以降「小・中学生」とする		17,205	13,375	77.7%
市内県立高校1年生から3年生 *以降「高校生」とする		5,652	927	16.4%
ケアラーを支援している団体等		98	67	68.4%
介護者サロン、オレンジカフェ、 地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、 障がい者（児）相談支援事業所、子ども食堂		98	67	68.4%
	郵送回答		47	48.0%
	Web フォーム回答		20	20.4%
ヤングケアラーに関係のある機関等 【要保護児童対策地域協議会の構成機関】		281	190	67.6%
医師会、公共機関、主任児童委員、 人権擁護委員協議会、幼稚園、認定こども園、 私立保育園、小学校、中学校、越谷市保健医療部、 学童保育室、公立保育所、地域型保育所、 保育ステーション、子育てサロン、児童館、NPO 法人、 私立中・高等学校、県立特別支援学校		281	190	67.6%
	郵送回答		122	43.4%
	Web フォーム回答		68	24.2%

II 報告書の説明・見方等

- ・ 本報告書では、回答すべき箇所では回答されていないものは「無回答」として扱う。
- ・ 本報告書では、回答する必要のない箇所、または、回答すべき箇所でないところを回答している場合、「回答対象外」として扱う。「回答対象外」の場合、その質問で選択・記述されている回答は集計上扱わないものとする。
- ・ 本報告書では、回答内容が設問に存在する選択肢の回答とは意味が異なる場合や、選択肢へ分類できない回答（扱いが不明瞭）の場合、「回答不備」として扱う。
- ・ 設問の構成比は、回答者数（該当設問での回答者数）を基数として百分率（％）で示している。したがって、「回答対象外」は、構成比に含まれない。
- ・ 比率は全て百分率（％）で表し、小数点以下第二位を四捨五入し算出しているため合計が100%にならない場合がある。
- ・ 記述式の問において、下線が記述されている回答は、複数の回答者からの回答や支援につながるもの、重要度が高いと思われる回答である。

III 統計上の評価

母集団から一部を抽出して行ったアンケート調査で得られた数値は、母集団の結果そのものではありません。統計学では、母集団のサイズ（N）、抽出されたサンプルのサイズ（n）及び調査によって得られた値（P）から、次式により標本誤差を計算し、95%の信頼度区間で母集団を推測する。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団（令和5年10月1日現在母集団人口）

n = 比率算出の基数（有効回収票）

P = 回答率

標本誤差とは、標本抽出に伴って発生する誤差のことであり、標本誤差の大きさは、調査における推定の精度ないし確からしさを意味している。

■ケアラー

母集団	比率算出の基礎	回答率	標本誤差
1,237	567	45.8%	±3.1%

■ヤングケアラー（小・中学生）

母集団	比率算出の基礎	回答率	標本誤差
17,205	13,375	77.7%	±0.3%

■ヤングケアラー（高校生）

母集団	比率算出の基礎	回答率	標本誤差
5,652	927	16.4%	±2.2%

■ケアラーを支援している団体等

母集団	比率算出の基礎	回答率	標本誤差
98	67	68.4%	±6.4%

■ヤングケアラーに関係のある機関等

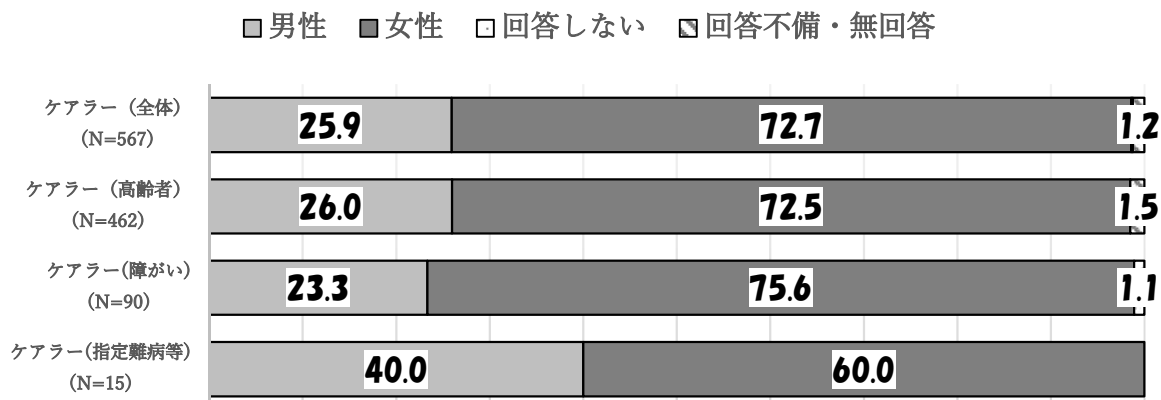
母集団	比率算出の基礎	回答率	標本誤差
281	190	67.6%	±3.9%

IV ケアラー

質問 1 性別について

ケアラー全体で、「女性」と回答した割合が、72.7%で最も高く、すべての区分において、「女性」と回答した方が全体の60.0%以上と高い割合を占めている。

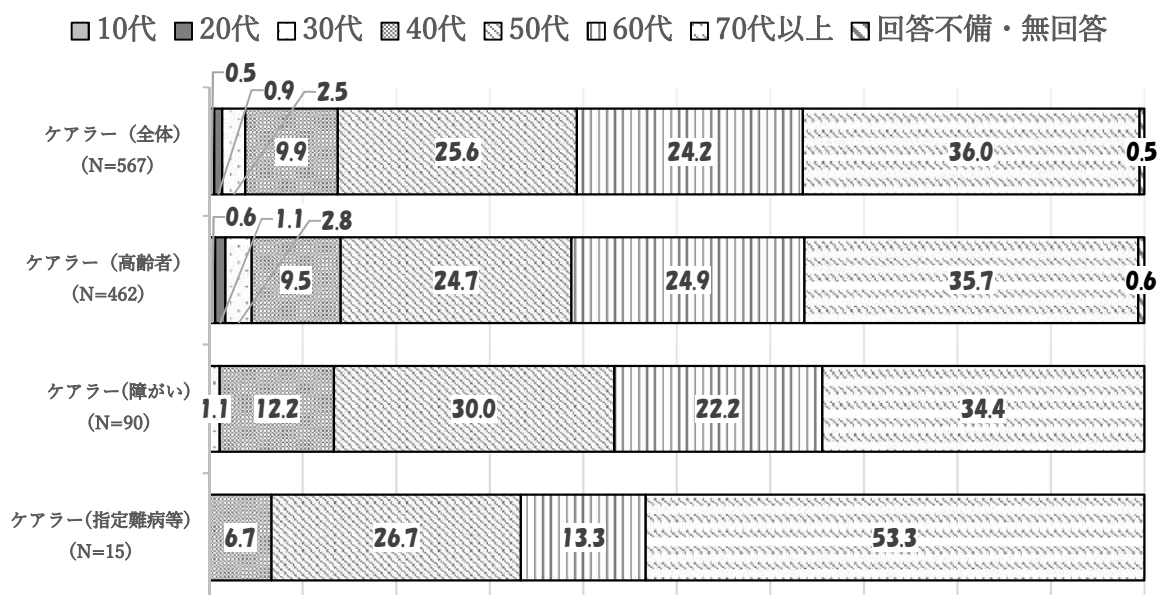
単位：％



質問 2 年齢について

ケアラー全体で、「70 代以上」と回答した割合が、36.0%で最も高く、ケアラー(高齢者)は35.7%、ケアラー(障がい)は34.4%、ケアラー(指定難病等)は53.3%である。

単位：％

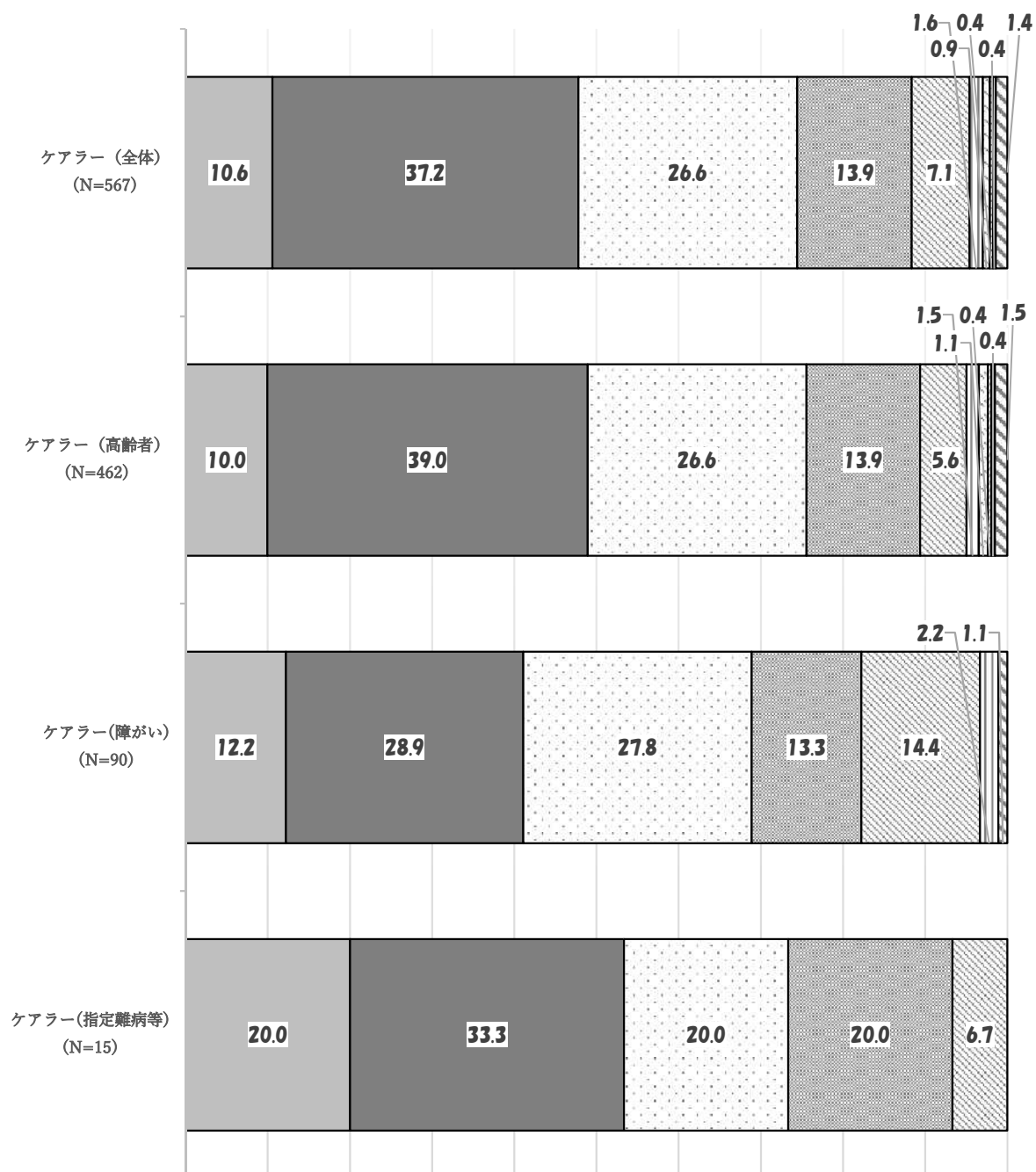


質問3 あなたを含めた同居人の人数について

ケアラー全体で、「2人」と回答した割合が、37.2%で最も高く、ケアラー(高齢者)は39.0%、ケアラー(障がい)は28.9%、ケアラー(指定難病等)は33.3%である。

単位：％

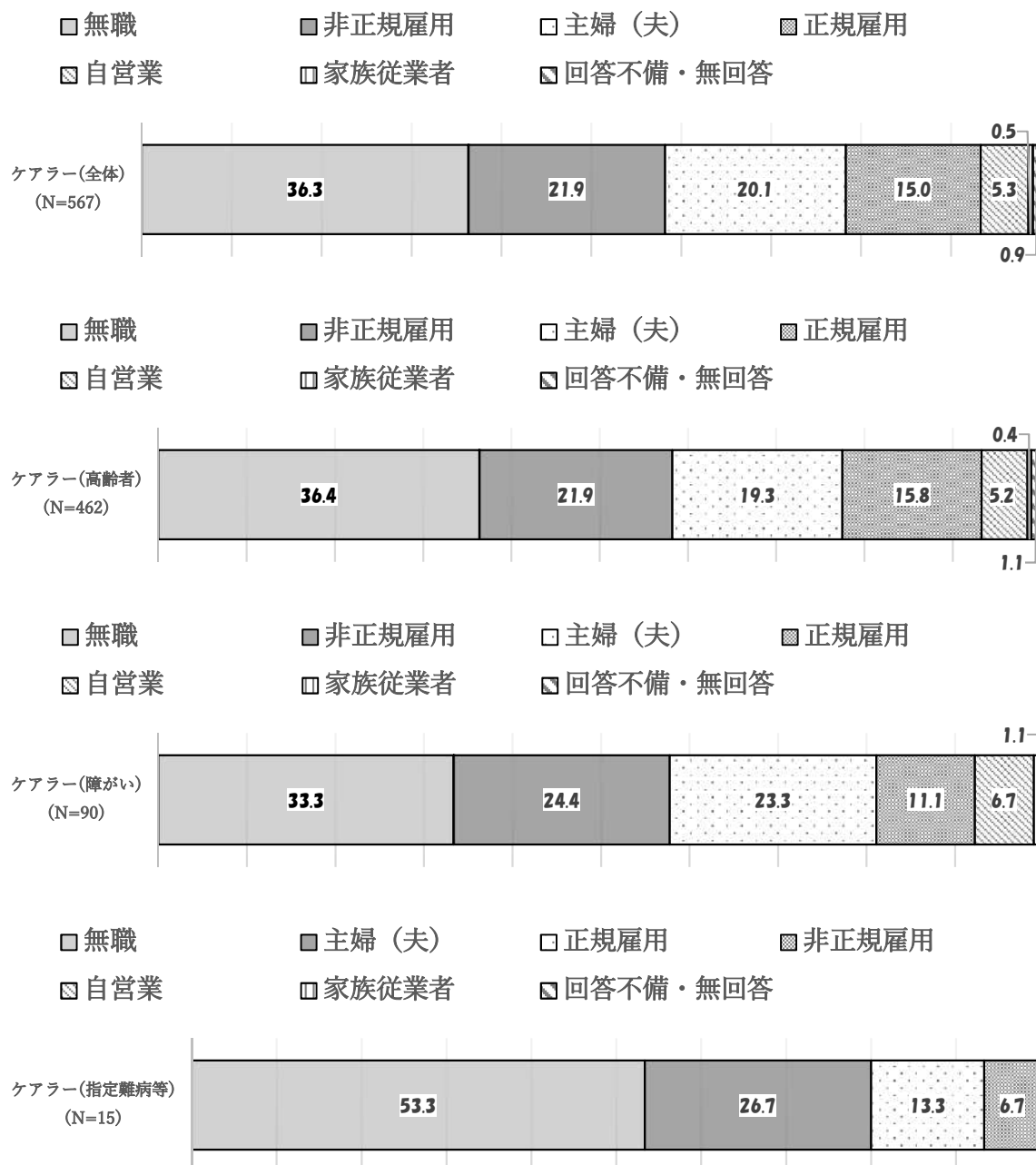
■1人 ■2人 □3人 ■4人 ■5人 □6人 ■7人 ■8人 □9人 ■回答不備・無回答



質問 4 現在の就労等の状況について

ケアラー全体で、「無職」と回答した割合が、36.3%で最も高く、ケアラー(高齢者)は36.4%、ケアラー(障がい)は33.3%、ケアラー(指定難病等)は53.3%である。ケアラー(高齢者)、ケアラー(障がい)においては、「非正規雇用」、ケアラー(指定難病等)においては、「主婦(夫)」の割合が次いで高い。

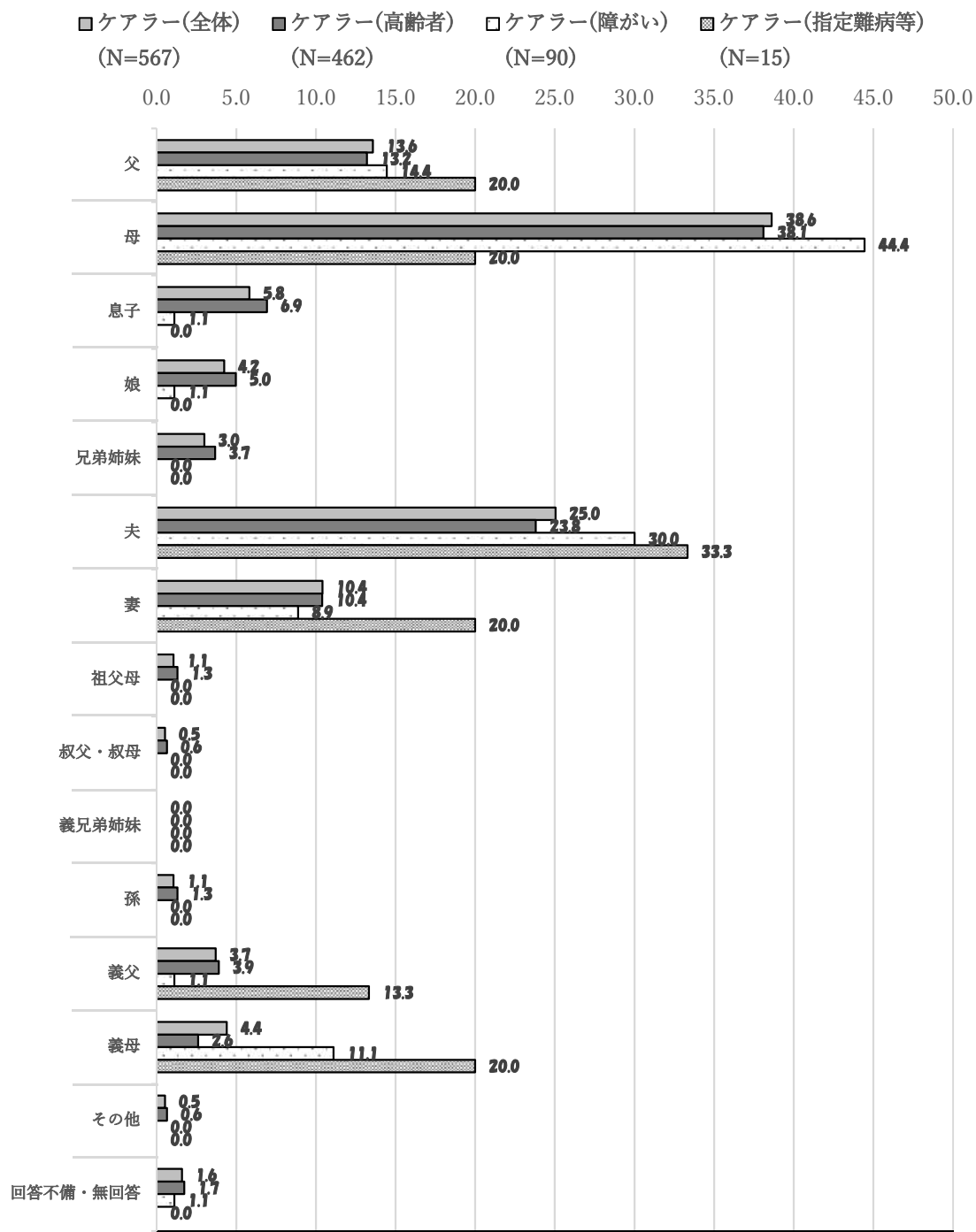
単位：%



質問5 ケアを受けている方の続柄（複数回答）

「母」と回答した割合が、ケアラー(高齢者)は38.1%、ケアラー(障がい)は、44.4%で最も高く、ケアラー(指定難病等)においては、「夫」と回答した割合が33.3%で最も高い。

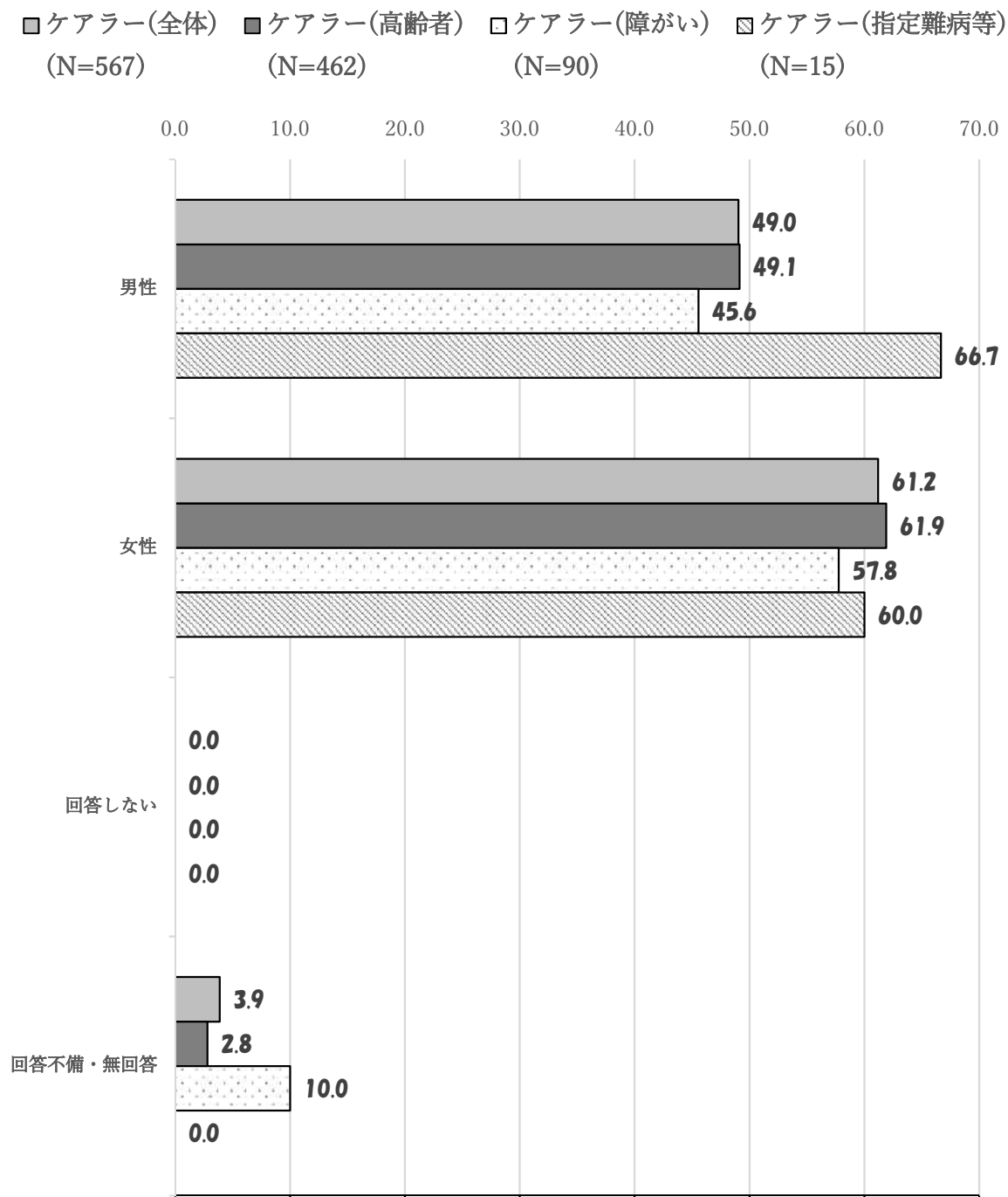
単位：%



質問6 ケアを受けている方の性別（複数回答）

質問5に関連して、「女性」と回答した割合が、ケアラー(高齢者)は61.9%、ケアラー(障がい)は57.8%であり、ケアラー(指定難病等)においては、「男性」と回答した割合が66.7%である。

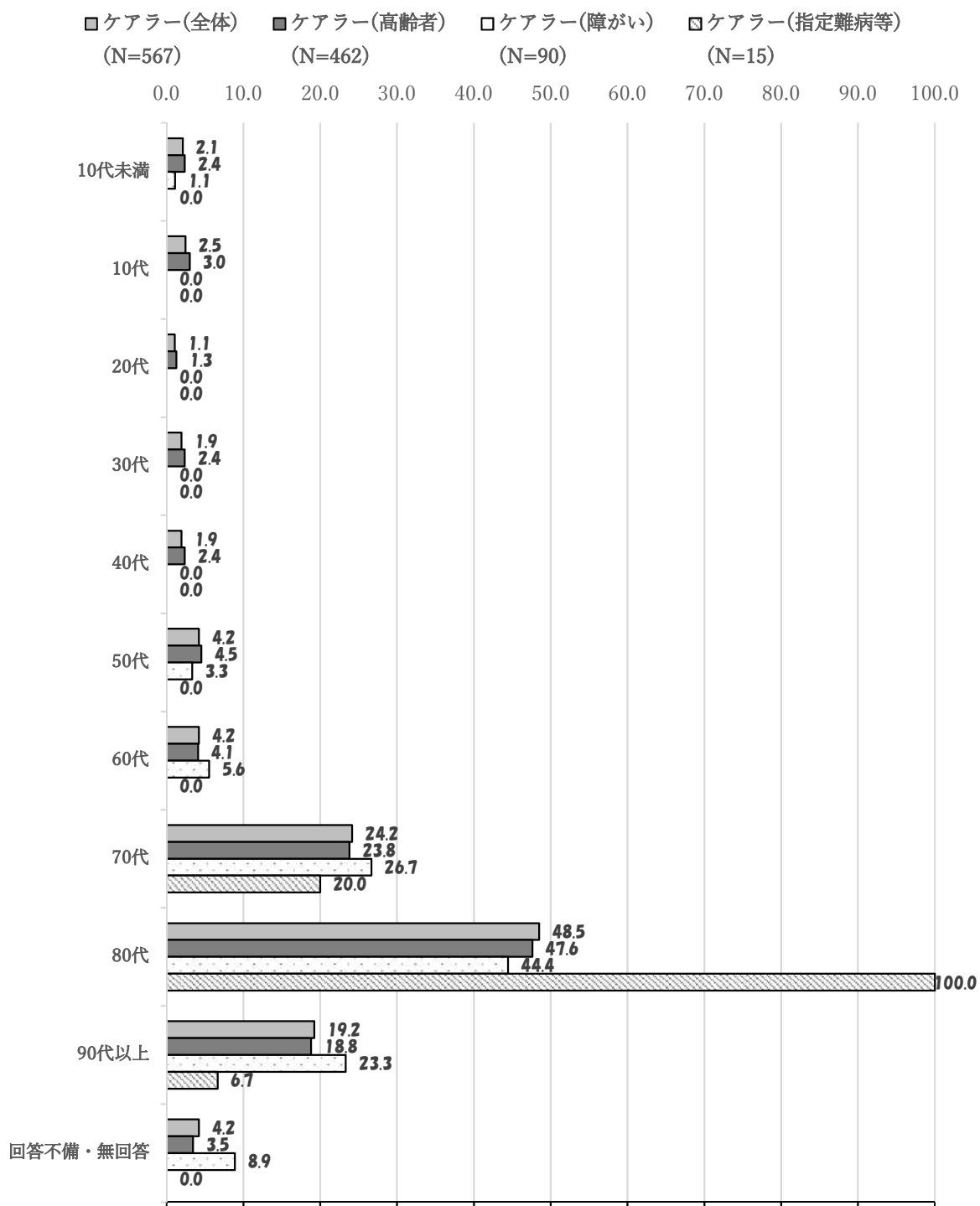
単位：％



質問7 ケアを受けている方の年齢（複数回答）

ケアラー全体で、「80代」と回答した割合が、48.5%で最も高く、ケアラー(高齢者)は47.6%、ケアラー(障がい)は44.4%、ケアラー(指定難病等)は100.0%である。

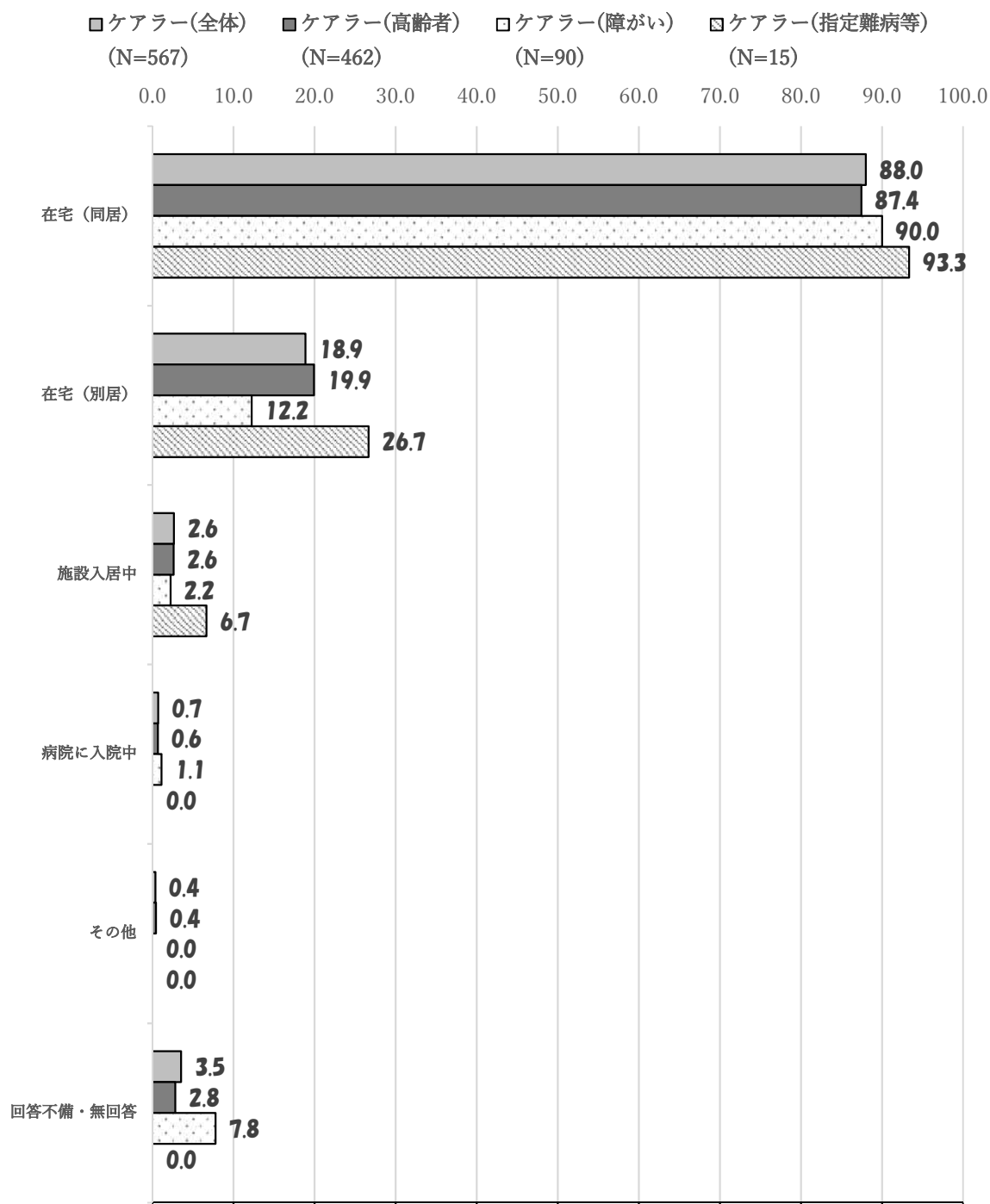
単位：%



質問 8 ケアを受けている方の生活場所（複数回答）

ケアラー全体で、「在宅（同居）」と回答した割合が、88.0%で最も高く、ケアラー（高齢者）は 87.4%、ケアラー（障がい）は 90.0%、ケアラー（指定難病等）は 93.3%である。次いで「在宅（別居）」の割合が高いが、ケアラー（障がい）においては他区分と比べ低い。

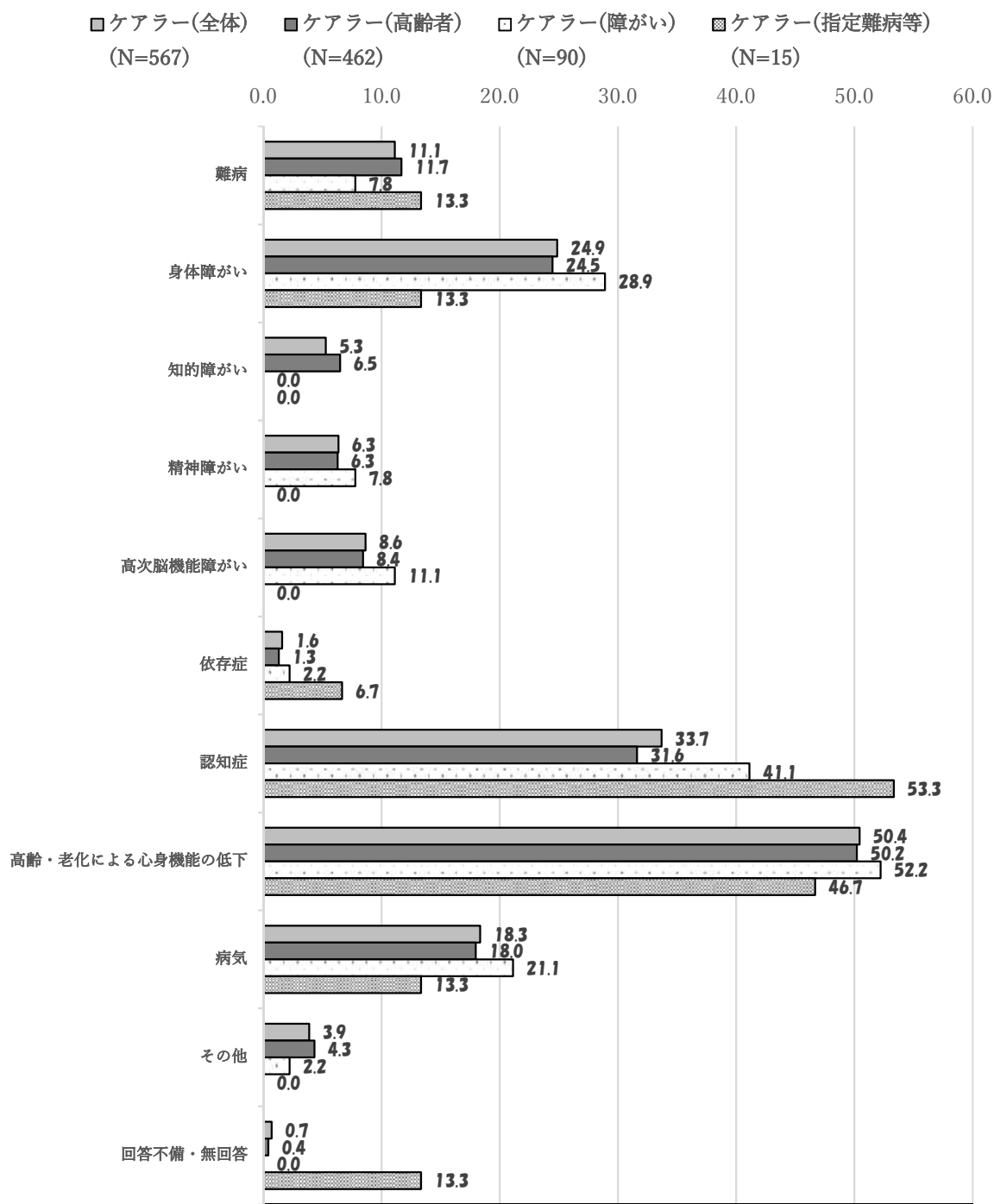
単位：%



質問9 ケアを受けている方の状況について（複数回答）

「高齢・老化による心身機能の低下」と回答した割合が、ケアラー(高齢者)は50.2%、ケアラー(障がい)は52.2%で最も高く、ケアラー(指定難病等)においては、「認知症」の割合が53.3%で最も高い。

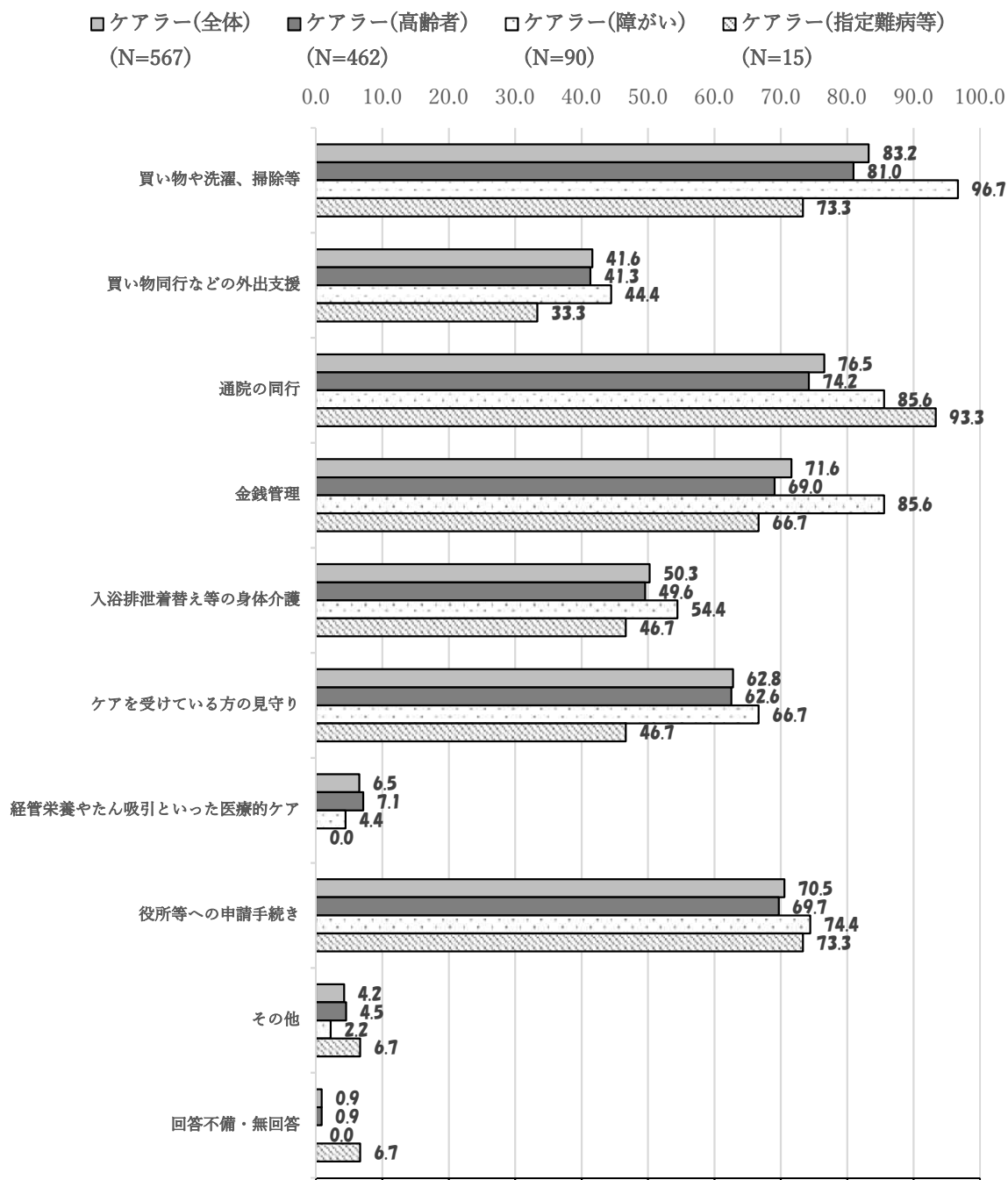
単位：％



質問 10 行っているケアの内容について（複数回答）

「買い物や洗濯、掃除等」を回答した割合が、ケアラー(高齢者)は 81.0%、ケアラー(障がい)は 96.7%で最も高く、ケアラー(指定難病等)においては、「通院の同行」を回答した割合が、93.3%で最も高い。また、すべての区分で、「金銭管理」、「役所等への申請手続き」が 60%以上回答している。

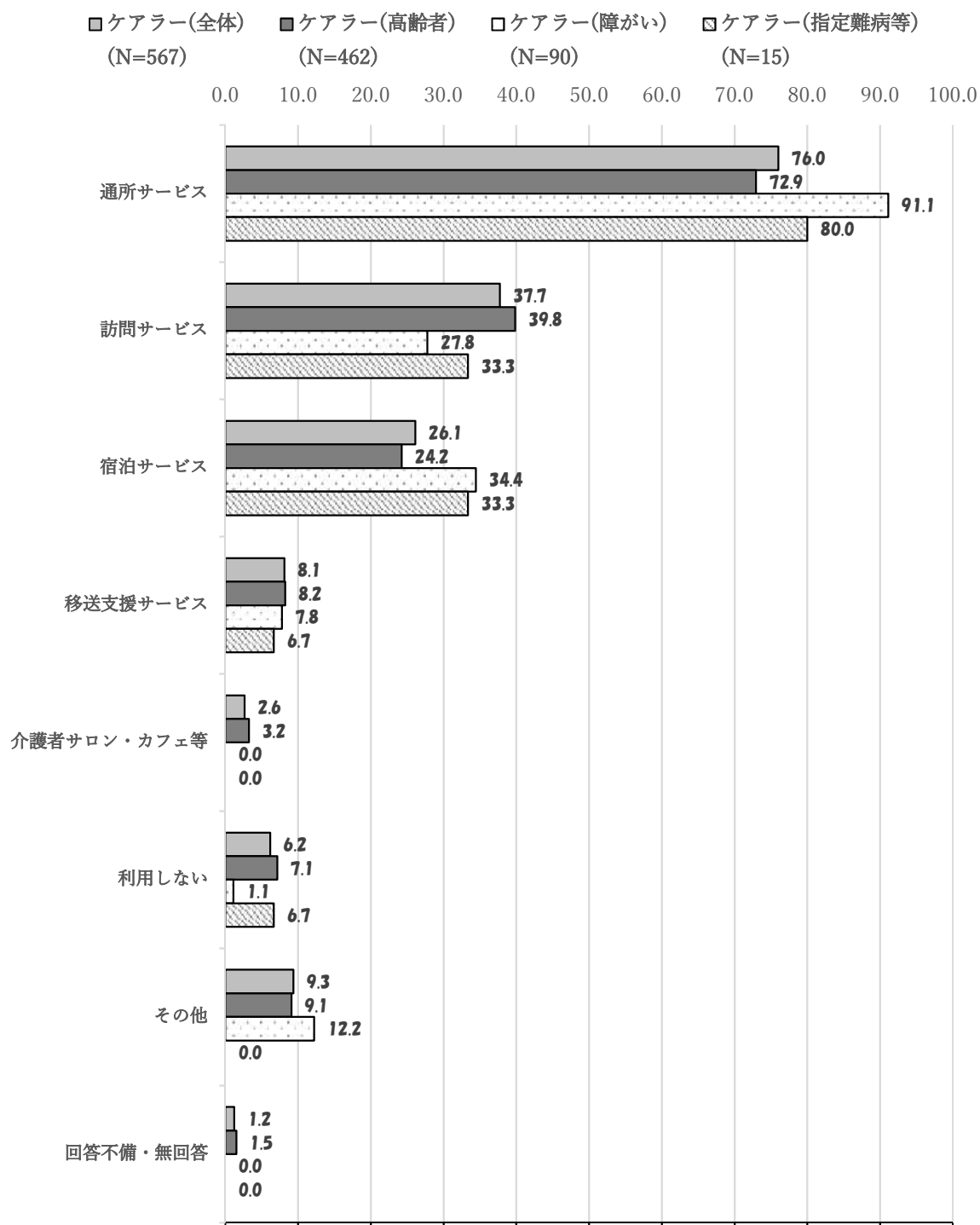
単位：％



質問 11 利用している（したことがある）サービスについて（複数回答）

ケアラー全体で、「通所サービス」と回答した割合が、76.0%で最も高く、ケアラー(高齢者)は72.9%、ケアラー(障がい)は91.1%、ケアラー(指定難病等)は80.0%である。

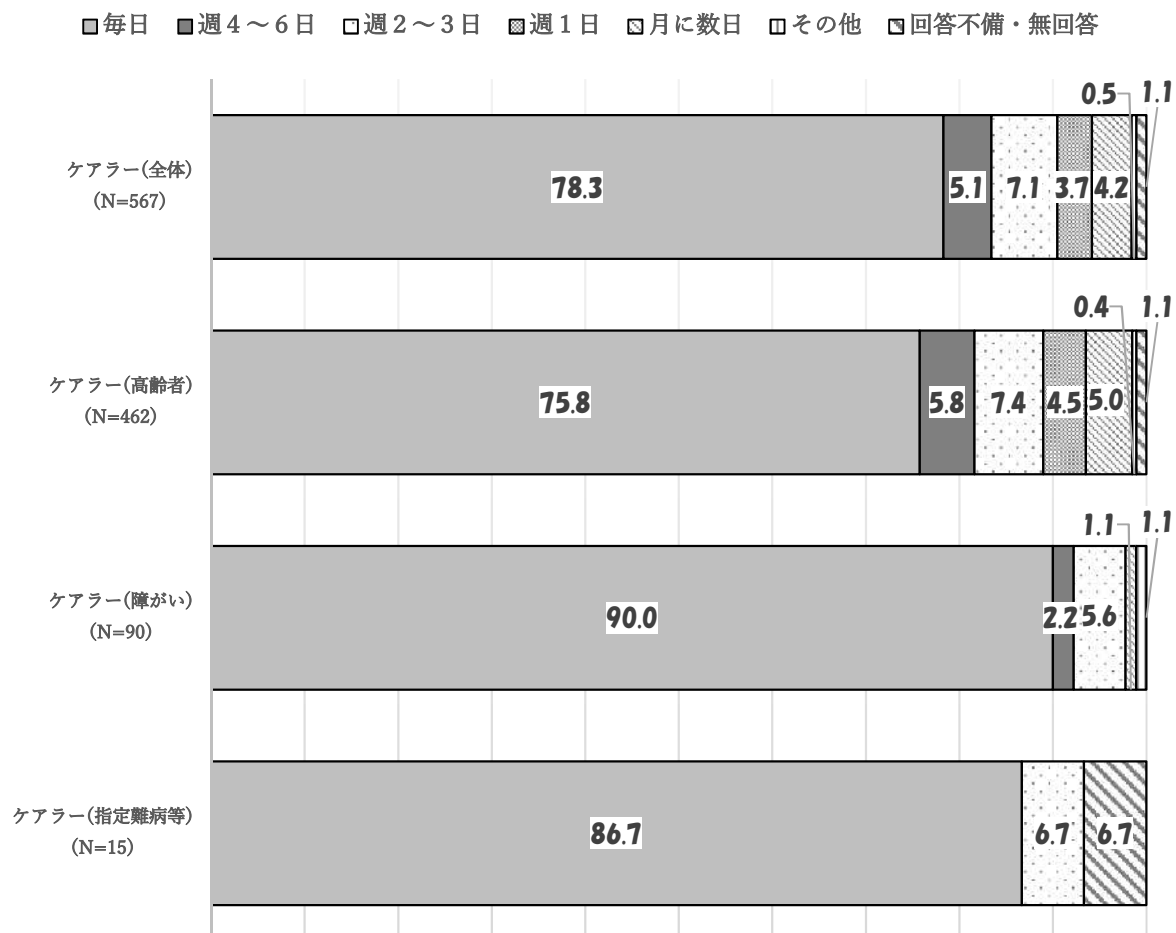
単位：%



質問 12 ケアをしている頻度について

ケアラー全体で、「毎日」と回答した割合が、78.3%で最も高く、ケアラー(高齢者)は75.8%、ケアラー(障がい)は90.0%、ケアラー(指定難病等)は86.7%である。

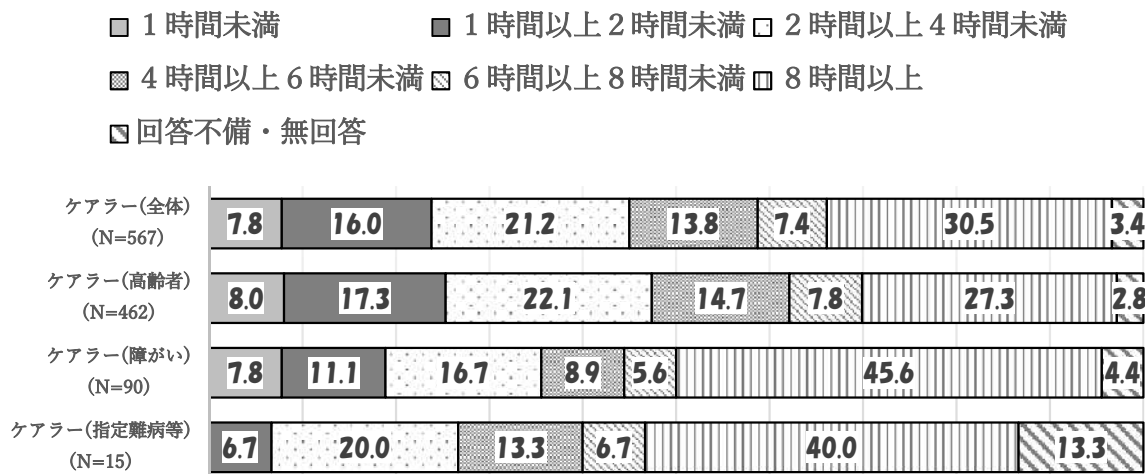
単位：%



質問 13 1日にケアをしている時間について

ケアラー全体で、「8時間以上」と回答した割合が、30.5%で最も高く、ケアラー(高齢者)は27.3%、ケアラー(障がい)は45.6%、ケアラー(指定難病等)は40.0%である。

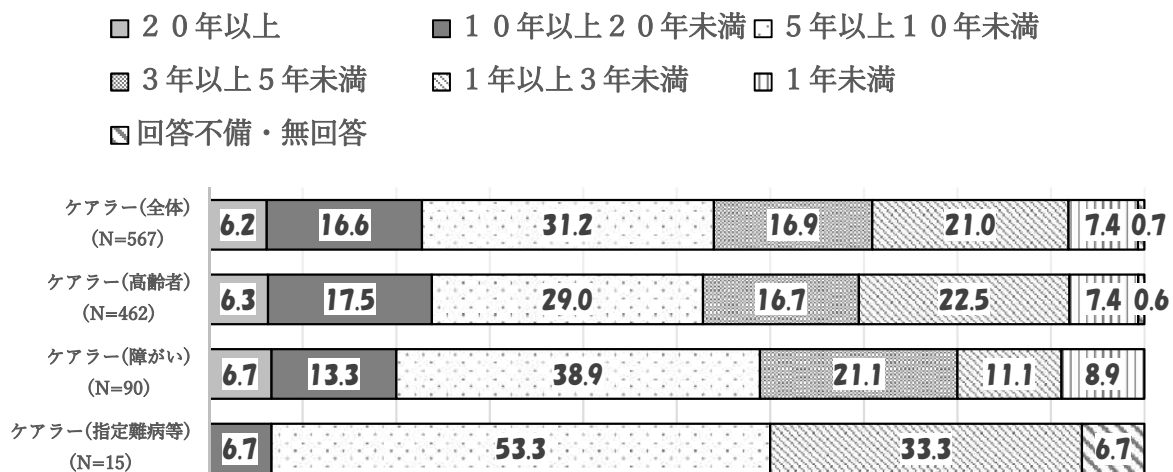
単位：％



質問 14 ケアをしている期間について

ケアラー全体で、「5年以上10年未満」と回答した割合が、31.2%で最も高く、ケアラー(高齢者)は29.0%、ケアラー(障がい)は38.9%、ケアラー(指定難病等)は53.3%である。

単位：％



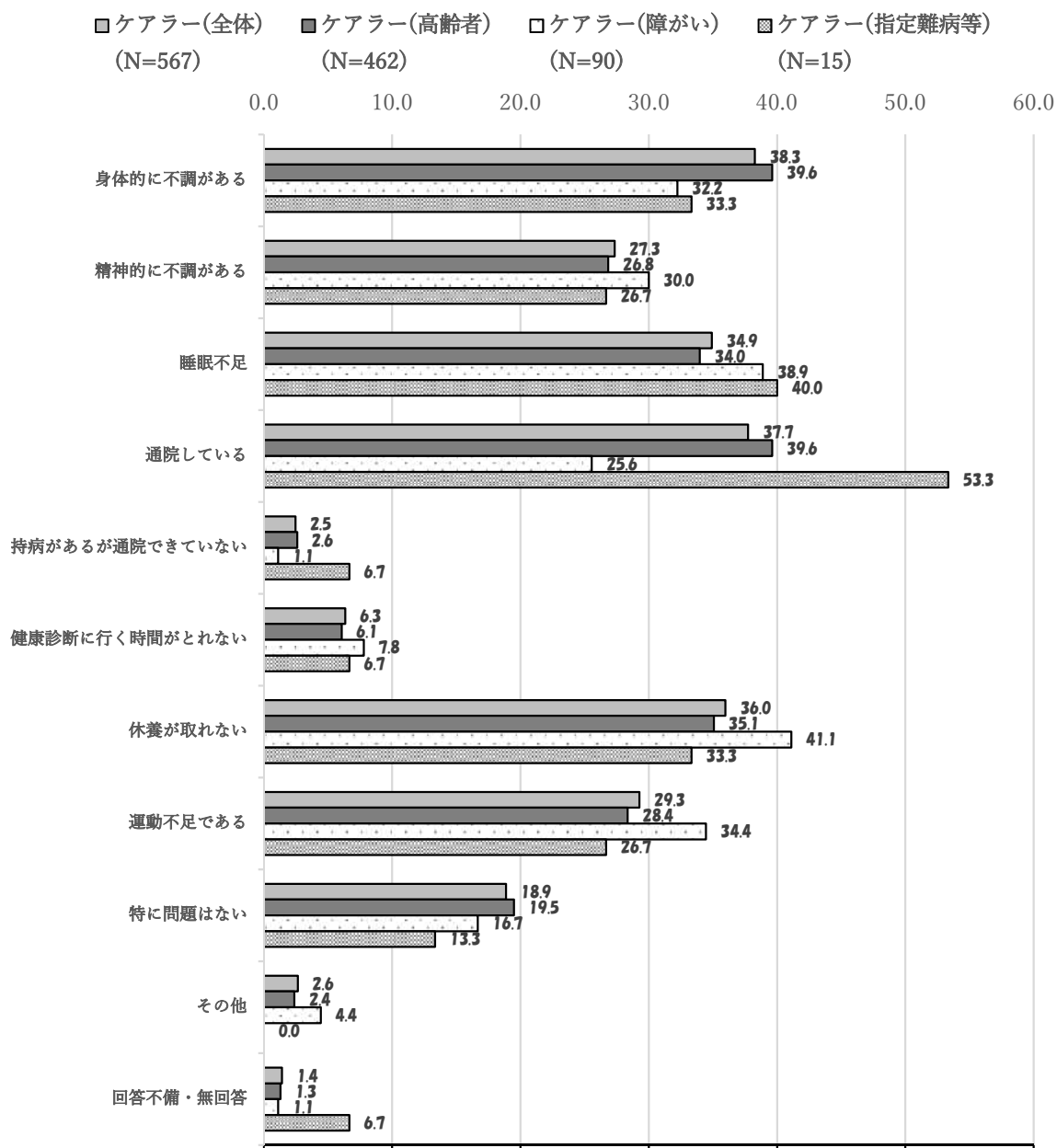
質問 15 健康や健康維持の状態について（複数回答）

ケアラー（高齢者）において、「身体的に不調がある」、「通院している」が39.6%で同率の割合で最も高い。

ケアラー（障がい）において、「休養が取れない」の割合が41.1%で最も高く、「睡眠不足」が38.9%、「運動不足」が34.4%の順で高い。

ケアラー（指定難病等）において、「通院している」の割合が53.3%で最も高く、「睡眠不足」が40.0%、「身体的に不調がある」「休養が取れない」が33.3%の順で高い。

単位：%

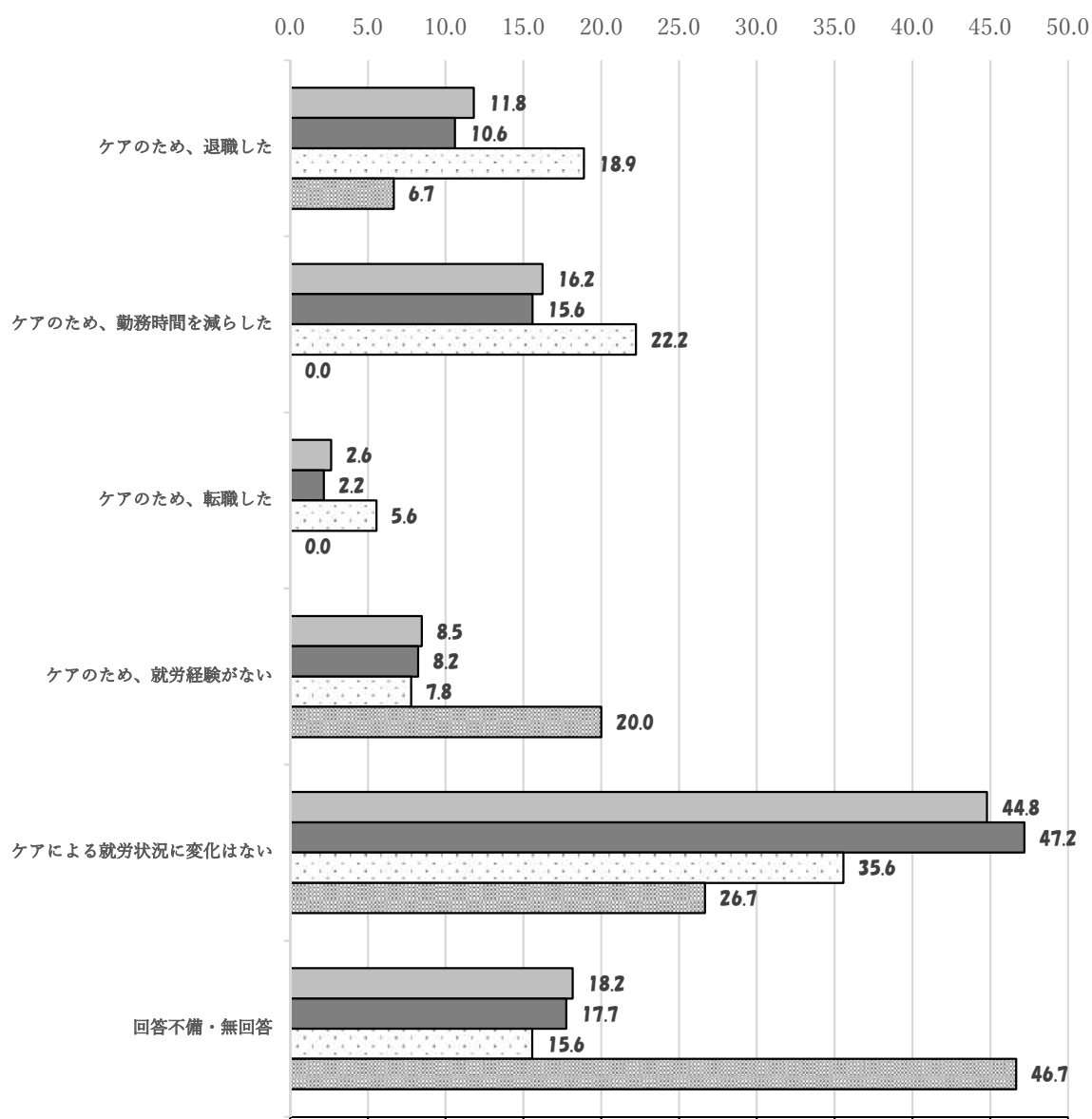


質問 16 ケアによる就労状況は変化について（複数回答）

ケアラー全体で、「ケアによる就労状況に変化はない」と回答した割合が、44.8%で最も高く、ケアラー(高齢者)は47.2%、ケアラー(障がい)は35.6%、ケアラー(指定難病等)は26.7%である。次いで、「ケアのため、勤務時間を減らした」「ケアのため退職した」の順で高く、ケアラー(障がい)では、2つの回答を合わせた割合が40%を超えている。

単位：％

■ ケアラー(全体) (N=567) ■ ケアラー(高齢者) (N=462) □ ケアラー(障がい) (N=90) ▨ ケアラー(指定難病等) (N=15)

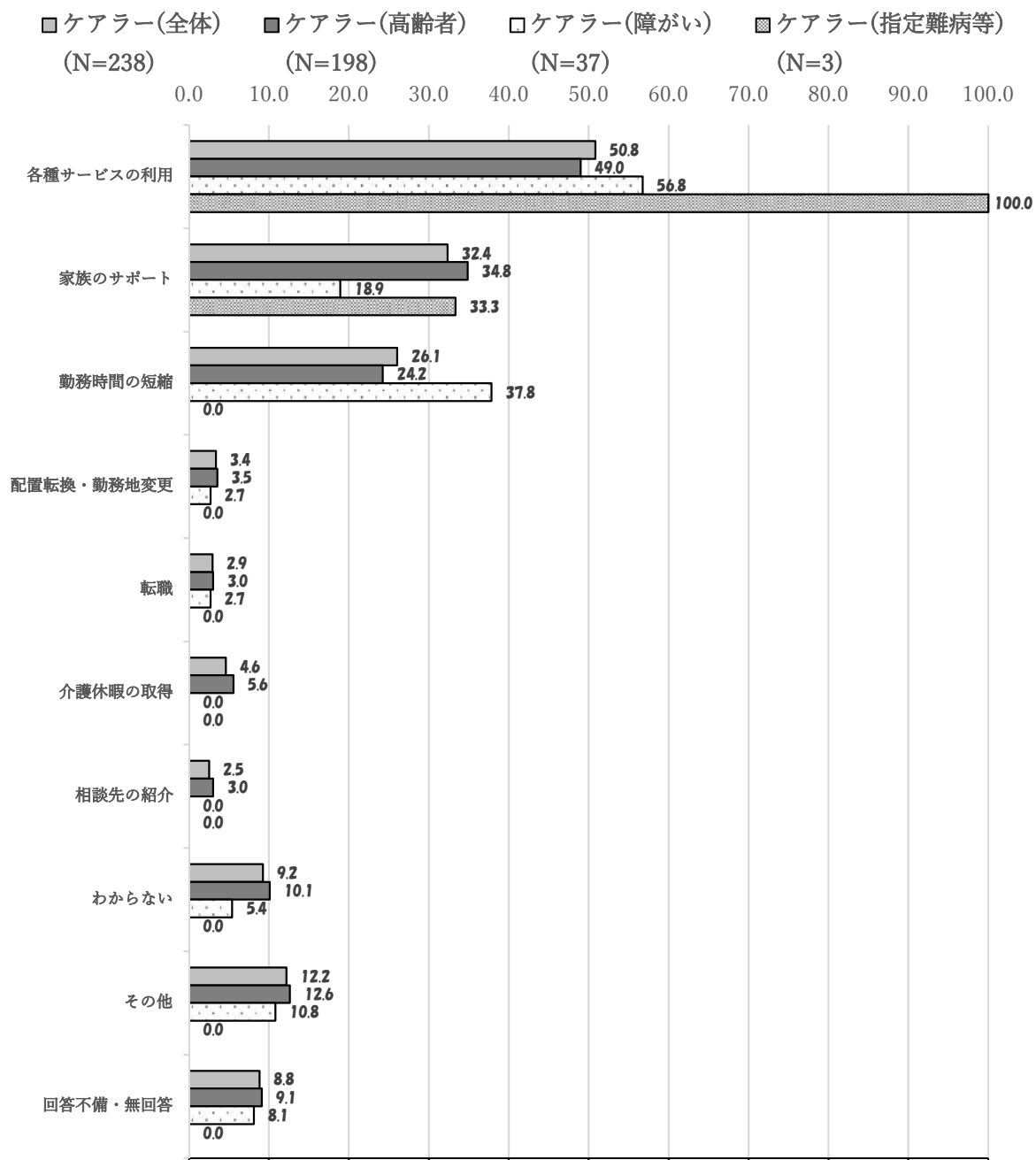


質問 17 就労を続けられている理由について（複数回答）

（質問 16 で【就労を続けている方のみ】）

質問 16 に関連して、ケアラー全体で「各種サービスの利用」と回答している割合が 50.8%で最も高く、ケアラー(高齢者)は 49.0%、ケアラー（障がい）は 56.8%、ケアラー(指定難病等)は 100.0%である。

単位：%

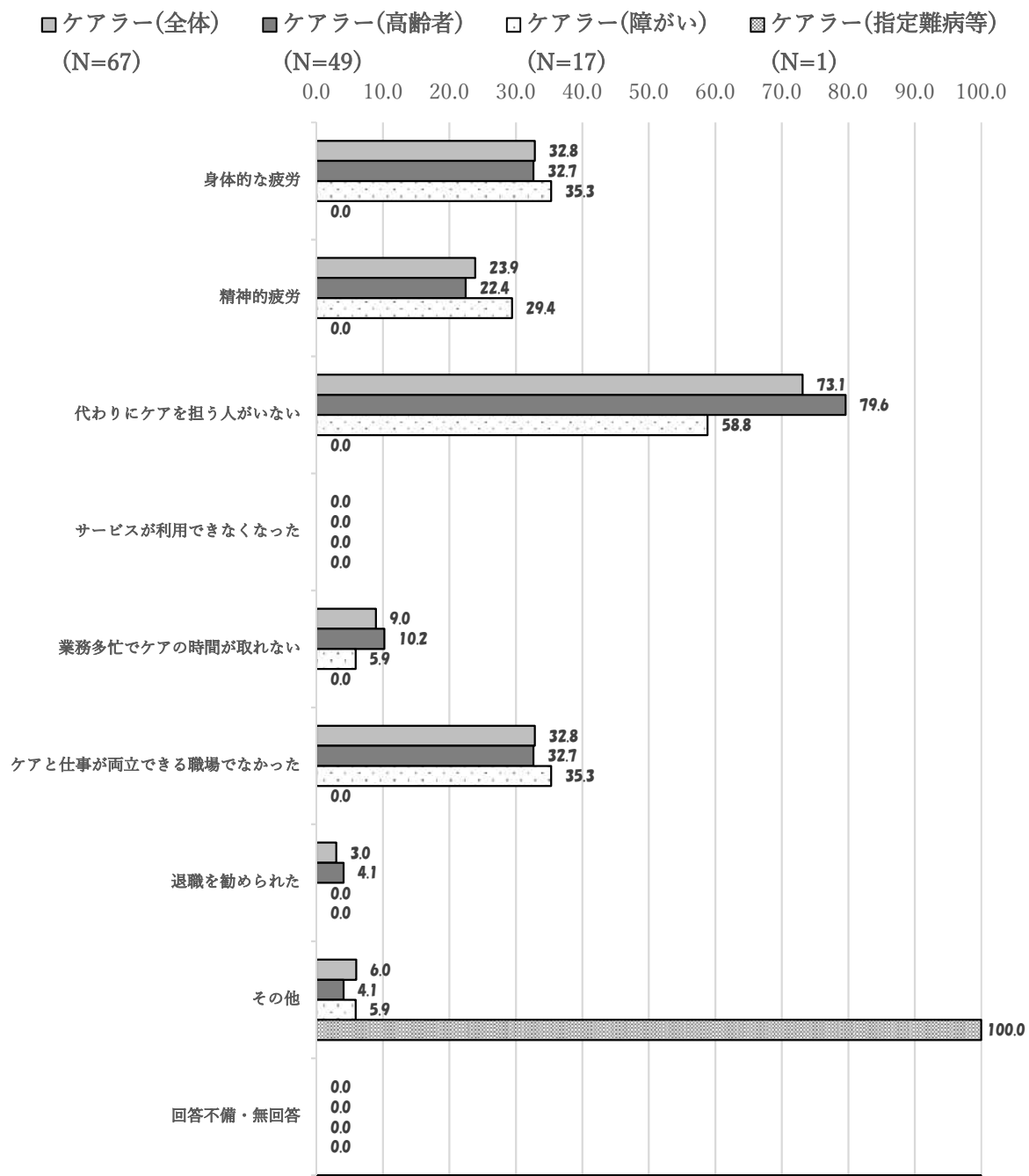


質問 18 ケアを機に退職した理由について（複数回答）

（質問 16 で【ケアを理由に退職した場合のみ】）

ケアラー全体で、「代わりにケアを担う人がいない」と回答した割合が、73.1%と最も高く、ケアラー(高齢者)は 79.6%、ケアラー(障がい)は 58.8%である。また、「身体的な疲労」、「ケアと仕事が両立できる職場でなかった」と回答した割合が次いで高い。

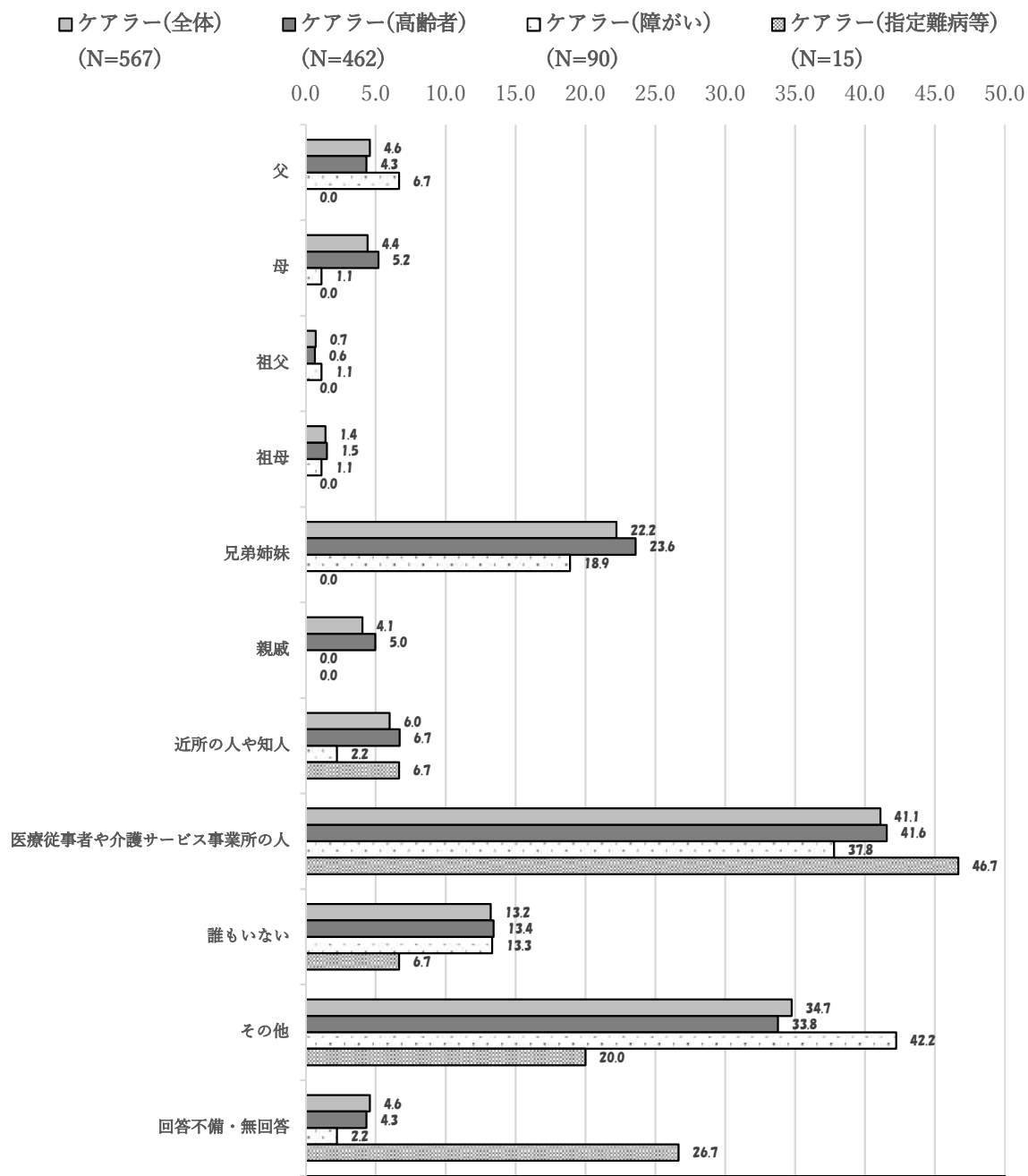
単位：%



質問 19 あなた(ケアラー)以外で、ケアに協力してくれる人について (複数回答)

ケアラー全体で、「医療従事者や介護サービス事業所の人」と回答した割合が、41.1%で最も高く、ケアラー(高齢者)は 41.6%、ケアラー(障がい)は 37.8%、ケアラー(指定難病等)は 46.7%である。また、ケアラー(高齢者)とケアラー(障がい)において、13%以上が「誰もいない」と回答している。

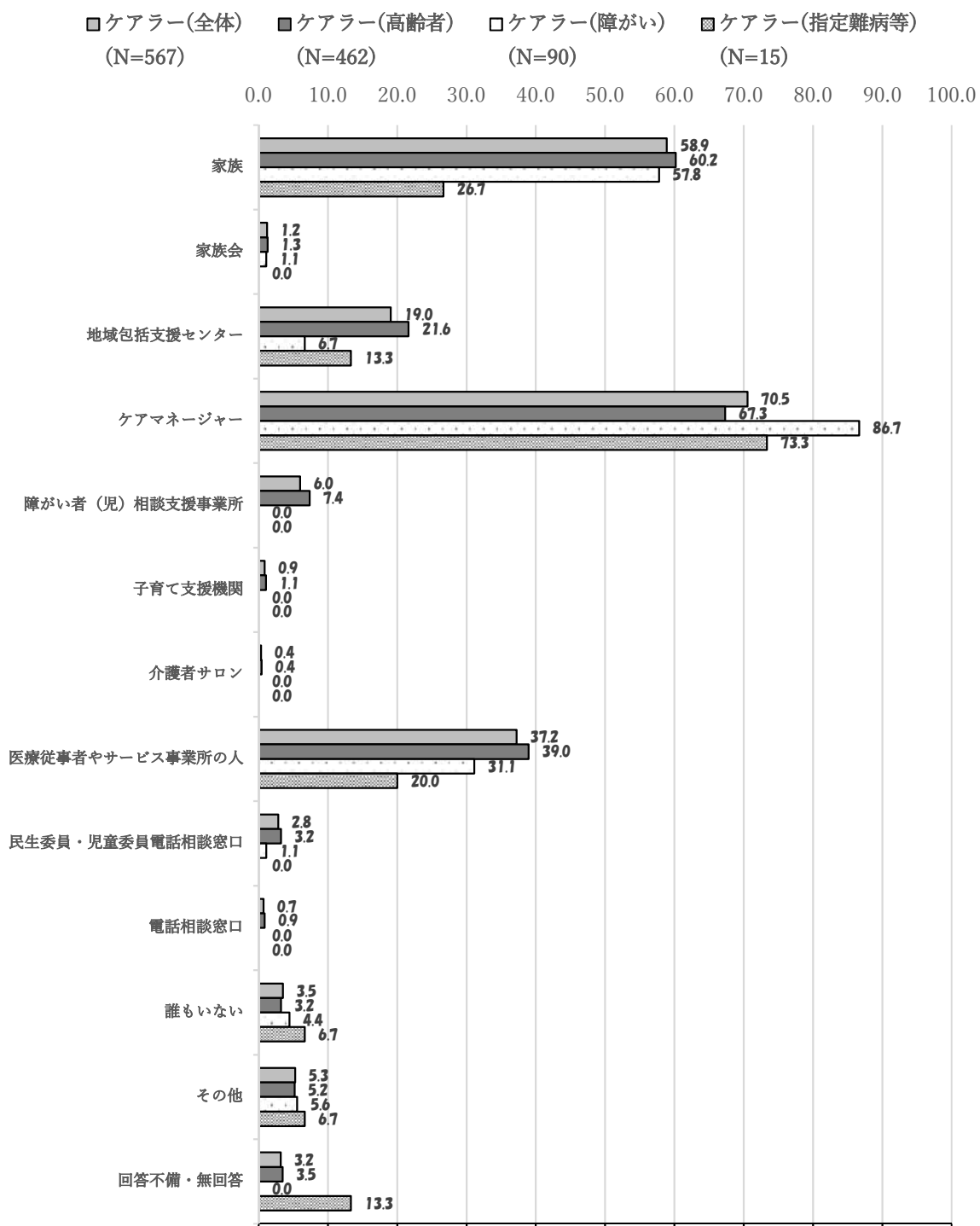
単位：%



質問 20 信頼して相談できる人・窓口・機関について（複数回答）

ケアラー全体で「ケアマネジャー」と回答した割合が、70.5%で最も高く、ケアラー(高齢者)は67.3%、ケアラー(障がい)は86.7%、ケアラー(指定難病等)は73.3%である。

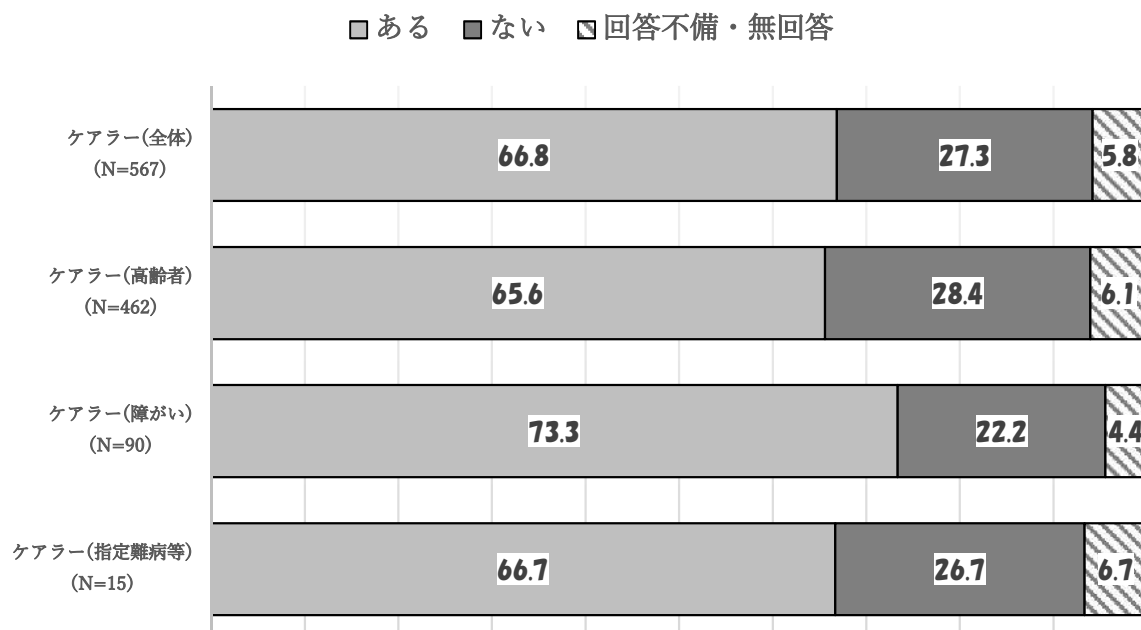
単位：%



**質問 21 ケアが原因でケアラーである自分自身の生活や人生について
何か悩みがありますか。**

ケアラー全体で、「ある」と回答した割合が、66.8%で最も高く、ケアラー(高齢者)は65.6%、ケアラー(障がい)は73.3%、ケアラー(指定難病等)は66.7%である。

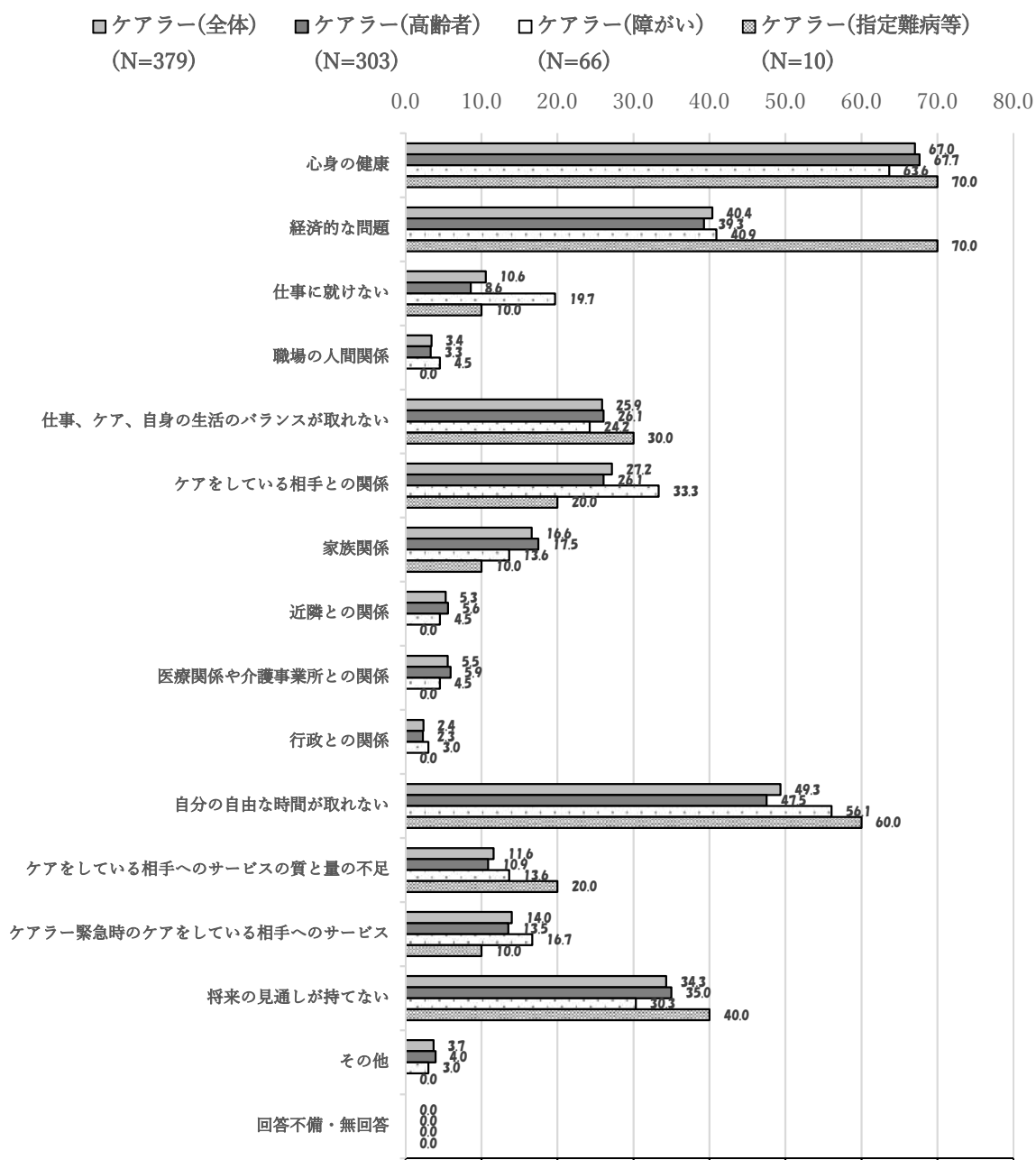
単位：％



質問 22 ご自身の生活や人生に関する悩みについて選んでください。(複数回答)
(質問 21 で「a.ある」をご回答した方のみ)

質問 21 に関連して、すべての区分で「心身の健康」、「経済的な問題」、「自分の自由な時間が取れない」と回答している割合が高い。「心身の健康」と回答した割合が、ケアラー(高齢者)は 67.7%、ケアラー(障がい)は 63.6%で最も高い。ケアラー(指定難病等)においては、「心身の健康」、「経済的な問題」の割合が同率 70.0%で最も高くなっている。

単位：%

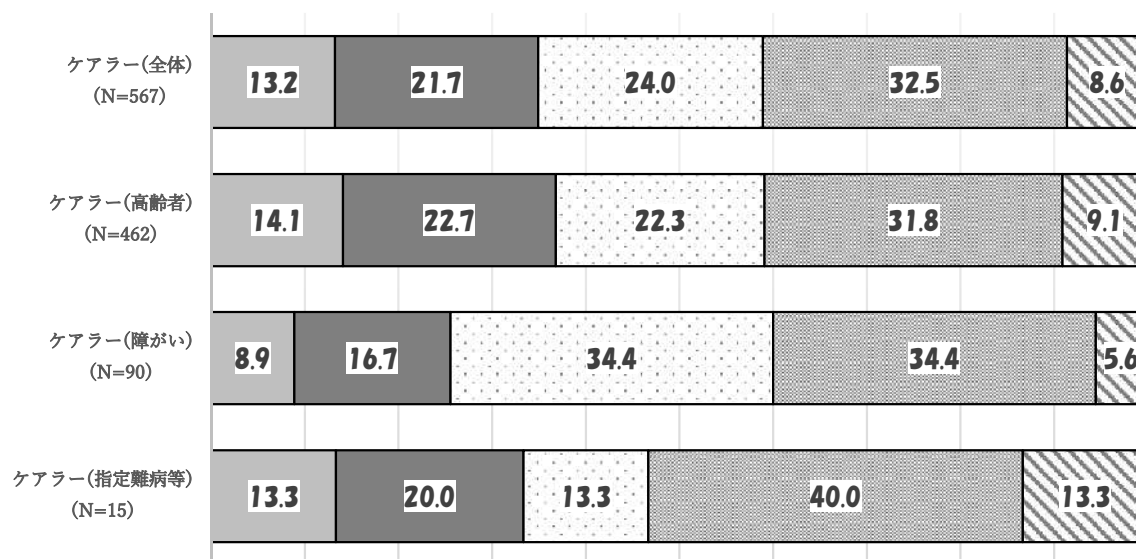


質問 23 もしもの場合、あなた(ケアラー)に代わってケアを担ってくれる人について

ケアラー全体で、「いない」と回答した割合が、32.5%で最も高く、ケアラー(高齢者)は31.8%、ケアラー(障がい)は34.4%、ケアラー(指定難病等)は40.0%である。また、ケアラー(障がい)においては、「頼めばいるが、頼みにくい」が「いない」と回答した割合が同率で高い。

単位：％

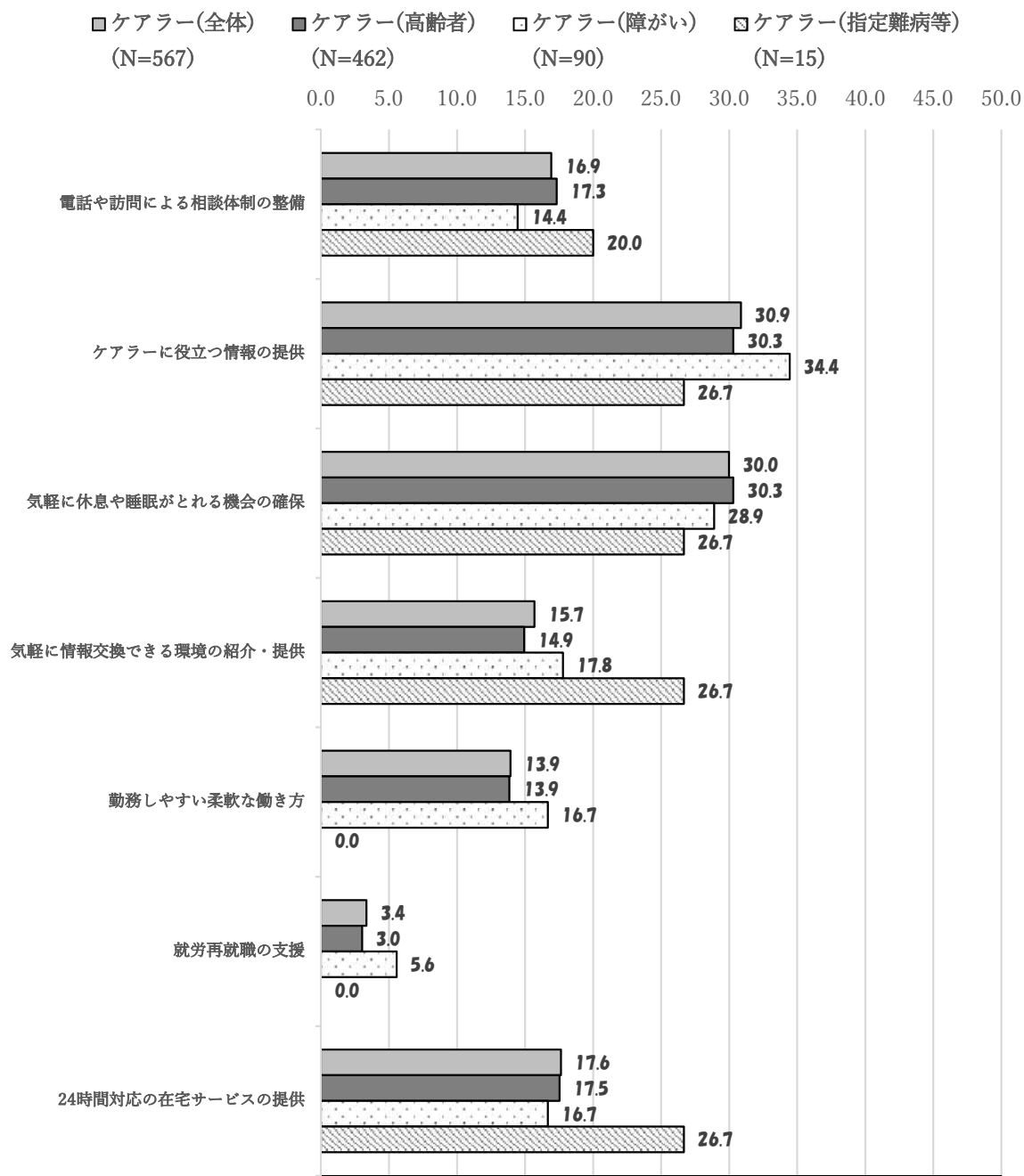
□ いる ■ 頼めばいる □ 頼めばいるが、頼みにくい ■ いない ▨ 回答不備・無回答



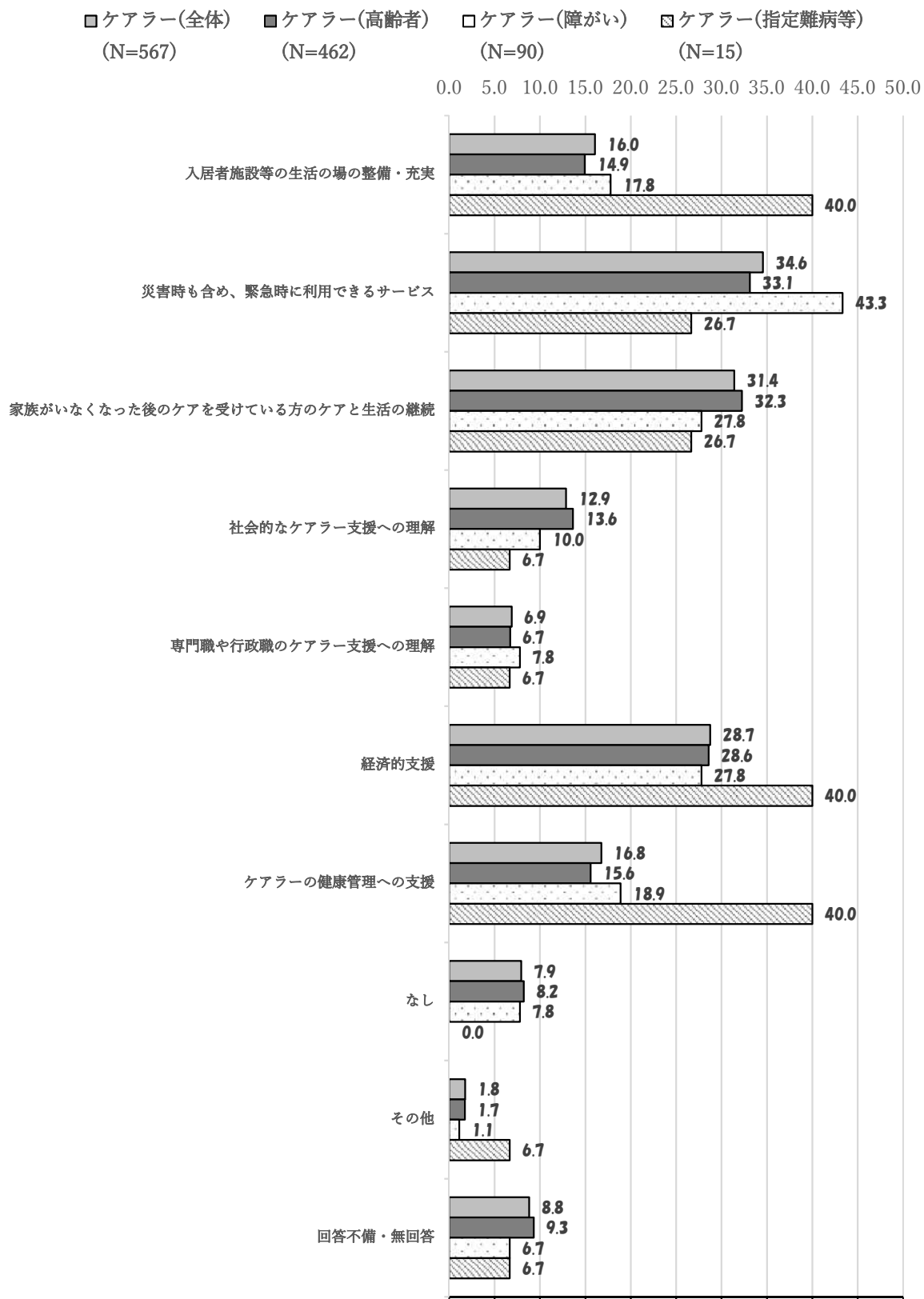
質問 24 あなた（ケアラー）ご自身に必要なと思われる支援はありますか。（複数回答）

「災害時も含め緊急時に利用できるサービス」と回答した割合が、ケアラー(高齢者)は、33.1%、ケアラー(障がい)は、43.3%で最も高い。ケアラー(指定難病等)においては、「入居者施設等の生活の場の整備・充実」、「経済的支援」、「ケアラーの健康管理への支援」と回答している割合が同率 40.0%で最も高い。

単位：％



※次頁に続く



質問 25 行政や関係機関に対する要望や意見がありましたらご回答ください。

<意見全文（原文のまま）>

1. まず先日の大雨の際、地面から 15 センチくらい水が来たとき、1 階で介護してるので 2 階に移動させようと越谷に住んでる知り合いが夜中向かってくれたが、来る途中の道が冠水していて来れなかった。数日で解決できることではないが、間違いなくこれから災害は起こる。その対策をお願いしたい。そして 24 時間対応できる訪問医療や訪問看護が少なすぎる。今利用してる訪問医療の事業所は 3 ヶ所目、訪看は 2 ヶ所目だが、24 時間対応するための人繰りができなくなったり、訪問医療を突然やめたり、カテーテルの交換ができない医者が来たり、理由は様々だが、今お願いしてるところが対応できなくなったら、もう選択肢は越谷にはないと思っている。おむつの支給、ないよりは少しでも支給されたほうがありがたいが、市によって毎月支給されているところもあるとのこと、数年前の情報なので変わってるかもしれませんが。痰の吸引用のカテーテル、人工鼻、ほかにも医療用のものがたくさん必要でお金がかかる。在宅介護している人の色々な負担や不安を軽減、解決してもらえるサービスが一つでも多くできることを望みます。
2. 支援の制度があっても、私に当てはまるものが何か見当がつかない。唯唯必死に頑張るのみです。自分が明日も元気でおれますように祈るだけ。
3. 発達障害の子どもが小、中学学校共、通常級に通っていますが、学校(教職員)の発達障害への理解が足りていないように感じます。合理的配慮という言葉の理解もなく、学校生活における支援は期待できません。生活面での困り事は、放課後等デイサービスに相談して家庭内で対応を模索し、学習面での支援は塾などに頼らざるを得ません。発達障害の特性を踏まえて学習指導をしてくれる塾は少なく、費用も割高です。通常級に在籍する発達障害児は十分なサポートを受けられていません。服薬していますが、高校生からは医療費の負担もあるため、通院、薬代などの負担が増える事も心配です。医療費無償化をせめて 18 歳まで延ばしてほしいです。
4. ケアマネと介護事業所担当者との関係が近すぎる例をよく見るため、行政でも同様なのではと思うと相談をする気にもなれない。
5. ケアラーが必要な支援や情報発信の場所が遠くて行けない
6. よく支援して頂いてると思います。けれどこの先を考えると不安です。
7. フルタイムで仕事できるように、放課後デイサービスの時間、夏休みなどの時間延ばしてほしい。10 時から 16 時では、フルタイムは、無理。
8. 患者に対しての定期的な訪問、相談。
9. 義母は貯蓄がなく、国民年金のみなので私達のお金を切り崩して介護をしています。自分達の老後考えた時、子供達に金銭面で迷惑をかけたくないのですが、どうなるかわからず心配です。子育て支援等、今ほど手厚くない世代でしたので、何かと子育て支援の方でお金を使われていることに疑問を感じます。自分達の生活も

あるケアラーのことも考えて頂けると幸いです。

10. 自分の人生を犠牲にして、親の人生の失敗の尻拭いをずっとさせられて生きてます。貯金なし年金なしの親が作った借金も肩代わりして返済し、親が生きてくのに必要な税金や生活費全て負担して面倒みてるので、私の人生で親に使ってきた金額はもう 1000 万円越えてます。私におんぶに抱っこで私に異常なまでに依存して生きてる母親は自分では努力も何もしないやってもらうのが当たり前な性根の腐った人でなしなので、口答え反抗逆ギレは当たり前で「あんたにお礼なんて言いたくない」「(お願い事あっても)あんたに頭なんて死んでもさげたくない」「あんたを育てるのに 2000 万は使ったからチャラでしょ」「親なのにこんな雑な扱いされて私ってなんて可哀想」「この家は私の家だ、面倒みたくないならあんたがこの家出ていってよ」etc…母親から浴びせられる理不尽な言葉の数々にも母親には手を出さない様に壁を殴ったりして自分の体を痛めつけながら理性で怒りを押し留める毎日…母親は「100 まで生きるからよろしく」と言っていますが、あと 20 年もこんな生活が続くのか…と思うと吐き気がしてきます。私が母親を見捨てて出ていったら無一文でどうやって生活していくのかと問えば反ってきた答えは「死ぬしかないな」…何故、親子というだけでこんな自己中心的な気違いな母親を面倒みなければいけないんでしょうか？親子って何ですか？因みに、母親はもし家売ったらその金で施設入るから私には 1 円も渡さないそうです。

私自身、もう生きる意味も希望も見いだせずに早くこの生活から世界から解放されたい早く死にたいと思います願いながら生きてます。殺人も自殺も絶対やってはいけない事なのはわかってるので、母親ではなく私を病院とかで薬で安楽死させて欲しいです。

11. 将来的に施設などに母を入居させることになると考えており、どのような時がそのタイミングなのか、実際にどうしたらいいのか、漠然とした不安を抱えています。なにか指針になるような情報に触れられる機会があれば、と思います。
12. 要介護 1、身体障害者 1 級では、介護保険でベットサイドのテーブルもなくベッド本体しか借りられず使い難い。通所介護施設は同じ施設に毎週定時に通う必要があり、体調が安定してない人には無理。体調が良い時に単発的に連れて行き利用出来るリハビリ運動施設や、下着などの買物補助、在宅入浴ケアサービスなどがあると助かる。また、個別に事前契約をしなくても、介護保険証を見せればどこの空いているショートステイ施設でも利用できるサービスにして頂けると助かります。
13. そんなに毎年変化ないのに、放課後デイサービス更新のたびに沢山の書類を書かされること。時間がかかる。他の市から比べて面倒。都内の病院に通っているので、次の月にいちいち行政に行かなくてはならない。
ハンコレスなのに、ハンコ必要なのか意味不明。川口市は当月中でもポストが支所にあり時間内なら確認せず受け付けてくれた。なぜ翌月以降じゃないと駄目なのか、いちいち書類の確認と意味がわからない。これにも時間取られ、時間が取られ

る。無駄なことが越谷に引越ししてきて、多くなった。

14. ・小児慢性の更新を毎年じゃなくしてほしい。慢性ですし、毎年の更新がとても負担です。
 - ・オムツの申請を一度に半年分できるようにしてほしい。
 - ・選挙に行けないので、ケアラーはネットなどでできるようにしてほしい。
 - ・児童扶養手当などの申請も、全介護で外に出る時間が中々とれないので郵送で可能にほしい。
15. 支援機関（料金、時間）が少ない。条件制限をなくして欲しい。
16. 勇気を出して相談に行ったが専門的な事を言われてもわからず、もっとわかりやすく説明をして貰わないと初回で無理だと思い断念してしまう。
相談をしに来た方の立場になって助言をして欲しい。
申請手続きをもっと簡単にしたい。
17. 重度の障害者に対しては、金銭的な色々な対応はあるけど、軽度の障害に対しては、対応してくれない事が多いと思うので、色々な障害者がいる事をもっと把握してもらいたい。
18. 本人の意思もあり、色々なサービス等の利用ができない場合があります。
嫁の仕事として、協力しない子供達に感じる不安も処理できない所など、他人に話をする事ができない部分があり対応は、大変だと思います。
19. ケアマネージャーさんはとても良くしてくれてます。これ以上仕事を増やさないであげて下さい。ケアラーは国の問題です。行政で対応すべき。ケアマネージャーに押し付けないでください。
20. 訪問医療の医師、介護士、看護師、ケアマネージャーの方々には本当によくしてもらっています。私を助けて下さるこの方々を見ると、彼らのきつい仕事をもっと経済的にも報われるように願って止みません。それが私たちケアラーにも反映すると思います。
21. 障がい者を一人でみながら仕事をするのは無理です。行政が障がい者の力にもっとなって下さい。
22. 自宅での介護が限界になった時の老人ホームの費用が不安になります。母の年金は少ないので、費用がとても気になります。
23. 現行では完全同居の場合の家事援助は介護保険で認められていないが、同居の方が介護の中で追い詰められることが多い。一緒にいる者の制止や助言を聞き入れなくなる傾向があるので、ヘルパーさんに入ってもらうことは必須。ショートステイの他に在宅で家事援助(完全同居も含む)に24時間対応してもらえるのであれば、慣れている自宅です。完全同居の介護者にこそ、家事援助サービスが必要と考えられる。よろしくお願い致します。
24. ・少子化対策について政策に重きを置いていることへの不満。
 - ・高齢者のケアラーに対しての支援があまりにもないと思う。

- ・リハビリパンツ、パッド等購入に対しての支援がない。
 - ・昨年まであったタクシー券廃止。
 - ・ケアのため仕事を休んでも補償がない。
 - ・ケアラーに対して、身心のケアがない。
 - ・越谷市議に相談しても無知で話にならない。無関心。
 - ・身心の安らぎを求めて、ショートステイ等利用したいが、1回1万円もかかるので経済的に無理。
 - ・睡眠不足で仕事を辞めたいが生活できない。
- こんな日本に誰がした。自分の親が早く死んだ方が幸せと考えることが情けない。
25.
 - ・ファミリーサポートを年齢制限なく利用したい。
 - ・グループホームを増やしてほしい。
 - ・就労先、給与、補助金を増やしてほしい。
 - ・生活サポートの時間、デイサービスの日数を増やしてほしい。
 26. 社会問題となっているヤングケアラーについては、我々のような老老介護とは別に
して(異なる視点で)検証したほうがよい。若い方々へのマイナス面及びプラス面も
活かす前向きな施策(システム)ができないものか?高齢者においては、先行きの安
心感が持てる気力が維持できると感じます。
 27. 主人介護1 私支援1 をもらっており、支援センターの方、社協さんの方、相談にの
ってよくしてもらっています。有難いと思っています。これからもよろしくどう
ぞ。
 28. 福祉課の担当者1~3年おきに引き継ぎ変わられる不安感。支給量いただいても人材
不足で、やっと1人前かと思うと、やめるといったケース。増々ケアが困難になる
中、それに対応できるヘルパーが60代70代近くなり不安を感じる。それが疲れの
原因、不安材料でもある。行政又関係者様方には、とてもよく支援いただき感謝致
しております。
 29. 高齢により自家用車を手離しました。ケアを受けているものが毎週病院通いをしな
ければならず、バスを乗り継ぎ、バス停からも病院まで歩かねばならず、雨の日は
往復タクシーを利用しています。車の免許返納した人には、タクシー割引券でも出
していただければ大変助かります。
 30. 高齢者が短期間の入院で認知症が進んでしまうというのは、病院の体制に問題があ
るのでは…。
要介護認定1と3では利用できるサービスの質や介護用品レンタルでの料金の差な
ど介護保険料を一律で払っているのに不自然。
 31. 介護、認定度調査会議に於して介護度が、決定されるに当たり、介護に出席、参加さ
れ審査する人により、介護認定が違ってしまいうようで、もっと公平性を保たれた市
の対応であって欲しいです。
 32.
 - ・医療的ケアを行っている。先日の災害時に、酸素のバッテリーや喀痰吸引の電源

などあり、停電が怖かった。何かあっても救急車が呼べないと怖い。

・両親が何かあった時、この子の生活はどうなるのか、時々、心配で両親で話合う。

・働きたい気持ちがあるが、現状の支援、子どもの状態ではむずかしい。また、自分（ケアラーである母）自身の、支援をする中で体力的なこともあり、仕事はムズかしい。

・ケアラーの母親が、今度ガン手術する。本児のSSは中川の郷で拒られ、カリヨンの社につながるには診察等時間が必要であり、ショートステイにつながっていない。そのため、母のopに立ち会うことムズかしい。こんな時に対応してもらえると助かる。

33. 脳梗塞を発症し、経度のマヒが残った父と、加齢・糖尿病の影響・転倒による骨折などのため、ほとんど自力歩行できず主として寝てすごしている母を同時介護しています。日常的には、通所サービスの利用等でなんとか生活が回っていますが、自分自身が体調を崩したりした時の両親の生活維持が一番の心配です。緊急で利用できる宿泊サービスがあると助かります。また、両親とも動きが不自由なため、大雨災害時の避難所が、もっと早い時点で利用できるようになり、かつ、車イス両者でも安心して過ごせるような設備（トイレ・手すり付きベットなど）があるところではないと、避難することが不可能です。行政の尽力を期待してます。
34. ここ数年コロナ禍でショートステイを注視していた施設もありましたが 2 種から 5 種になり、少しずつ施設利用の面でも、受け入れが緩和されてきたのでしょうか？ ケアマネージャーさん等を通してでも、市内の施設の現状をまとめ、知らせて欲しい。
35. 私自身の生活についてはほぼ安定しており、問題ない。このアンケートが届けられるケアラーは各々問題はあるかもしれないが、行政が把握できている人達なのだろうと考える。ケアラーである事に気づかずにいる人々や、独自で支援が受けられる事を知らない人々が多数いるのではないかと思う。そのような状態にある人々に必要な支援を届けられる目配りをして欲しい。
36. ケアラーの緊急時の預け先の不足。（短期入所）親なき後、入所施設に空きが無い。グループホームは重度の障がい者は断られるのでいつまで介護出来るか不安になります。
37. ・老・老介護なので、気軽に預けられる場所が欲しい。
・ショートステイも、手続き等、面倒くさい。
・水害の時、身体の不自由な親の避難ができず、非常に困った。水が家に入ってきたからの避難は無理。高齢者だけでも、色々なセンターに早くから避難させて欲しい。
38. 8 年前に義父を看取りました。（この時は義母が主なケアラー）4 年 7 か月、実母（認知症）実夫（脳梗塞後マヒ）を終 2 回三郷の実家まで通っていましたが昨日父

が母（2 年前）と同じ施設に入所し、楽になりました。経験を活かし義母のケアをしていきます。

39. 障がい者への支援金不足本当に不安でならない。ケアラー（自分）が高齢のため死んだ後のケアの充実を願いたい。娘への負担を思うと眠れない。
40. 両親 2 人が実家で生活しています。ご近所さんのご理解、ケアマネさんはじめ協力して下さる方々、足が痛み少しずつ自分もケアが必要になっている父が、長年、母のことをみてくれていて、私も自分の家族に助けてもらいながらサポートしています。兄弟家族も協力したい気持ちがあっても時間的に難しいので、結局自分がやることになります。今後、父がもし倒れたらどうする？不安はあげたらきりがありません。国民、市民が、もしもの時、安心してできるような経済的、マンパワー的にも力強いサポートを期待します。また、ケアラーが社会から取り残されないような、ケアされている人への理解もより望みます。現在も入院していますが、2 人が慣れ親しんだ越谷で生活させていただいていることに深く感謝しています。ありがとうございます。
41. 物価が上がっても生活保護費は上がらないので経済的支援があるとすごくたすかります。電気代はエアコンを消すことができないので高いです。
42. ・介護が急に必要になり、家の中の改修などにかなり費用がかかったが介護保険しかなかった。20 万のうち 1 割引かれる。（意味が分からない）
 - ・条件が厳しすぎて、支給してもらえないことが多い。
 - ・税金高い。
43. 自分が 60 代になり、子供が 30 代になるとこれから先の子供のことを考えたとき、入所というのは必ず必要となる時が来ると思いますが、現状入所先はとて少なく（子供は全介助が必要な寝たきり状態、言葉も話せないのでコミュニケーションも取りにくい）近くで話すのは難しいと思います。老人のグループホームや施設はたくさんあるのに障がい者（若年）とは壁があるようでそちらにお世話になるということも難しいと聞いています。老いた先、子供の面倒が見られなくなった時、安心して任せられる場所をたくさん提供してほしいというのはどの親も共通の大きな問題だと思います。
44. 私自身が入院しなければならない時にあずかってくれる場所があれば良いと思っています。
45. ・申請手続等、本人だけの判断では困難。簡素化してもらえると助かる。（例、住民税の申告など）
 - ・介護者の心身の状況を受け止め、適切な助言を受けられる窓口の設置。
 - ・同じく経済的軽減。
46. ケアラーはとても自己犠牲をはらってケアしている。権利、権限を奪われていると思う。自分で発信しないと社会はそれに気づかず、気づいたとしても見て見ぬふり、自分には関係ないことで済ましていると思う。当事者になってみればわかりま

す、そのつらさが。

47. 介助がないと生活できないのに、自分の状況を理解できないまま退院してきてしまったので、仕事に行くことができなくなってやめざるおえなくなりました。突然収入ゼロになってしまいました。その状況から 3 か月たちデイサービスにも行くようになったのですが、今度自分が 59 歳になってしまったのでなかなか採用してもらえるところがありません。仕事が見つかるまで国で補助してほしいです。光熱費、生活費、助けてほしいです。
48. もし私に何かあった時、子どもがヤングケアラーになる可能性が高くとても不安です。そのような時に行政の支援がしっかりしてくれていると助かります。
49. 介護をしている人の通院で車を持っていない為、毎回タクシーを使っているのですがタクシーにかかる料金が大変です。診察代は安いですが。
50. 主人が歩くにもヨタヨタしていて病院へ行くにもタクシーでないと行けないのです。八間の方では介護でもタクシー券が出ています。越谷はどうしてタクシー券が出ないのですか。今に病院へ行きたくても行けなくなります。生活が大変です。年金から色々引かれるのにクーラーも使えないです。
51. いろいろな書類関係が難しい。
52. 短期間に脳疾患を 2 度も患い、両足が不自由になって行動範囲が狭く、人との交流も少なくなってきました。介護度により利用施設数も限りがあるので自宅に居る事が多くなりました。無料で利用できる交通手段・交流できる場所が増えると有難いです。
53. ケアラー支援の人が高齢化等で増えていくと思いますが、予算とか限りがあると思いますので地域で工夫して協力していければと思います。
54. ひと昔からすると格段に状況は良くなっています。感謝しております。障がい者はかなり良いですが、老人のケアはまだまだです。認知でもないが身体に少しケアが必要な母がいるので 2 人の通院が細々した事が積み重なり大変さを感じます。今はパートの職場の調整で仕事してますが、2 人のケアがなければもっと仕事も選べるし、やりたい事もできるのに…と思うこともあります。もう長年このようにくらしているのにすっかり慣れてしまっているのでも今はさほど不自由はないですが、この先は非常に心配です。
55. 申請書類の準備が大変。(難病)
56. 相談しやすい環境を作してほしい。
57. 地域包括支援センターは話を聞くが敷居が高い。
58. 70 才を過ぎ自分自身もつかれやすく、自由な時間好きな事をする時間が取れず先行不安になる。
59. 種類の文字が小さいので大きくしてほしい。ケアラー高齢者が多いです。
60. 要介護者が認知症ではなく老人性のうつ病であり、ケアラーとして情報交換のでき

る場が少ない気がします。訪問看護師さんやケアマネジャーさんには相談にのってもらっていますが、要介護者のケアに対する拒否が強く、つらい日々が続いています。私たち夫婦(ケアラー)がうつにならないようにと思いながら日々を過ごしているところです。「老人のうつ病」を介護する家族の会があれば嬉しいです。

61. 何時もお世話になっています。ケアをしていて、精神的に疲れた時、短期で機関の利用し(公共の宿泊の施設等が)があればと思います。現在では施設の利用者は、要支援・要介護の認定を受けている人のみですね…
62. 今、利用しているデイサービスでは昼食と夕食がついています。(デイサービスひまわり)夕食まで済ませて帰ってくれることは、介護者にとって大変助かることです。そういう事業所が増えるとありがたい人はたくさんいると思います。今は少ないと思います。行政として増えるような働きかけ、仕組作りはできないでしょうか。
63. デイサービスの空き情報を公開できないでしょうか？待ち日数がかなり不便です。
64. 自分の親(母親)のケアをしているが、外出などで家を出ているときは子供にケアをお願いする。ヤングケアラーと言われてしまうとお願いしても良いものなのだろうかと考えてしまう事がある。
65. 両親(父は越谷で同居、母は実家のある青森で施設)2人の介護をしているので、母のこちらへの移住(施設移動)についての、相談したいと思います。ケアラーが(ひとりっ子)ひとりなので、もしもの時が心配です。
66. ケアラーという言葉聞くようになりましたが、さらに社会全体が関心をもってくれるようになったら、精神的にも楽になります。
67. 経済的支援について、子供や高齢者は充実しているが、50代では、あまり支援を受けられないように感じます。行政に頼らず自分たちでなんとかしろということなのだろうか。
68. 年々介護に関わる事での金額の負担が増えてきている。介護される人が多くなっていくこと、先、制度がよくなるはずがない。子供の事ばかりで年よりの事はみて見ぬふりだろう。実態調査をして、何してくれるのか？何も変わらないだろう。何か変えることなんてできるわけない。
69. ・頼れない。
 - ・窓口あっても何も頼りにならない。
 - ・行政対応不親切。
 - ・対応が遅い→片親の案内などなかった。
 - ・手続きに手間がかかりすぎる。各サービスの申請は年に1回まとめて申請できるように工夫してほしい。親が毎回休み、行くのは大変→就職もしにくくなっている原因。
70. まだ始まったばかりの為、何が必要かわからないので今のところまだ意見がありません。
71. 質問9でケアをしている相手の状況とありました。質問22と関係ありますが、ケ

アには病院が必要です。都内の総合病院に20年通院しています。複数の科を受診しており、ケア、ケアラー共に、年齢・身体的に通院がとても大変な状況です。越谷の総合病院に転院を考えていますが病院がありません。市立病院は、親の診療では誤診され、結局、都内の総合病院へ。附属病院では、1日で複数科の診療はむずかしい。誠和病院は以前、入院すると生きて帰れない病院と言われ、新しい建物になってからは少しずつ印象が変わってきていますが、拘束が多い病院です。どの病院も評判は???でも見てもらえないよりかわ良いとの声になります。

利用している介護施設より病院に連れて行くように言われても、自家用車のない家は都内の病院に連れていくことはむずかしい。個人クリニックが増えることはうれしいですが、高齢者は複数科利用するほうがおおいです。同じ病院であれば、お薬手帳より、薬。カルテお医者様は便利なはず、一括管理できます。

第1はケアされる人が、動きやすく、身体への負担が少なく、ケアラーも手間がかからなくなります。順天堂もまだ数年先で、浦和です。越谷に400床位の地域医療支援病院を是非お願いします。私の世代には、間に合わないですが、病院不足ですから、ご検討下さいませ。

72. ケアラーの一人として、いつも常に相談できることができる環境であってほしいと思っています。
73. ケアラーが病気や体調不良になったとき、代わりに介護等してくださる方が、どうしたら見つかるか?と思うと不安です。何処に相談したらいいか?も知りたい。そのシステムを作ってほしいと思います。
74. 固定資産税や田んぼにひく水の料金が非課税世帯なのに免除にならないのは経済的にきつい。土地の整備があいまいで困っている。
75. 介護の仕方を教えてもらえる講座があると良い。介護しながら働ける環境がないので会社にも考えてもらいたい。
76. 子育てだけでなく介護をする側の家族等の経済的な支援を早急に進めるべきだと思います。当方、発達障害の兄もおり、大変な思いをしております。これ以上バランスがくずれたらうっかり自殺してしまうかも。保険金が家族を助けてくれている。
77. サービスや施設の情報がバラバラで検索しづらい。地域ごとに利用できるサービスの総合サイトを作してほしい。フローチャートなどで、自分はどんなサービスが使えるのかを簡単に調べられたら…と何度も思いました。地域包括支援センターへ相談しに行くまでのハードルが高く感じていました。市役所に相談に行っても「担当は包括なので…」と概要すら適当に説明してもらえず…せっかく忙しい時間を工面して行ったのに取り次ぎ的なことはやってもらえないんだとがっかりしました。
78. 療育や放課後デイサービスの前の送り出しがほしい。介護デサービスなどだとあるのにないのが不満です。
79. 看護師、ヘルパーの質があまり良くないのでよくしてほしいです。
80. はじまったばかり。今は本人のために何が出来るかで精一杯。

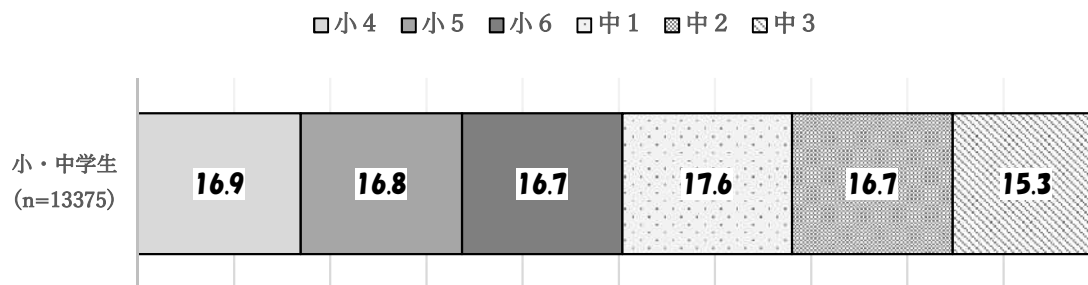
81. ①質問 20 の文章の意味が分かりません。②心臓疾患等、外部からはわからない人への支援の仕方を考慮して下さい。(例、トイレ、浴室暖房等)
82. 現在は私自身（ケアラー）の体調状態は良好であるが、万が一動けなくなったりしたらケアをすることができなくなることもある。現在、支援 2 であるため、限界があるようで、援助しているが他にお願ひできること（料金日含め情報が必要と感じている。高齢な母だが、頭ははっきりしているのと、自力で家の中では動けていることに助かっている。
83. 特養を増やしてほしいです。
84. 行政、関係機関には、ただただ有難く、感謝のみです。
85. もっとオープンな支援（助成等）の情報提供が欲しいです。
86. 社協に連絡し、母の話し相手をして頂けるようなサポートはあるのか質問するのに電話した所、担当者不在との時で折り返し電話を頂けるとの事でしたが折り返し電話がありません。ケアラー、ケアする人にとって必要有益な情報を分かりやすく知れるようにして欲しい。
87. レスパイト的なサービスが少ない（病状が思い方の受け入れ先が少ない）ショートステイには限界がある
88. 越谷市のホームページが見にくい。
89. ①質問が多すぎる②質問の内容が分かりにくい事と答えやすい文言を選んで書いてください。
90. 何でもおそい。何でもわかりにくい。
91. わかりにくかった。
92. 災害時の避難体制が不安。
93. 災害のひなん。(指示 夜に来ても対応できない)
94. 災害の際避難する方法がない。
95. 介護サービスと介護サービス以外の情報、介護知識や、どんなサービスどんなものがあるか相談できる体制づくりがあるといい。限度額を超えると話していた方がいる。それでは大変だと思う。
96. 救急車を呼んだ時に 3 時間搬送先の病院が見つからなかった。

V ヤングケアラー

小・中学生

質問1 学年

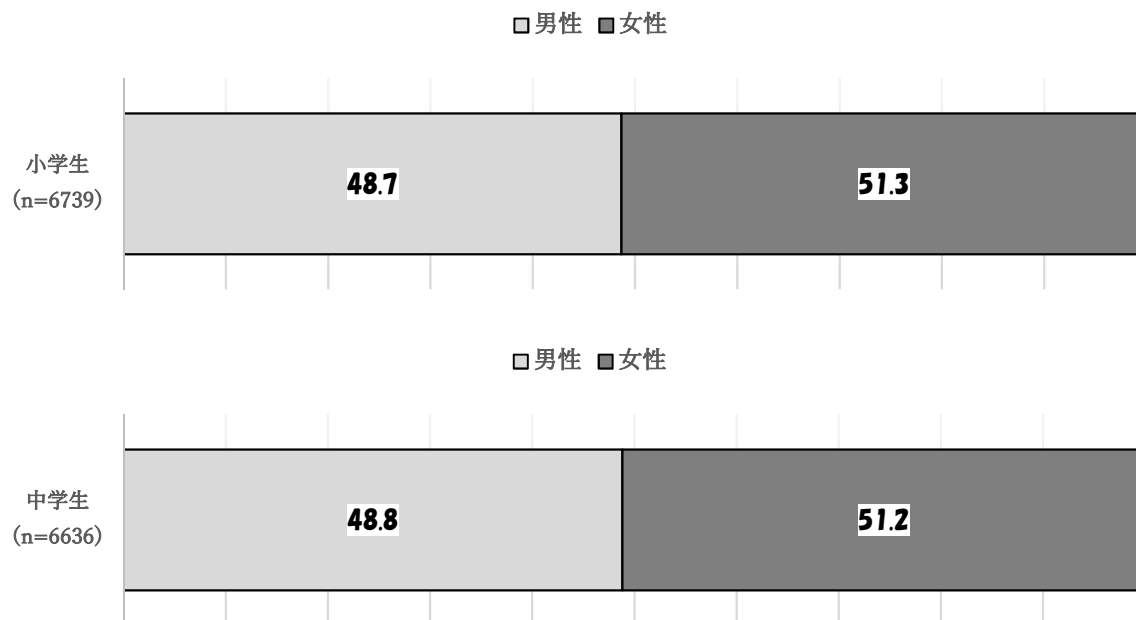
単位：％



質問2 性別

「女性」と回答した割合が、小学生は51.3%、中学生は51.2%と半数を超えており「男性」を上回っているが、性別において、回答者の偏りはあまり見られない。

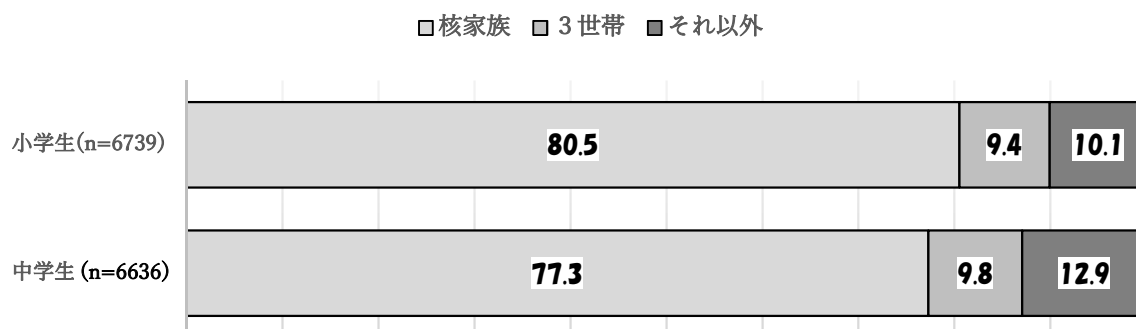
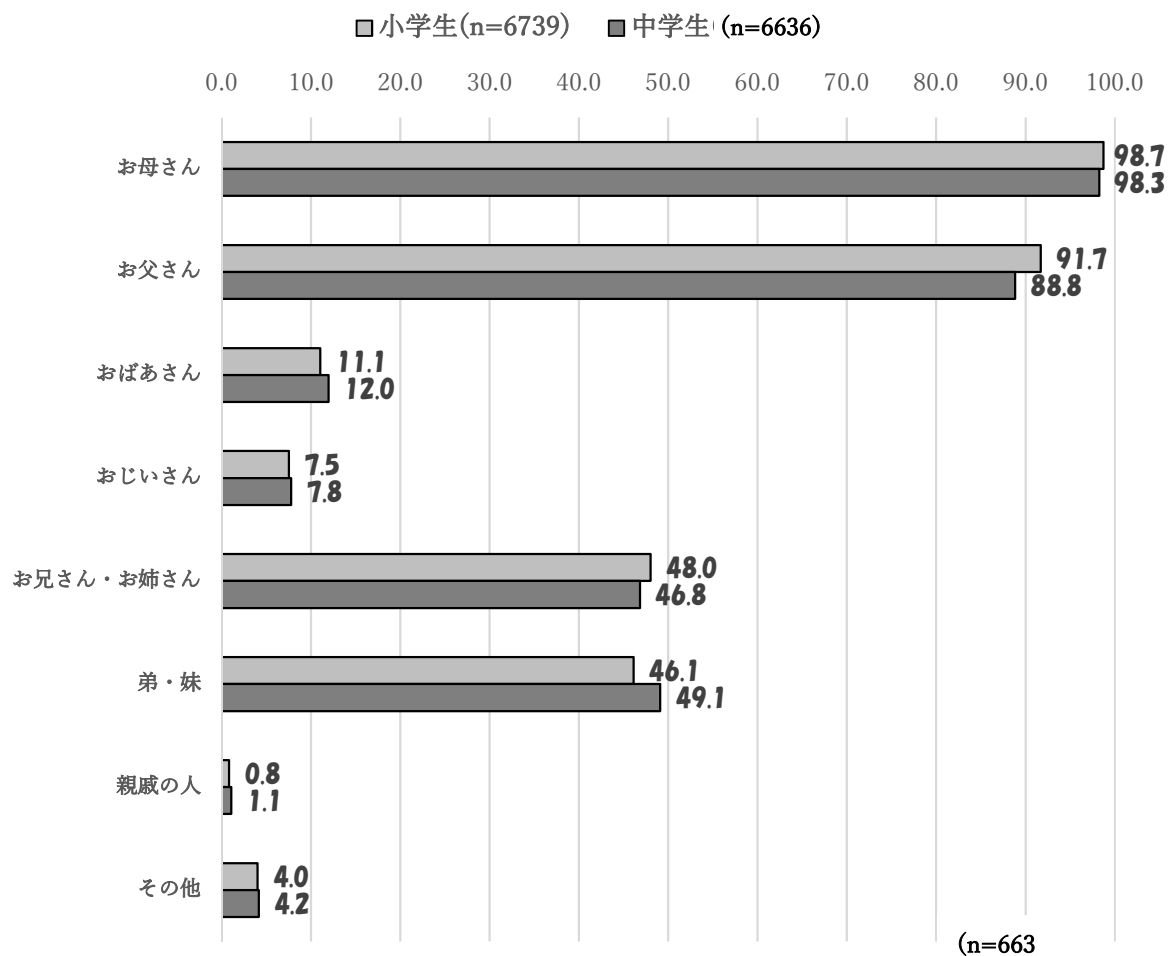
単位：％



質問3 今、一緒に住んでいる家族について教えてください。(複数回答)

小・中学生どちらも「お母さん」、「お父さん」と回答した割合が高く、次いで小学生においては「お兄さん・お姉さん」、「弟・妹」、「おばあさん」の順で高い。また、中学生においては、「弟・妹」、「お兄さん・お姉さん」「おばあさん」の順で高い。
世帯構成は、小・中学生どちらも「核家族」の割合が最も高い。

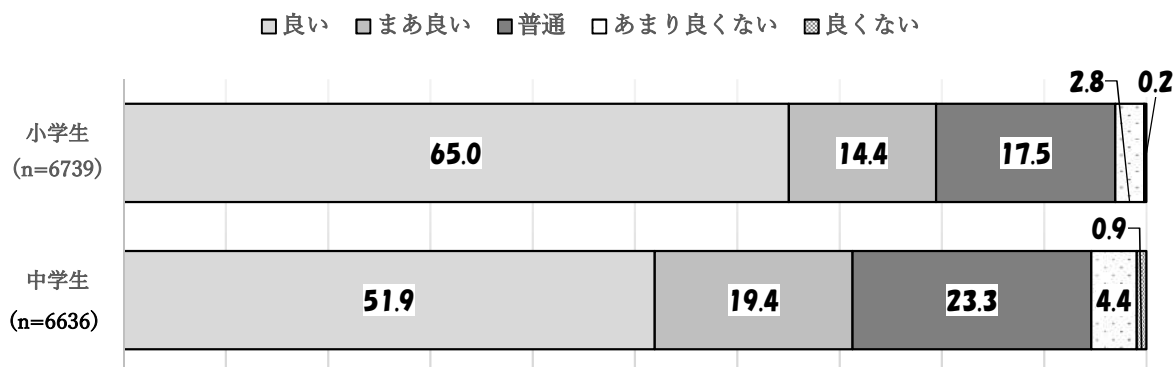
単位：％



質問4 あなたの体調について教えてください。

小・中学生どちらも「良い」と回答した割合が高いが、小学生の65.0%に比べ、中学生は51.9%と低く、「あまりよくない」、「良くない」と回答した割合は、中学生のほうが高い。

単位：％

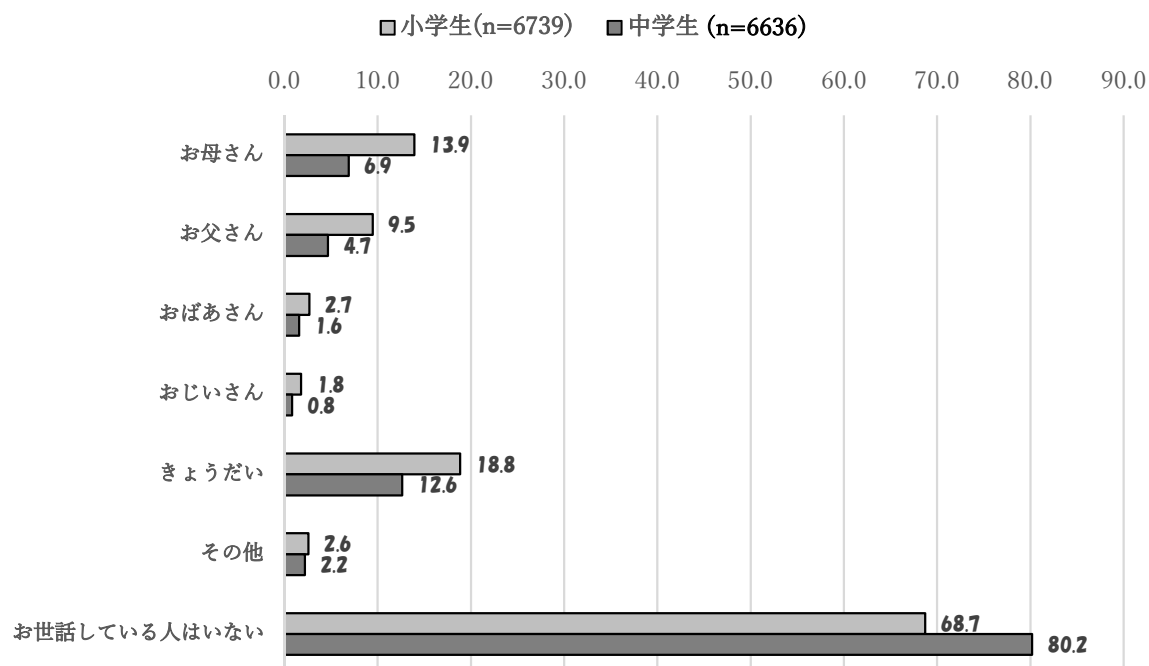


質問5 家族の中に、あなたがお世話をしている人はいますか。

いる場合、あなたがお世話をしている人は誰ですか。(複数回答)

小・中学生どちらも「お世話している人はいない」と回答した割合が高いが、家族の誰かをお世話にしている方が、小学生では全体の3割、中学生では2割程度を占めている。内訳は、割合の高い順から「きょうだい」、「お母さん」、「お父さん」となっている。

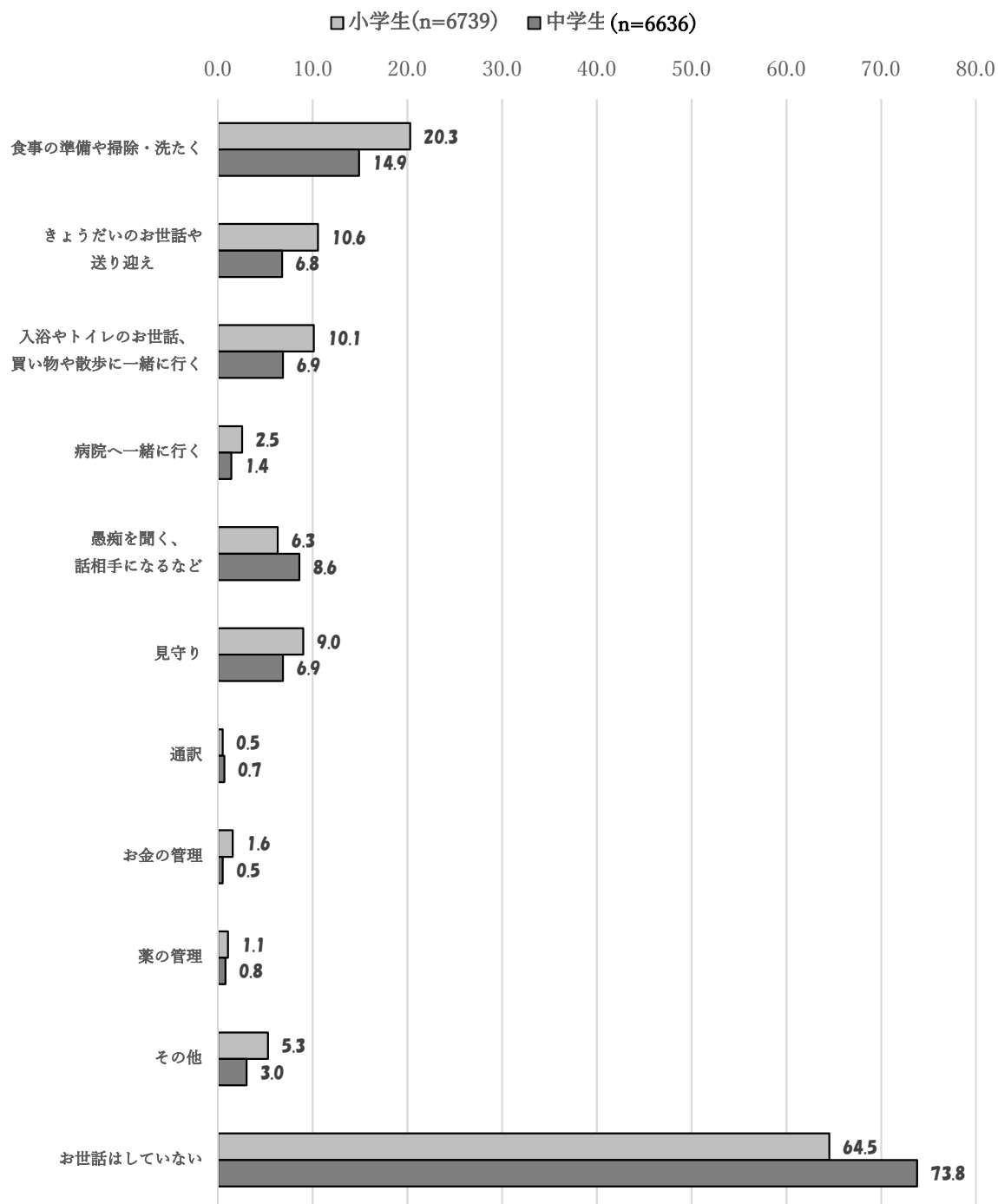
単位：％



質問6 あなたはどのようなお世話をしていますか（複数回答）

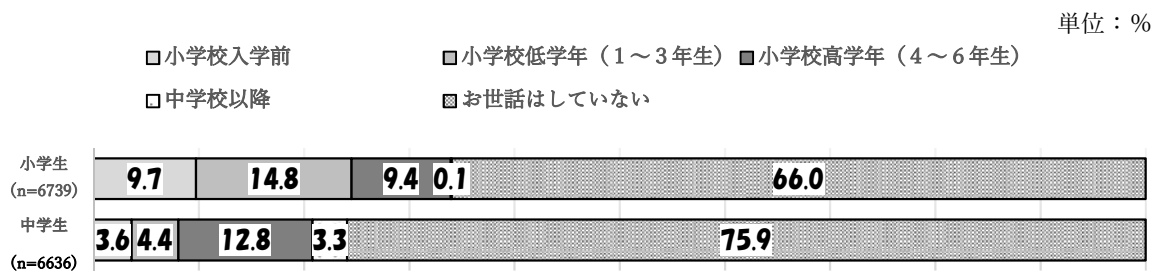
小・中学生どちらも「食事の準備や掃除・洗たく」と回答した割合が高い。次いで、小学生では「きょうだいのお世話や送り迎え」が10.6%と高く、中学生では「愚痴を聞く、話し相手になるなど」が8.6%と高くなっている。

単位：%



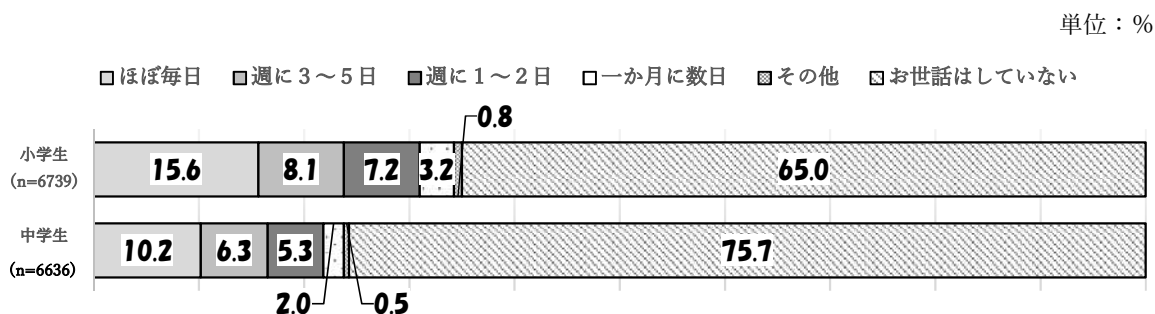
質問7 あなたはお世話をいつからしていますか。

小学生では「小学生低学年（1～3年生）」と回答した割合が14.8%で高く、中学生では「小学生高学年（4～6年生）」と回答した割合が12.8%で高い。このことから、ヤングケアラーの低年齢化が推測される。



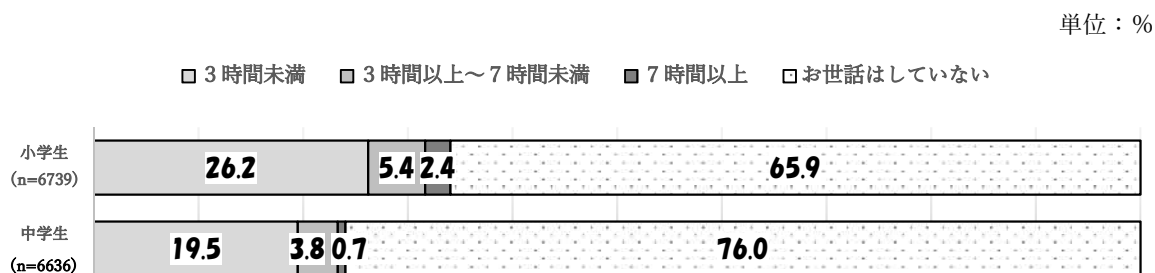
質問8 あなたはどのくらいお世話をしていますか。

小・中学生どちらも「ほぼ毎日」の割合が高く、小学生では「ほぼ毎日」が15.6%、中学生では「ほぼ毎日」が10.2%となっている。次いで、小・中学生どちらも「週に3～5日」、「週に1～2日」の順に高い。



質問9 あなたは平日何時間くらいお世話をしていますか。

小・中学生どちらも「3時間未満」と回答した割合が高く、小学生では26.2%、中学生では19.5%となっている。次いで、小・中学生どちらも「3時間以上～7時間未満」「7時間以上」の順に高い。

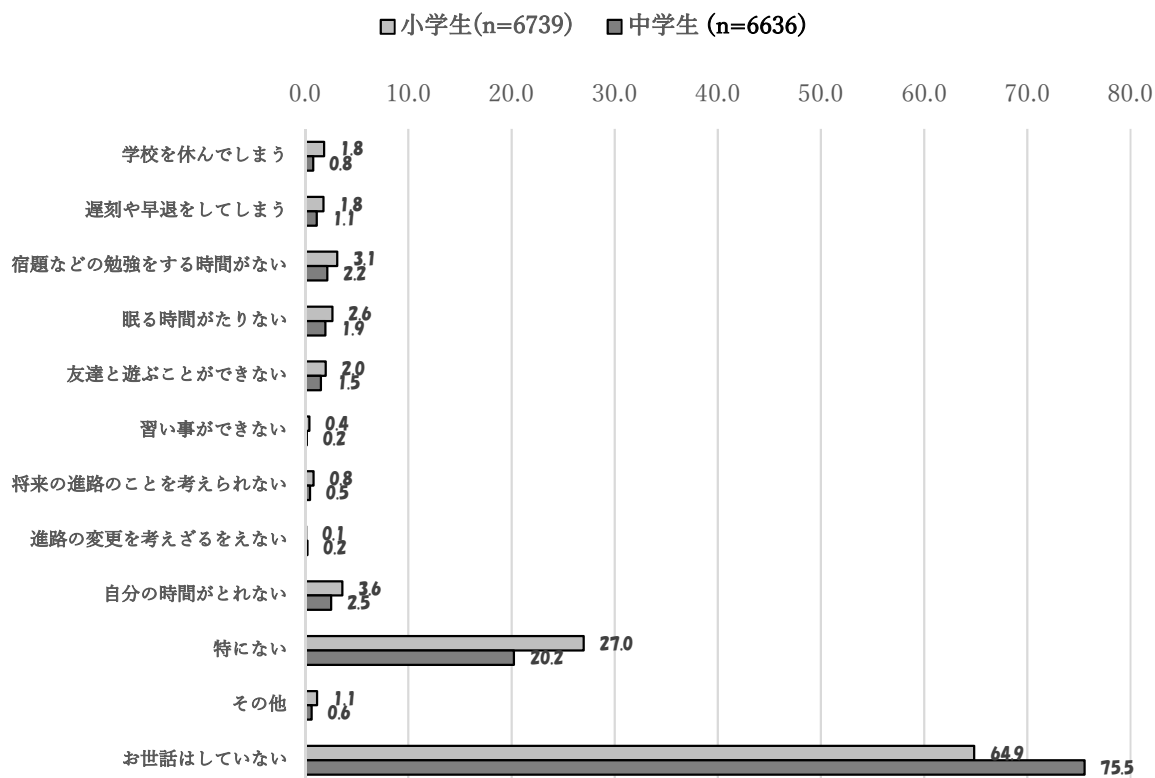


質問 10 お世話をしていることで、

以下のような経験をしたことはありますか。(複数回答)

小・中学生どちらも「自分の時間がとれない」と回答した割合が高く、小学生では 3.6%、中学生では 2.5%である。次いで、小・中学生どちらも「宿題などの勉強をする時間がない」「眠る時間がたりない」の順に高い割合になっている。

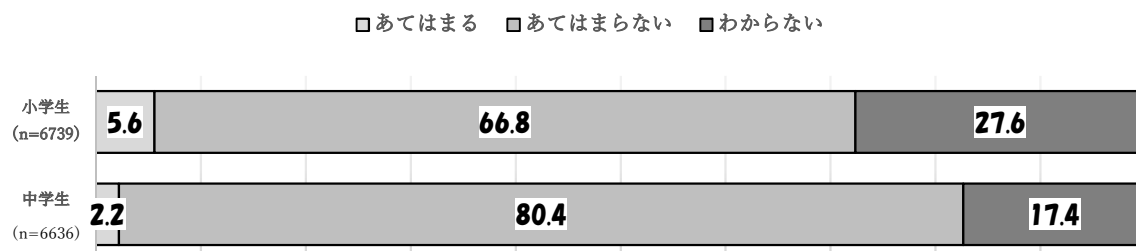
単位：％



質問 11 あなたは、ヤングケアラーにあてはまると思いますか。

小・中学生どちらも「あてはまる」と回答した割合が低く、小学生では 5.6%、中学生では 2.2%である。「わからない」と回答した割合は、小学生は 27.6%、中学生は 17.4%である。

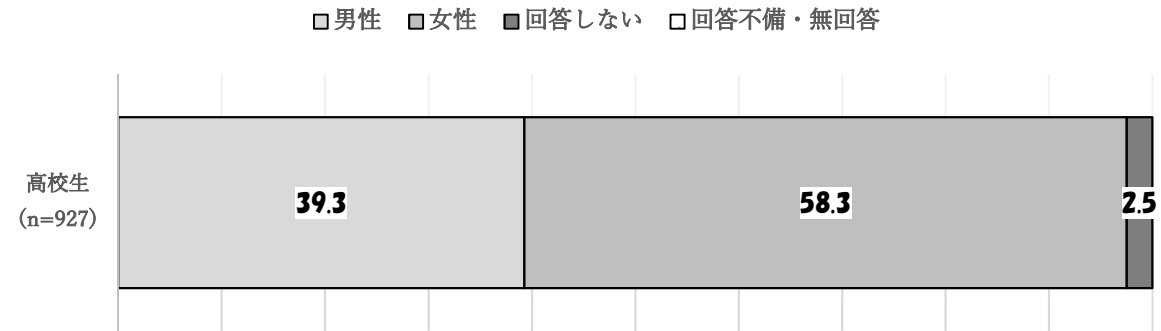
単位：％



高校生

質問 1 性別について

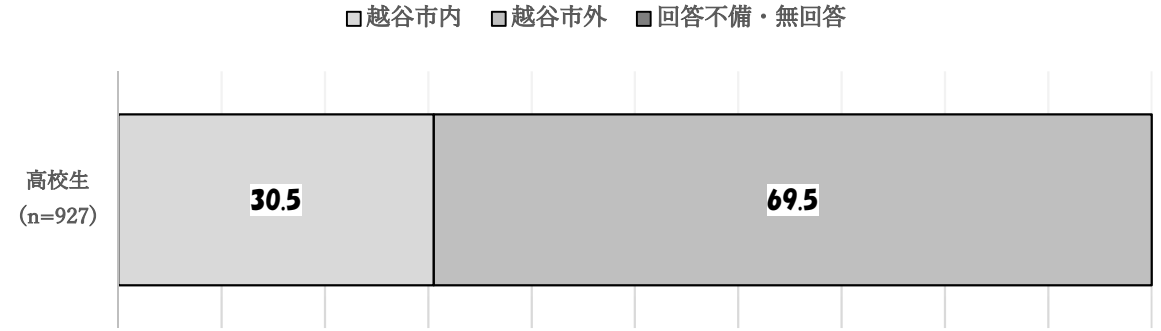
単位：％



質問 2 お住まいの場所について

「越谷市外」と回答した割合が 69.5%となっており、越谷市内の 30.5%を上回っている。

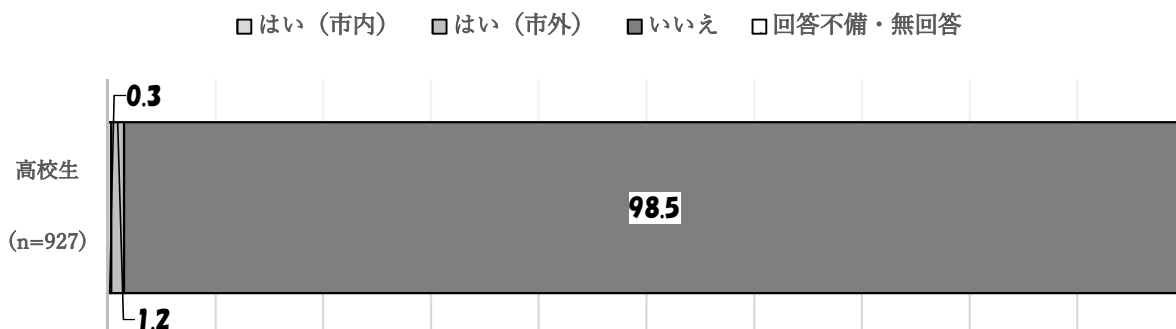
単位：％



質問3 (別紙)依頼文の裏面に表記されているイラストを見て、
自身がヤングケアラーである、または、過去そうであったと思いますか。

「はい」と回答した割合は、市内在住では0.3%、市外在住では1.2%である。

単位：%



ヤングケアラーとは

「ヤングケアラー」とは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていること」です。

責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあります。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目の見えない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている。



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている。



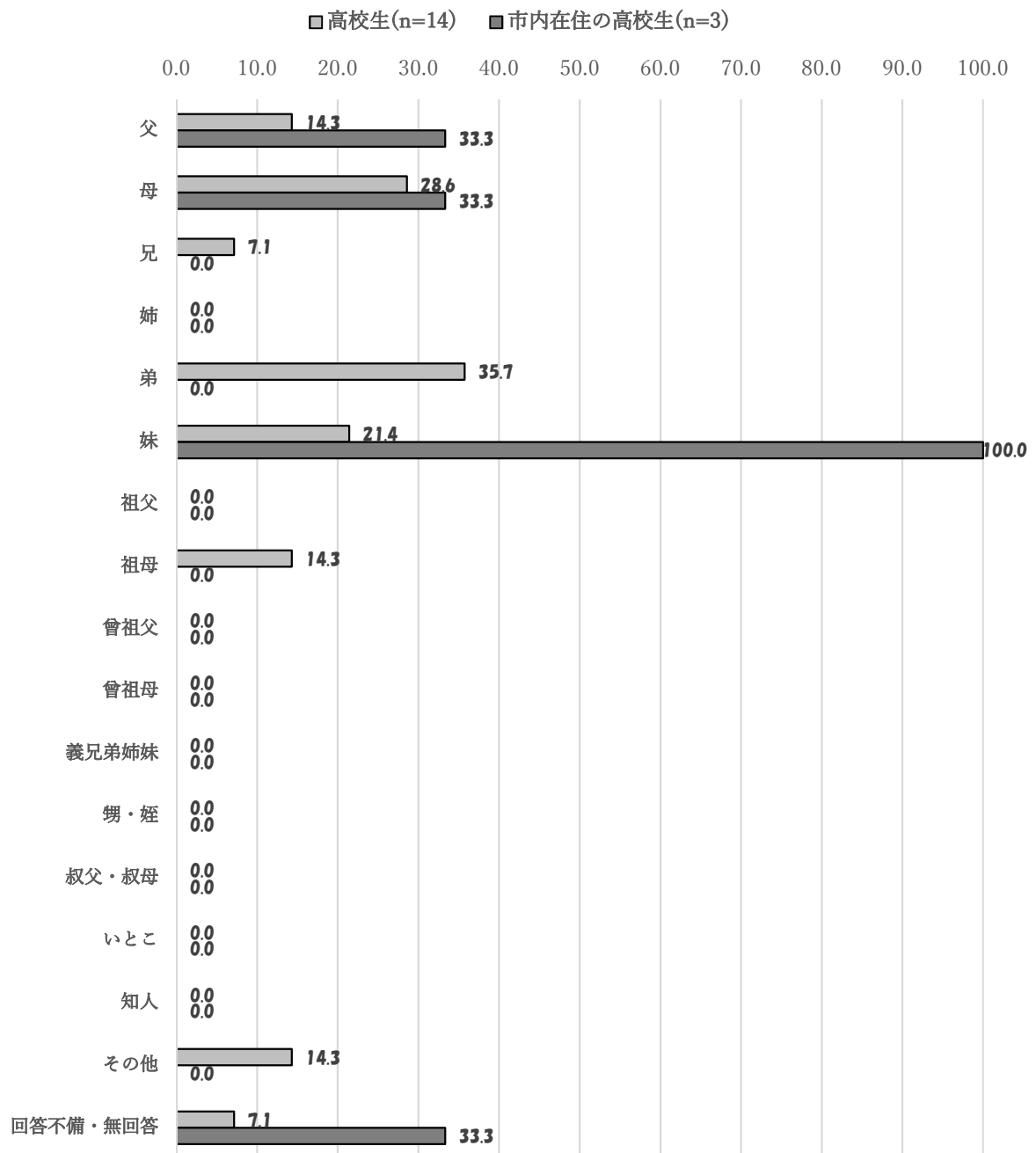
障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

質問4 ケアを受けている方の続柄（複数回答）

（質問3 【自身がヤングケアラーである、または、過去そうであったに「はい」と回答した方のみ】 ※以下、問20まで）

「弟」と回答した割合が、35.7%で最も高く、次いで「母」、「妹」の順で高くなっている。市内在住の高校生に限ると「妹」、次いで「父」、「母」となっている。

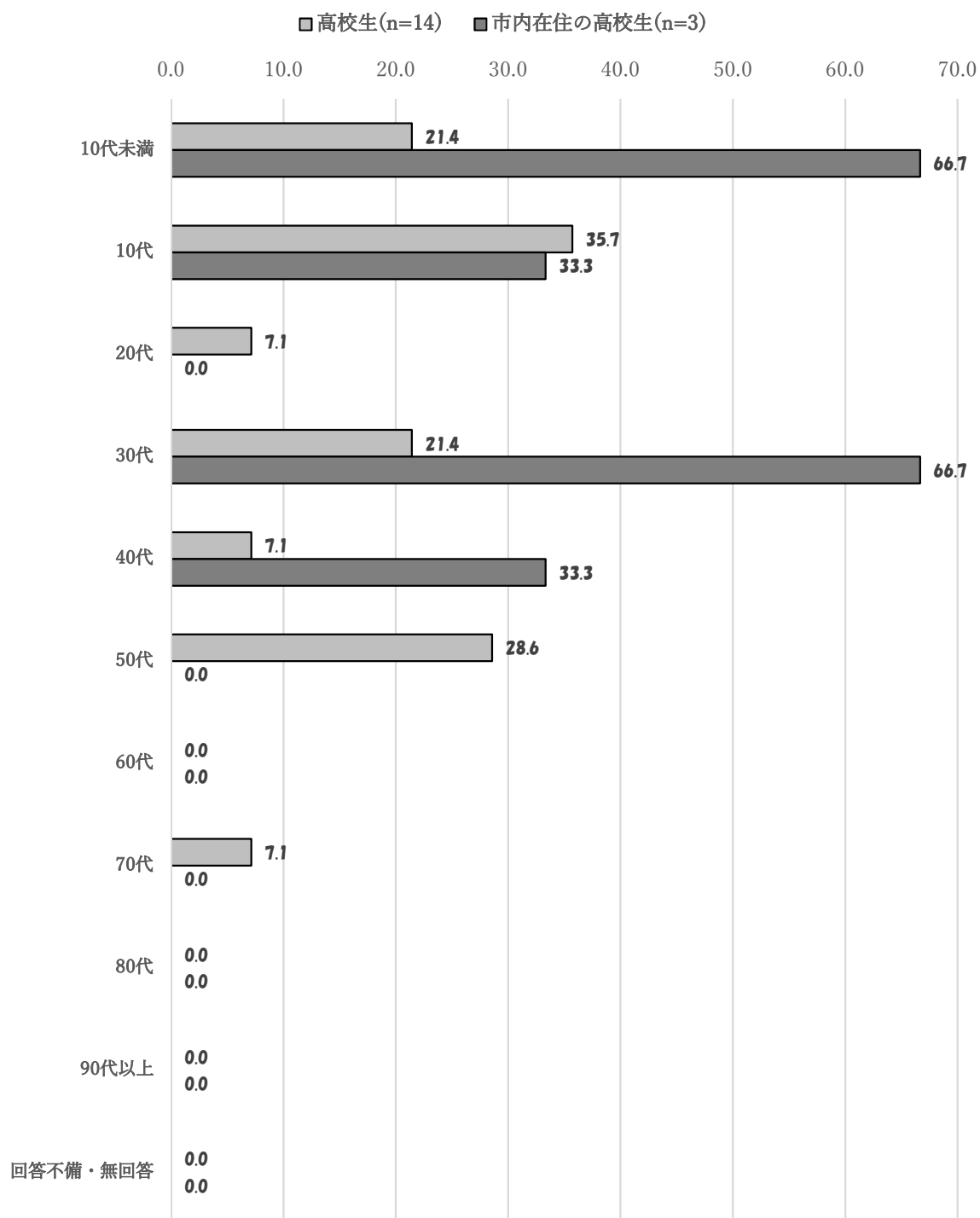
単位：％



質問5 ケアを受けている方の年齢（複数回答）

「10代」と回答した割合が、35.7%で最も高く、次いで「50代」の割合が高いが、市内在住の高校生に限ると、「10代未満」、「30代」が高い。

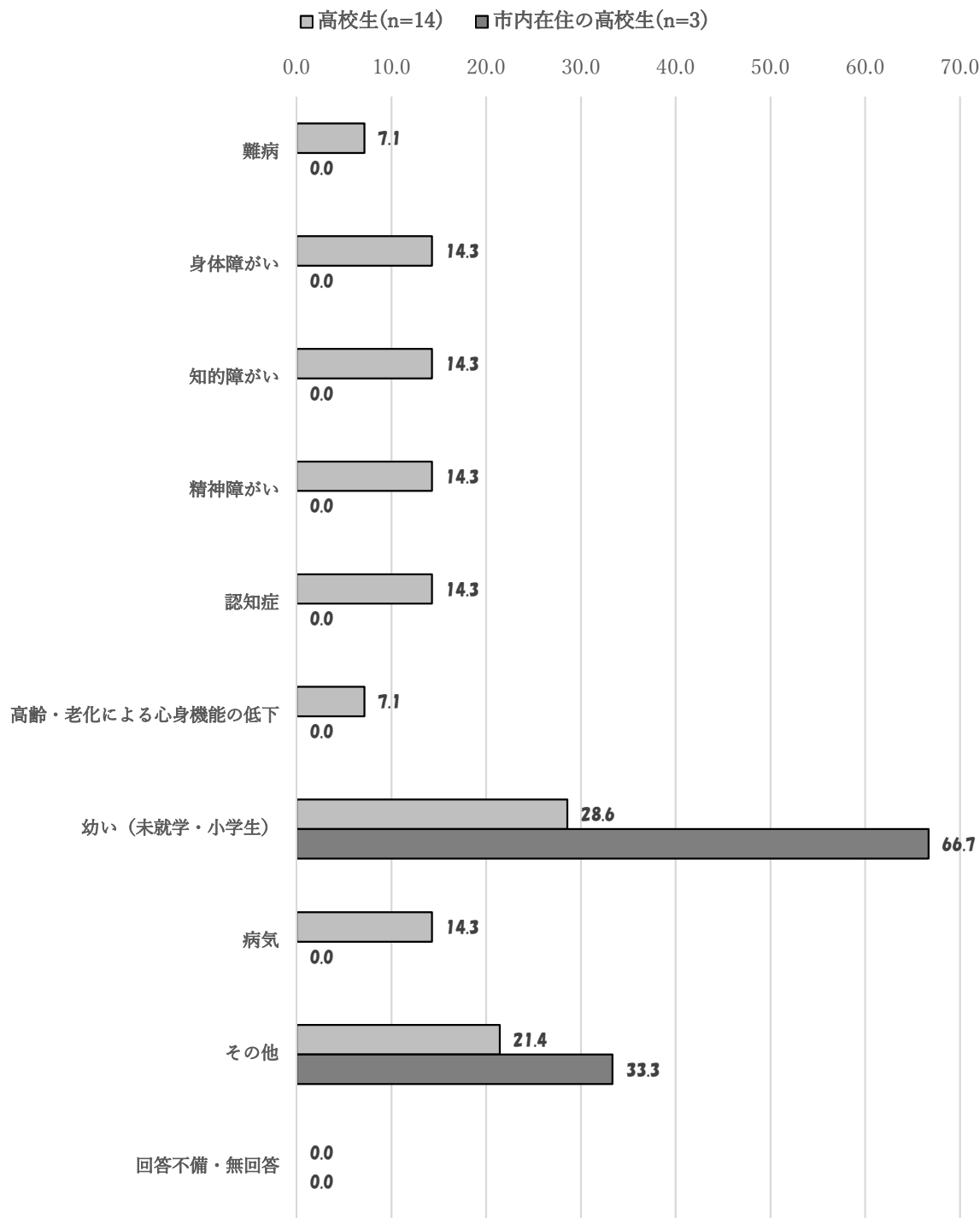
単位：%



質問 6 ケアをしている相手の状況について（複数回答）

「若い（未就学・小学生）」と回答する割合が、28.6%で最も高く、次いで「身体障がい」、「知的障がい」、「精神障がい」、「認知症」、「病気」が同率 14.3%である。

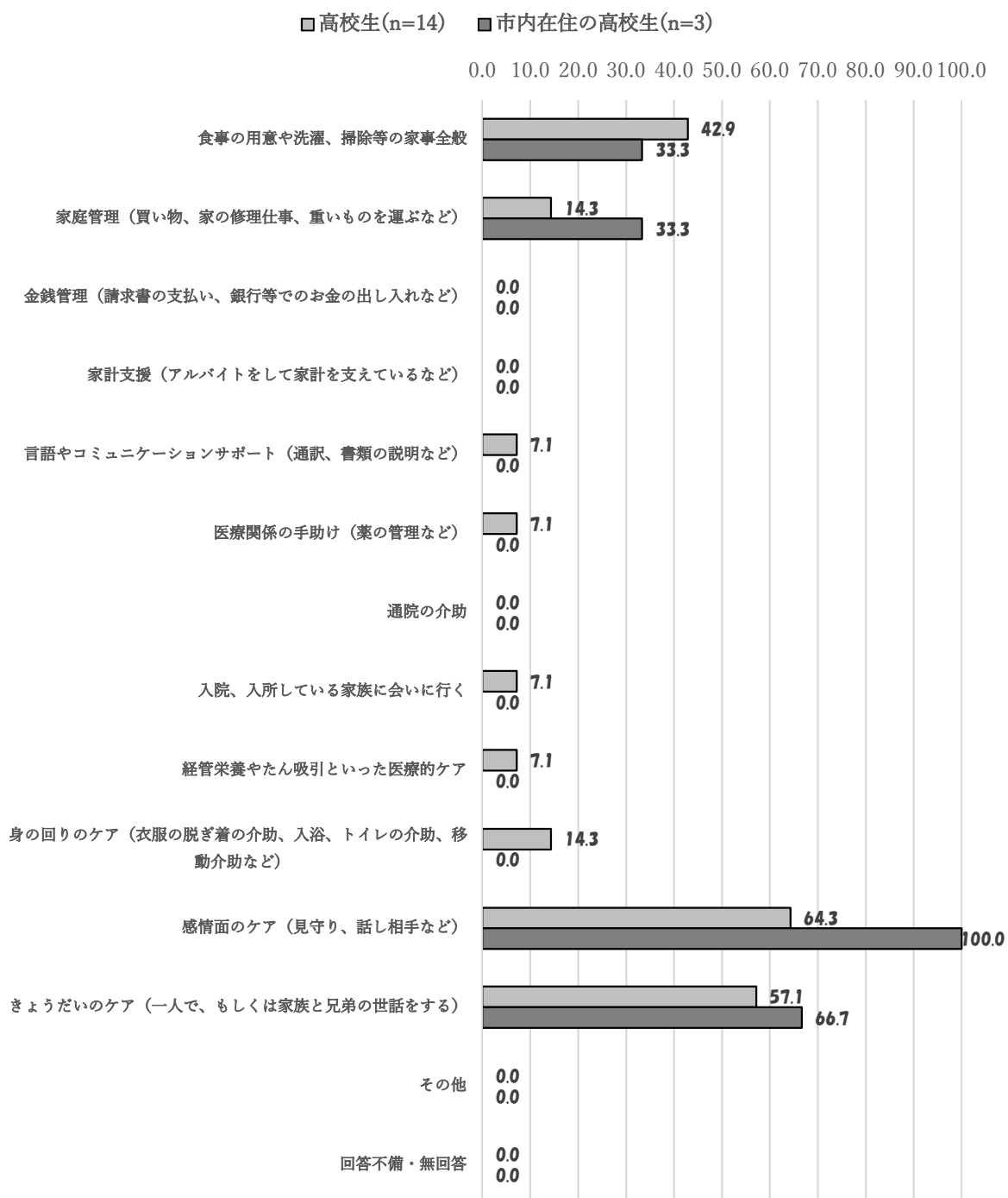
単位：%



質問7 行っているケアの内容について（複数回答）

「感情面のケア（見守り、話し相手など）」と回答した割合が、64.3%で最も高く、次いで、「きょうだいのケア（一人で、もしくは家族と兄弟の世話をする）」、「食事の用意や洗濯、掃除等の家事全般」の順で高くなっている。

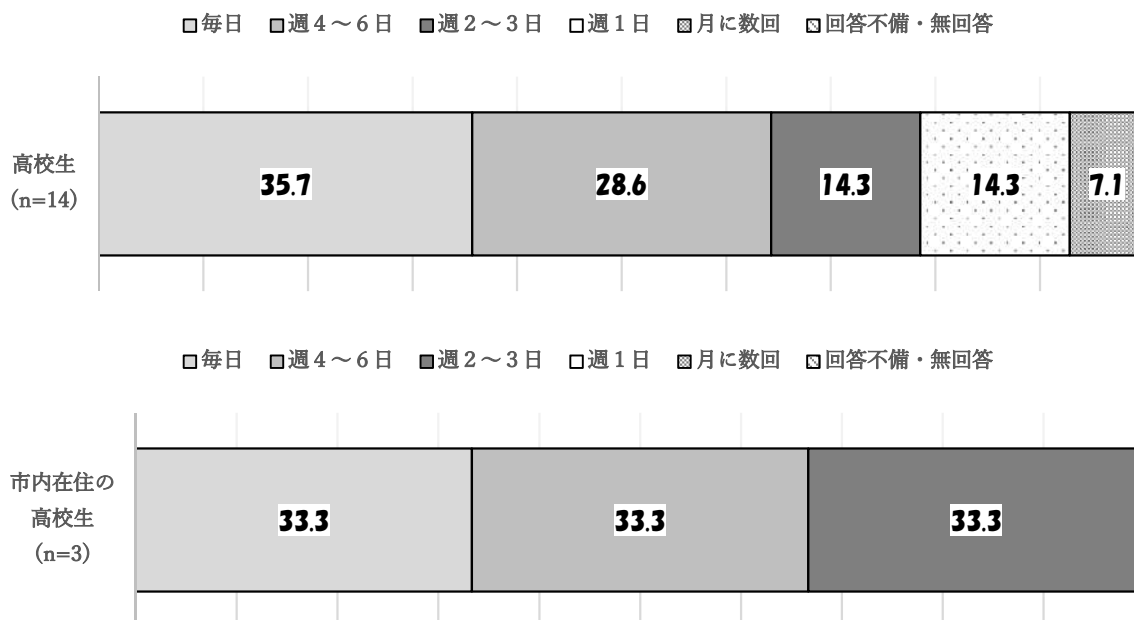
単位：％



質問 8 ケアをしている頻度について

半数以上の生徒が週4日以上、ケアを行っており、「毎日」と回答した割合が、35.7%で最も高く、次いで「週4～6日」が高い。

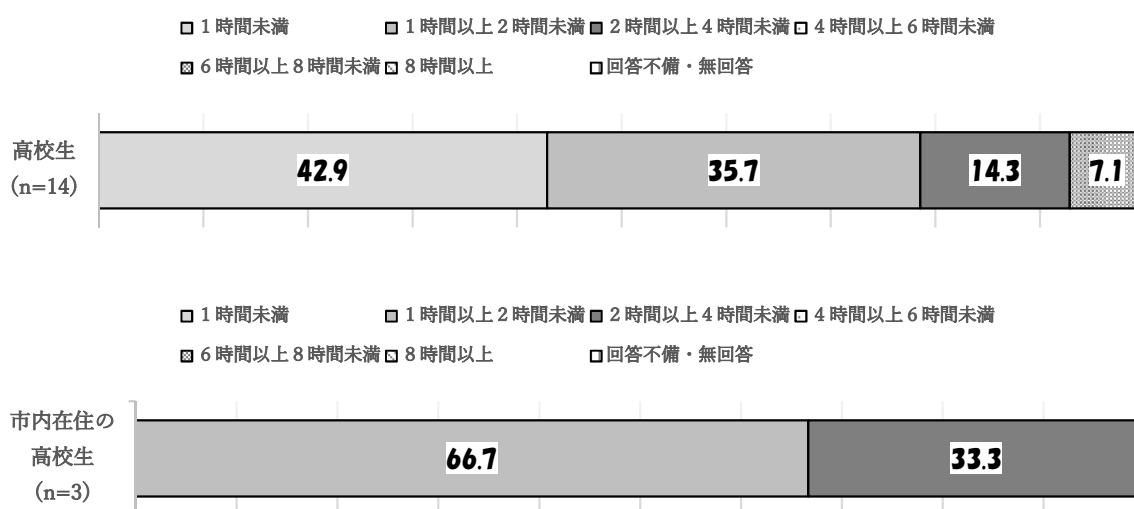
単位：%



質問 9 学校のある平日にケアをしている（していた）時間について

「1時間未満」と回答した割合が、42.9%で最も高く、2時間未満の割合は、全体の約8割となっている。

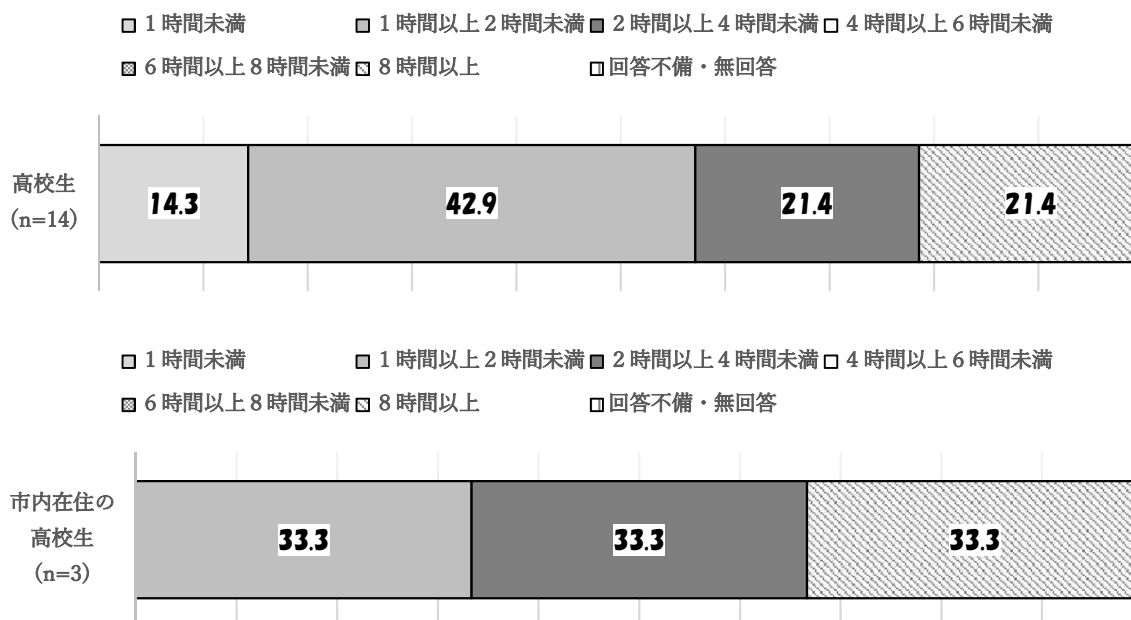
単位：%



質問 10 休日にケアをしている（していた）時間について

「1 時間以上 2 時間未満」と回答した割合が、42.9%で最も高い。「8 時間以上」と回答した割合は、21.4%である。

単位：%



質問 11 ケアをするようになった（していた）時期について

「小学 4 年～6 年生のころ」と回答した割合が、64.3%で最も高く、次いで「小学生になる前から」と回答する割合が高い。

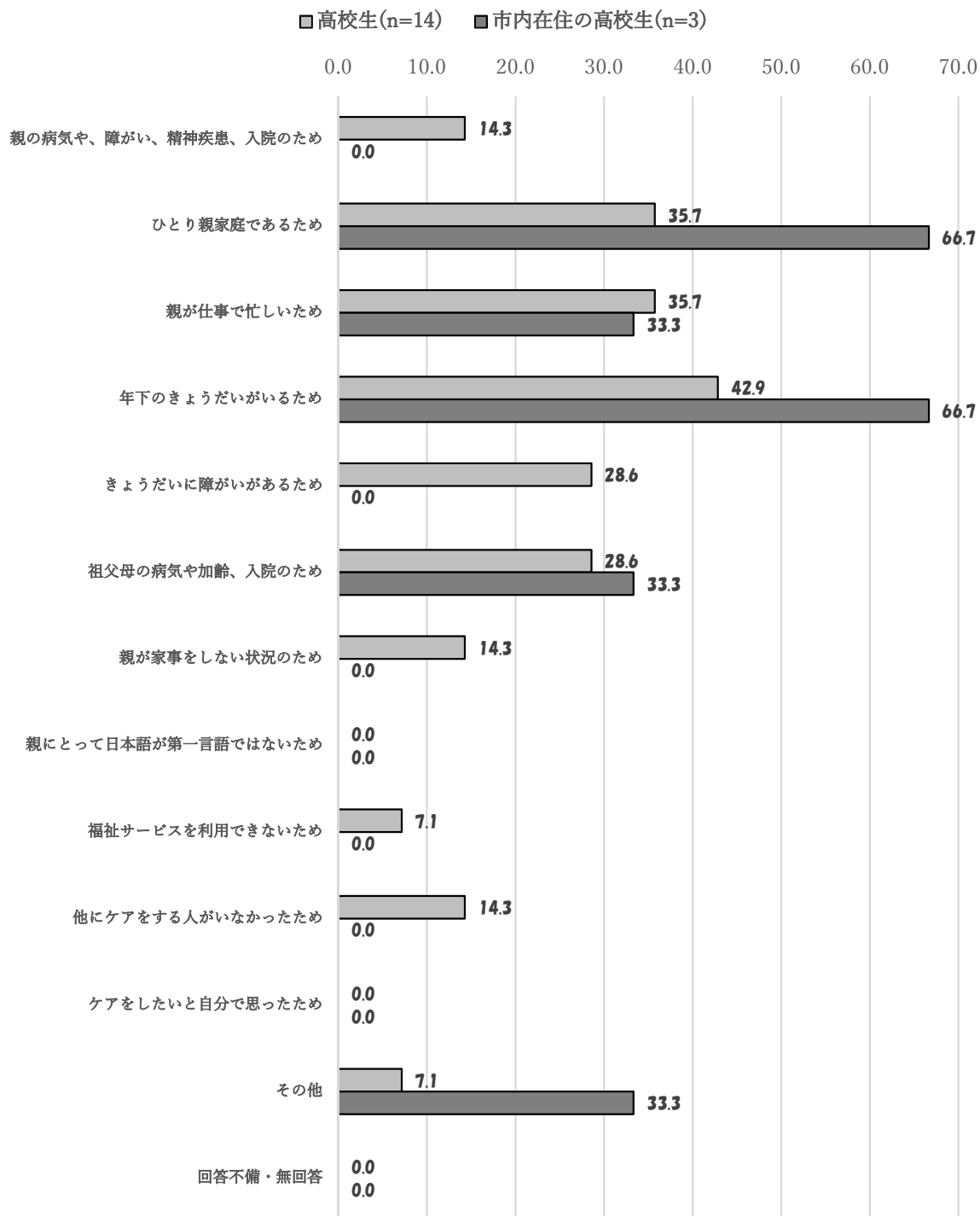
単位：%



質問 12 ケアをする理由について（複数回答）

「年下のきょうだいがいるため」と回答した割合が、42.9%で最も高く、次いで、「ひとり親家庭であるため」、「親が仕事で忙しいため」が同率 35.7%で高い。

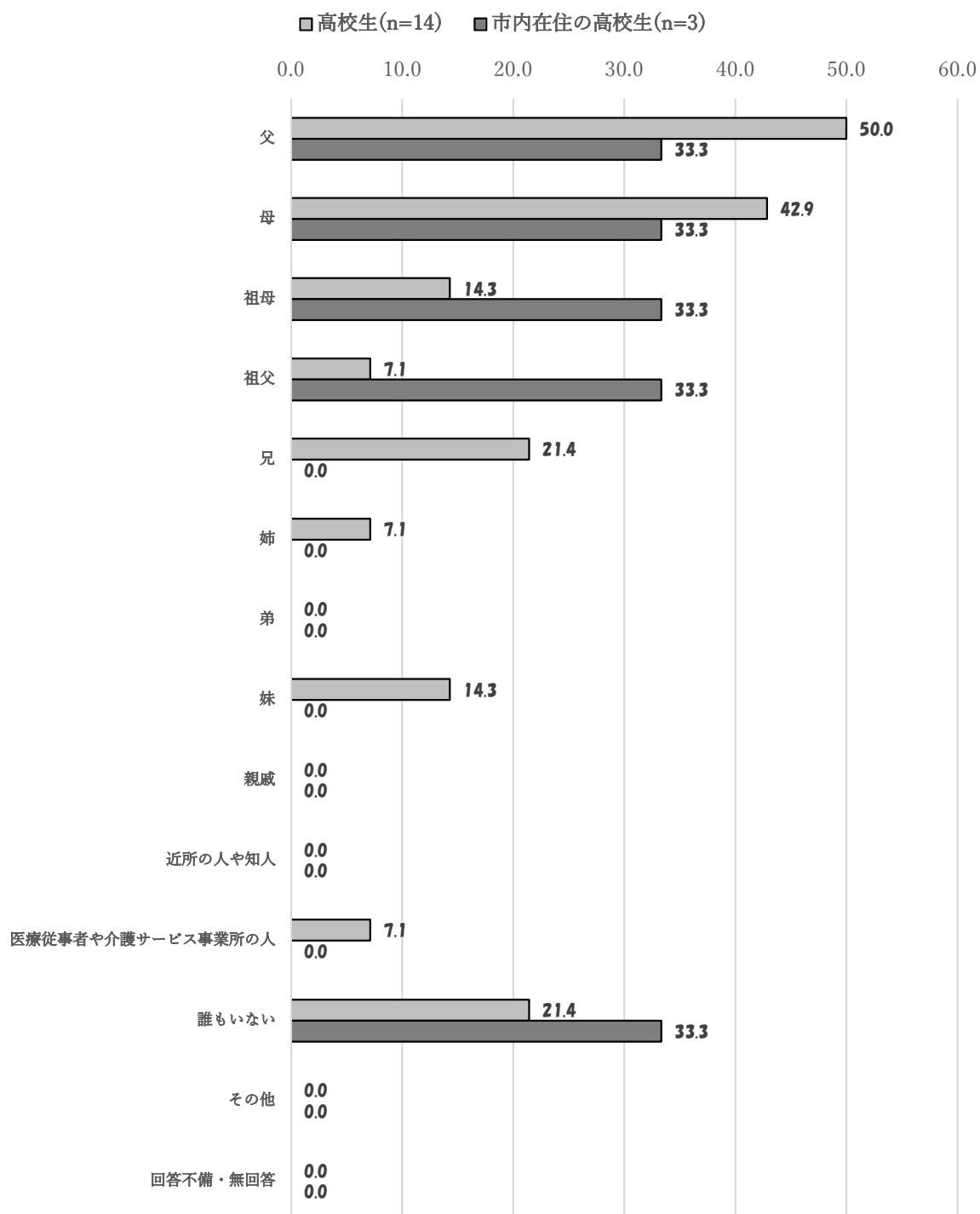
単位：％



質問 13 ケアと一緒にやってくれる、手伝ってくれる人について（複数回答）

「父」が 50.0%、「母」が 42.9%と回答する割合が高い中で、「誰もいない」と回答した割合が 21.4%であり、誰にも相談できず、一人で悩む生徒も存在する。

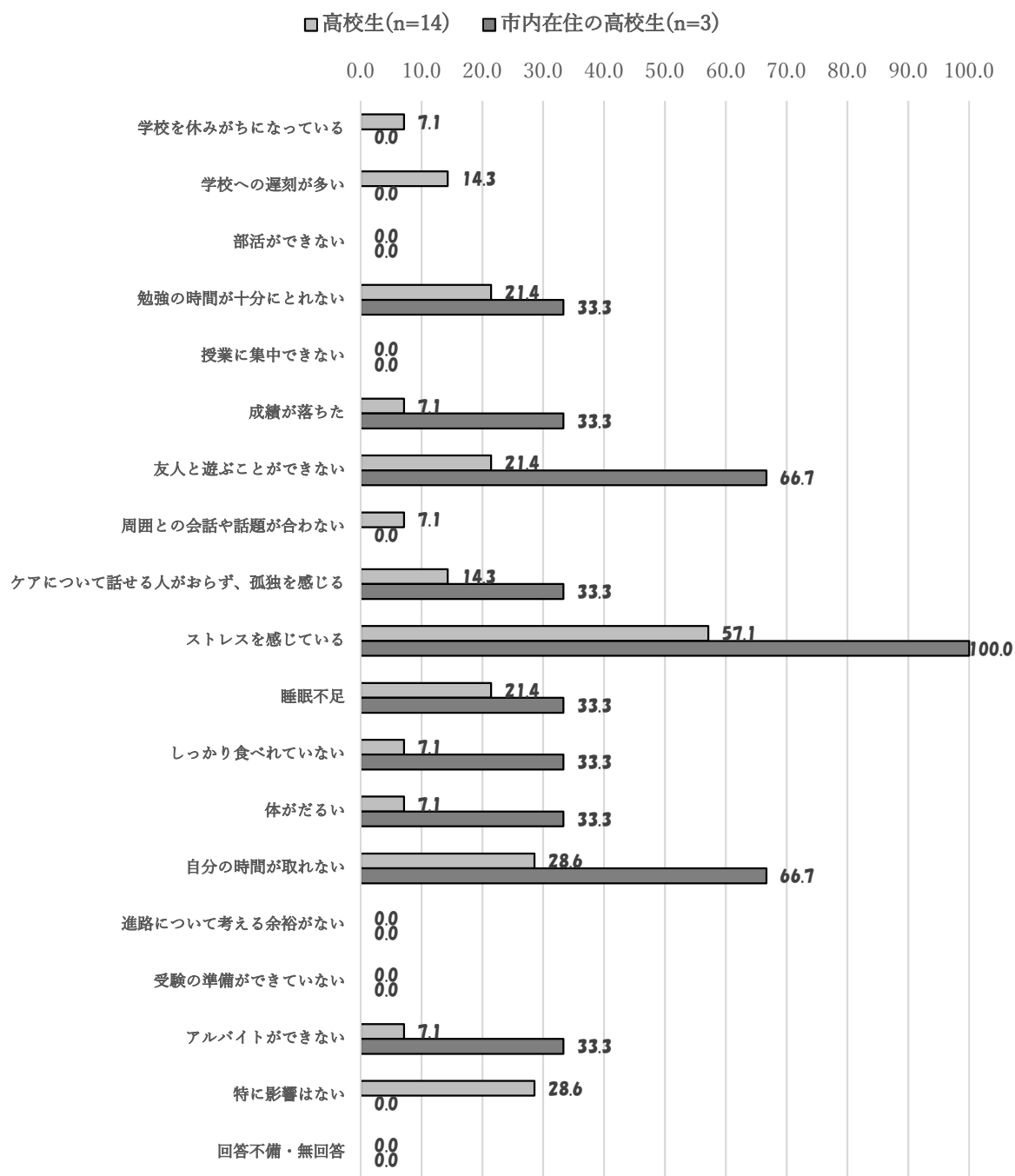
単位：%



質問 14 家族のケアをしているため、自分の生活に出ている影響について（複数回答）

「ストレスを感じている」と回答した割合が、57.1%と最も高く、次いで「自分の時間が取れない」、「勉強の時間が十分にとれない」、「友人と遊ぶことができない」、「睡眠不足」の順で高い。

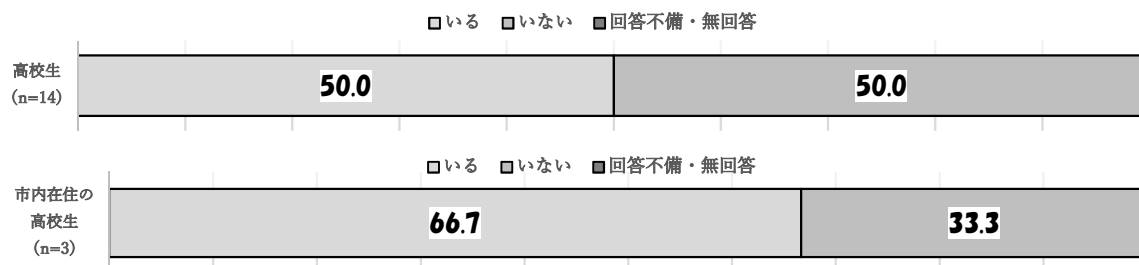
単位：％



質問 15 ケアに関する悩みや不満を話せる人について

「いる」と回答した割合が、50.0%、「いない」は50.0%の割合で同率となっている。

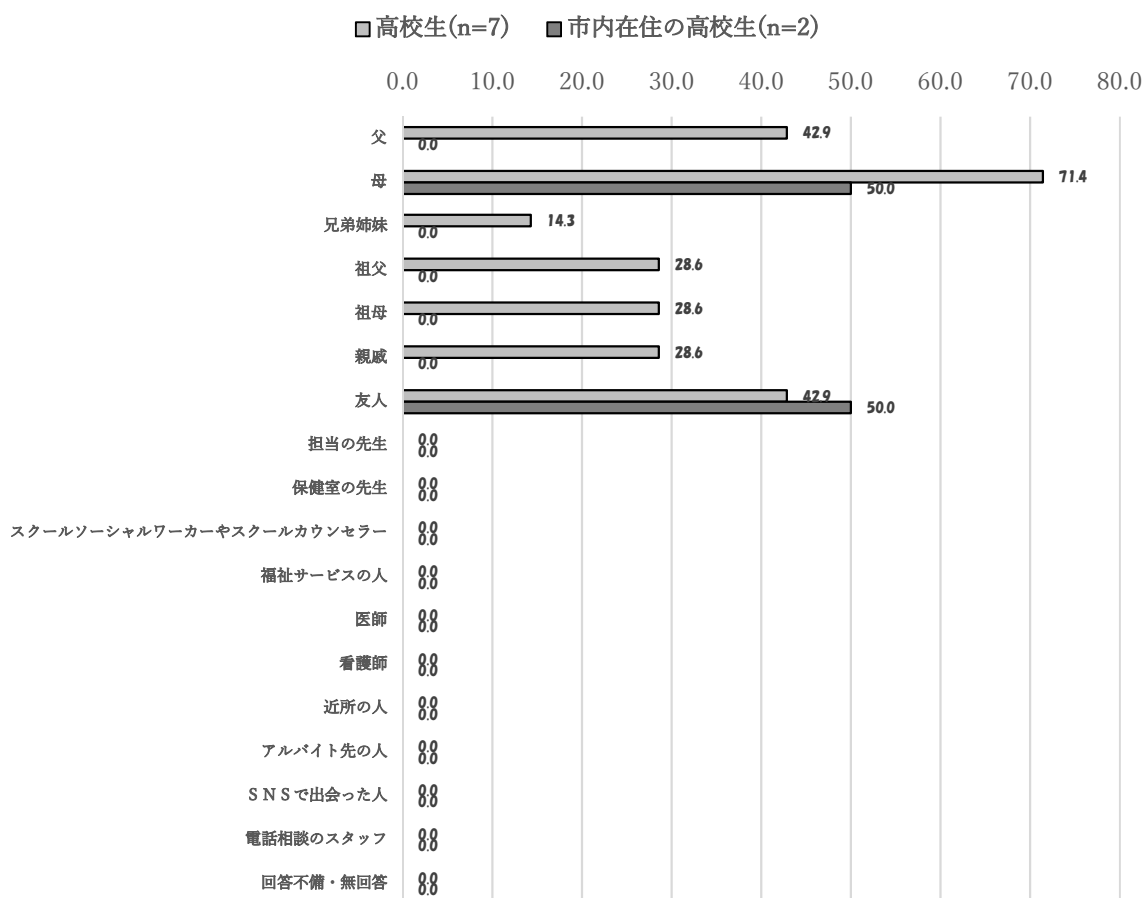
単位：%



質問 16 ケアに関する悩みや不満を話せる人について（複数回答） （質問 15 で「いる」と回答した方）

「母」と回答した割合が、71.4%で最も高く、次いで「父」、「友人」の順で高い。
専門家に話すより、身近な家族に話す割合が高い傾向にある。

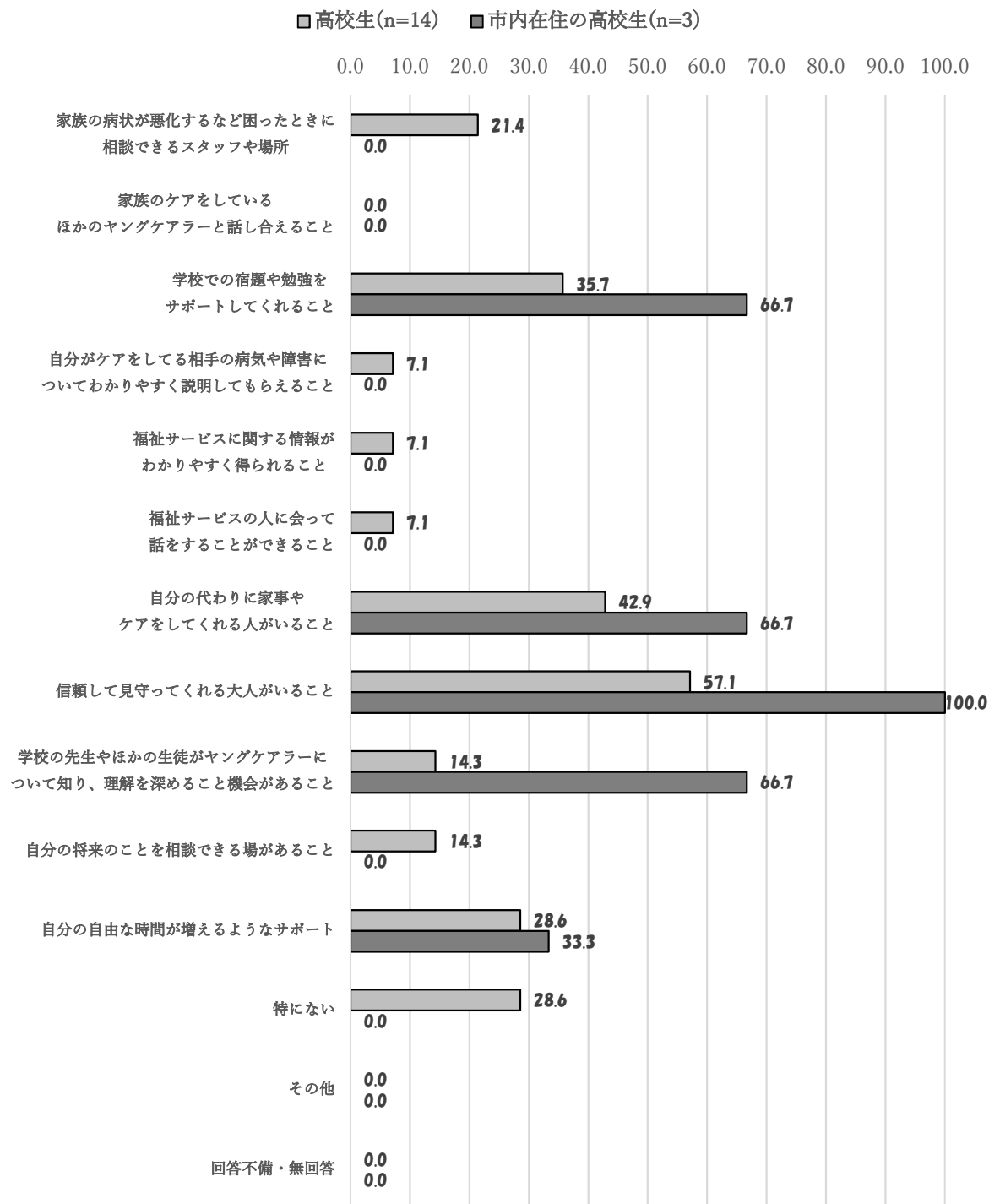
単位：%



質問 17 こんなサポートがあったらいいと思うことについて（複数回答）

「信頼して見守ってくれる大人がいること」と回答した割合が、57.1%で最も高く、次いで「自分の代わりに家事やケアをしてくれる人があること」が高い。

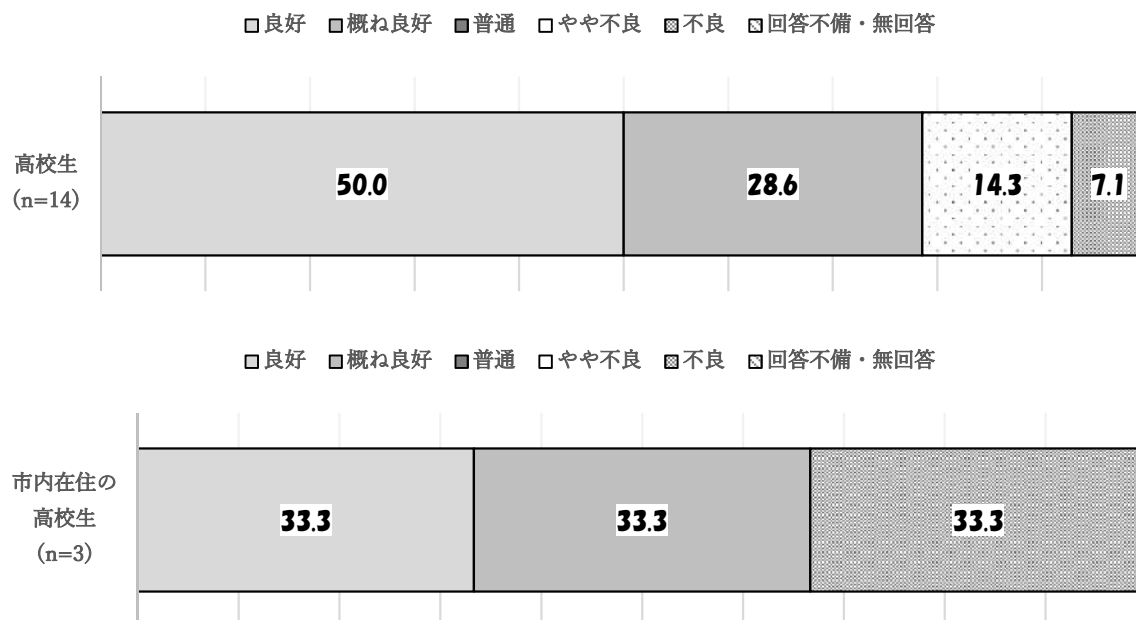
単位：％



質問 18 最近 1 カ月の健康状況について

半数は「良好」と回答している中で、「やや不良」、「不良」と回答した方は、ヤングケアラーと思う（だった）と回答した方の約 2 割となっている。

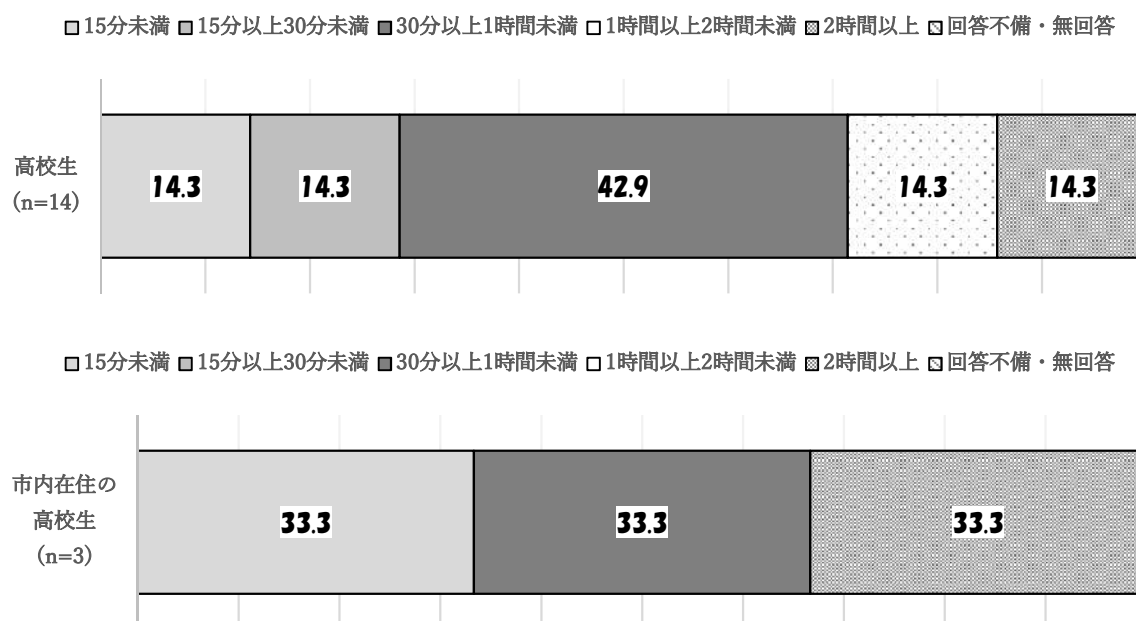
単位：％



質問 19 学校のある日の、家での一日の勉強量について

「30 分以上 1 時間未満」と回答した割合が、42.9%で最も高い。

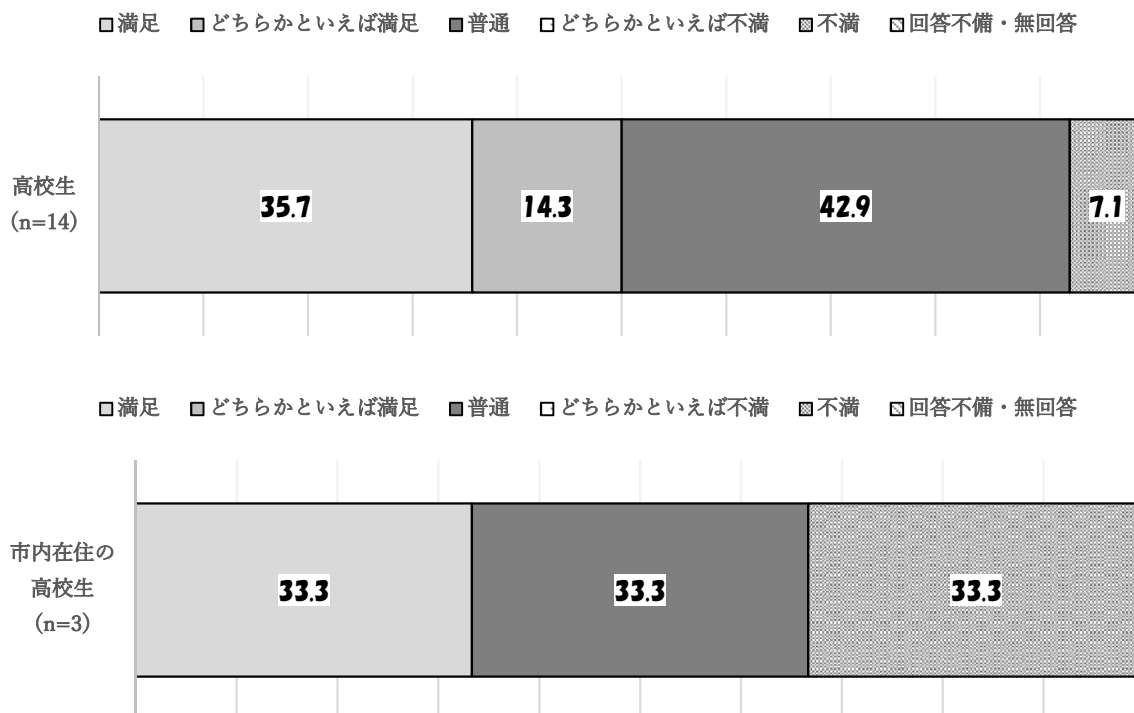
単位：％



質問 20 今の生活の満足度について

半数以上は、「普通」または「満足」と回答している中で、7.1%の割合で「不満」と回答している。

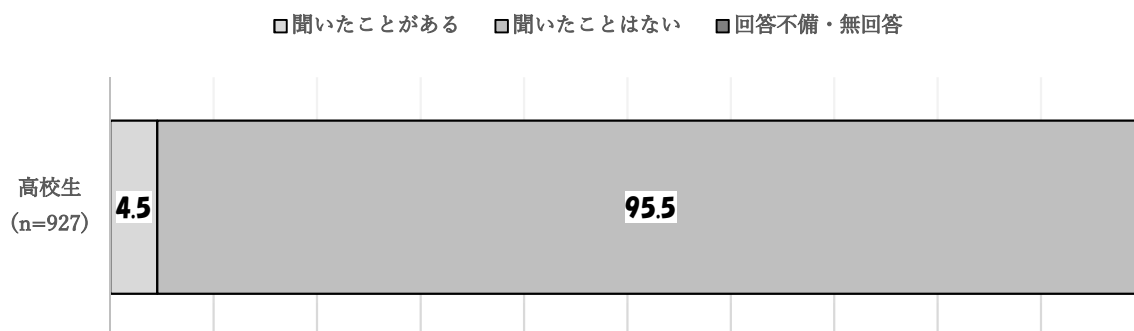
単位：％



質問 21 周囲の友人などからケアについての悩みについて

「聞いたことがある」と回答した割合は、4.5%である。

単位：％



質問 22 その対応について（質問 21 で「ある」と回答した方）

先生に相談したらと対応した。
話をよく聞いてあげた。
共感を示したり、ねぎらいの言葉をかけたりした。
親に相談した。
部活をやめたいと言っていたので、その背中を押した。
たまに家に泊まらせて、甘やかしたり、遊んだ。
応援した。
出かけるのに制限があるためその子の予定にあわせた。
できる限りの協力をした。
その子は学校を休むことがあったので、ノートをとってあげた。

質問 23 このアンケートに関する感想、学校や行政に求める支援や要望などについてお答えください。

<意見全文（原文のまま）>

1. 金銭的支援をしてほしい。
2. お金を国民に配布してほしい。
3. お金を国民に配布してほしい。
4. ヤングケアラーの人には給付金を渡したり、学校課題の提出期限を伸ばしたり、老人ホームとか何かしらの施設に入れるときお金を安くしたりしてあげたら時間も作れるしいと思う。
5. ヤングケアラーがいるか調査する取り組みは非常に良いなと思いました。
6. 私は今高校一年生で、文化部に所属しているため部活はほぼ無いが、各教科から多くの宿題が出されていて、それをこなすだけでも時間がなくなってしまう。でも、それに加えてヤングケアラーとなってしまうたら、睡眠時間もまともに取ることができない生活になってしまうと思うので、こんな人達がいるんだったら一刻も早く解決して欲しい。
7. ヤングケアラーという言葉は初めて聞いた。
8. 中学時代の友人が母を介護していた。その友人は高校進学をするも何らかの理由で高校を中退したと聞いたことを思い出した。
9. 支援をするにしても、それぞれが抱えている問題も求めている支援も違うと思うので、個々の相談に乗り、解決していくことが大切だと思います。なので、相談ができる環境づくりが大切なのかなと考えました。
10. デイサービスを充実させてほしい。
11. 少しでもヤングケアラーへの支援が増えることを願っています。
12. 世の中にはヤングケアラーのような人がいるんだなと思った。

13. ヤングケアラーで困っている人を急速に把握し、学校側が直ぐに対応できるよう相手の話をよく聞くことが必要だと思う。また、支援を強化して生活を支えることが必要だと思う。
14. ヤングケアラーについて詳しく知ることができました。
15. ヤングケアラーについて考えるきっかけになった。
16. ヤングケアラーについてもっと理解を深められたらと思います。
17. ヤングケアラーについて知ることができた。
18. ヤングケアラーによって大変な思いをしている、学生の皆さんが、自分の趣味や勉強に時間を費やすことができるようになることを願います。
19. 親から逃げられるようにしてほしい 逃げられなくてくるしい。
20. 子供が得られる当たり前の権利が得られる様に支援して欲しいと考えます。その為、親への援助も必要と考えます。
21. このアンケートを行うことはとても意義のあることだと思います。一つ質問があります。私はヤングケアラーではないのですが、もし実際にヤングケアラーである友達にいたり、見かけたりしたら私ができることは何かありますか？要望に関しては学校の授業での一環で「ヤングケアラー」についての講習会や説明会を開いてほしいです。今後とも宜しくお願いします。
22. このアンケートから、子どもが家事や家族の世話をやらなければならない家庭もあるということがわかったので、そういう人を見たり聞いたりしたら積極的に助けたいと思いました。
23. 今まで私はヤングケアラーについて詳しく知りませんでしたが、このアンケートを通して、きちんと知ろうと思いました。
24. アンケートを通してヤングケアラーについて考えないといけないと思った。
25. パンフレットに書かれている様に誰にでも起こりえる事だと思います。アンケートは年一度とかでは無く回数を増やす、早期に見つけ支援、経過観察すべきだと思います。近所、地域が気づき働きかけが出来れば良いとおもいますが、当事者が相談出来る場も作り広めていければ良いかと思います。
26. 私は特に困っていないので大丈夫です。
27. ヤングケアラーについてあまり考えたことがなかったので、とても良い機会でした。
28. 私はヤングケアラーですと周りの人に言いにくい環境にあると思うので、このアンケートのように友達には知られないように先生などの大人に伝えられる手段を増やせると良いと思いました。
29. 自分は親が離婚し母親だけが働き家計も厳しいです。そのため政府には僕達のような家庭やヤングケアラーの人たちに向けての支援をもう少し増やして欲しいと思いました。

30. ヤングケアラーの人たちを支援してほしいと思った。
31. 学校側とヤングケアラーのいる家の人たちで情報を共有して、ヤングケアラーの人をできるだけサポートしてあげてほしい。
32. 自分の近くにヤングケアラーの人がいたら寄り添っていきたいと思いました。また、もし自分がケアラーになったら一人で抱え込まず友達などに相談できるようにしたいです。
33. 改めてヤングケアラーが大変なことになっているのを感じて身近にいたら少しでも相談に乗れたらなと思いました。
34. 学生がヤングケアラーになり、ストレスの溜まる生活をしないように支援をして欲しい。
35. ヤングケアラーが増加傾向にあるので、経済面での支援を増やした方がいいと思う。
36. 帰宅の時間を早くするために朝清掃を行なってほしい。
37. 人には言えない悩みもあると思うので、これからも定期的にアンケートを行って欲しいとおもいます。
38. もっとアンケートをする頻度を増やせば問題が減ると思います。
39. 親が健康に過ごせていて家族楽しく生活できることは幸せだなと思った。
40. ヤングケアラーの良くない点をみんなに認知して貰えるようにした方がいい気がします。
41. 私の周りにはヤングケアラーにはあたる方はいないですがアンケートをとる事や支援を教える事はいい事だと思います。
42. ヤングケアラー問題が多く発生していると思いますが、それを改善できるような対策を考え早く行動することが大切だと思います。実際、困った友達などを見つけたら、助けてあげたいです。
43. 今回のアンケートで、ヤングケアラーとはどういうものなのか、また、ヤングケアラーが直面する問題について知ることが出来て良かったです。
44. 子供が勉強や学校生活に専念できるのは恵まれていることだと思います。
45. 1人で頑張っている人を、出来るだけ支えられたらいいと思いました。
46. とても、いい質問だと思います。
47. ヤングケアラーの人は自身が気づいていない場合もあるから、こういったアンケートで事実を知らせることは大切なことだと思う。だからこのアンケートで彼らの負担が減らすための支援を望む。
48. バイトする時間をつくってあげてほしい。
49. 家族の世話や介護を理由に夢を諦める人がいないような社会にできるように自治体や国がさまざまな支援を行うことを期待しています。
50. ヤングケアラーについて少し知ることができました。

51. ヤングケアラーについての知識や相談方法などを知ることができた。
52. そんな家庭があるということに改めて気付かされました。
53. 悩んでる子が救われたらいいなと思ってます。
54. 今は関係ないと思っていてもいつかなってしまうかもしれないので他人事ではないと思いました
55. ヤングケアラーをしている家庭に給付金を与えるという政策をしたら良いと思う。
56. 精神的なケアにも力を入れてもらいたいです。
57. 7 個下の弟がおり、その弟のお世話をするのは当たり前の事だと、ずっと思っていました。しかし、このアンケートを行って、最近の社会問題となっているヤングケアラーの対象に入っていたため、正直ビックリし、不安にもなりました。私は高校 1 年生で、自分の課題などで毎日が忙しいので、家族と協力して毎日過ごせるよう、頑張りたいと思います。また、スマホで暇な時に学習できる、無償のアプリを作って欲しいです。
58. 外国の学生より、日本の学生や家庭の支援をしてほしい。
59. ヤングケアラーは絵を見た感じでも大変そうだが、あまり耳にしないのももう少し支援してもいいのではと感じた。このアンケートを実施したことにより、自分のようなあまり知識がない人でも少しは関心を持ったので、ぜひこの取り組みを続けて欲しいです。
60. ヤングケアラーの人が同じ学年にいるかも知れないと思うと、心が痛みます。
61. このアンケートを通して越谷市内に限らず、他の地域にもいるケアラーの人数を明確にして解決策などを地域の人々と共に考えれたらと思います。
62. 同じ年代の子供が、学ぶ機会や青春を楽しむ機会を奪われてしまうのはとても悲しく辛いことです。このようなアンケートで 1 人でも多くの実態を把握し、1 人でも多くの子どもの時間を行政の力で確保できる体制が整っているならば素晴らしいと思います。これからの越谷市の支援を期待しています。
63. ヤングケアラーの負担が少しでも軽くなるといいですね。
64. ヤングケアラーの方について、職員等は把握をして精神的に支えてあげたり、行政は様々な観点から支援を行うことが大切だと感じる。
65. テストをなくしてほしい。母子家庭にお金支給。
66. 昼休みに校庭で遊んでいいのか。
67. 実態を把握するため、アンケートなど不特定多数に向けた声掛けはすごく大切だと思います。行政ができる具体的な支援をもっとアピールしてほしいです。金銭的負担、介護者の身体的負担、精神的負担を軽減する具体的なサポート内容をわかりやすく表してくれたら、ちょっと頼ってみようかなという気持ちになるのではないかと思います。
68. 現在、継続して利用できるサービスがありません。ADHD と自閉症の会話が出来

ず、困った夫に、手帳を取れと言って8年経ってようやく取りましたが、行政が積極的に手帳取りましようと、動くべきかと思います。20年間誰も助けてくれなかったし、今でも同じ状態です。このあと私が倒れたら、娘もちょっと自閉症の感じがあるのに、一人で4人の障害者と私のケアをすることになります。それは絶対避けたいので 男全員死んでいい。だから、娘には海外へ逃げなさい。と教えて育てました。しかし、娘が、海外に行けば、残った男3人兄弟のうち、比較的軽い方の高校生のこの子が一人で全員を背負う事になります。私には手帳をください。5人の発達障害を面倒見てますし、支援はゼロです。支援の手は全然足りません。24時間体制は警察のみ。警察しかない現状では、男の子3人には絶対子供は作るなと教えて育てています。

69. ヤングケアラーの当事者が”本当”に誰かに話しやすい環境をつくり、解決できるようになったらいいなと思います。
70. ヤングケアラーの問題が懸念される世界で、好きなことをやれている喜びをかみしめたいと思いました。また、悩んでいる人がいたら、率先して声をかけたりできるようにしたいと思った。
71. あまり関わりのないこととして認識してしまっているのも、実際にこういう人たちもいるということを知って、考えていく必要があるのだと感じました。
72. 実際、ヤングケアラーという立場にいる子どもたちは我慢を強いられていることが多いと思います。学歴や過去の経歴を見て就職先は合否を決めるこの世の中では羽を伸ばして生きていくことが難しいです。このアンケートの結果を元により良い対策をお願いします。
73. 自分はヤングケアラーではないですが、そういう人がたくさんいることをよくテレビで見かけます。このような質問も今までにたくさんされました。今回、また同じような質問を受けて感じたことを書かせていただきます。アンケートをとることは大切である、私はそう感じます。ですが、何度も何度もアンケートをとることで、状況は変わりましたでしょうか。私はそう感じません。アンケートをとるなら、行動に移してください。訴えをしている人はたくさんいるはずですよ。その人たちのために動いてください。未成年である私には、経済的なサポートなどすることは不可能です。ですから、大人であるみなさんをお願いしたいのです。アンケートをとるなら、成功例を早く見せてください。お願いします。
74. 良いと思います
75. 世の中には、家族間での問題を抱えている人は、多くいるので、もし自分が今後なにかしらのことで体や、内面的なことで自分の息子に無理をさせることがあるなら心配をかけさせたくないと感じた…
76. 相談しやすいように、相談のしやすさをアピールしたら話しやすくなるんじゃないかと思いました。
77. ヤングケアラーをなくすようにもっと対策した方がいい。彼らは自分たちがそうだ

とっていない。

78. ヤングケアラーの人が増えているのかなと感じた。
79. ヤングケアラーを自分はあまり認知していないと思った。
80. ヤングケアラーというものを知るいい機会になった。
81. 改善すべきだと思いました。
82. ヤングケアラー問題が解決するといいと思いました。
83. いざというときのために考えておく機会を作りたいと思った。
84. アイスの自動販売機と体育館に冷房が欲しいです。
85. ヤングケアラーとは、どういうことを指すのかを改めて再確認できた。この知識を将来に生かしていきたい。
86. ヤングケアラーとして頑張ってる人は身近にはいないが、こういうことをして頑張ってる人もいることを知った。
87. 今後、誰かから相談を受けたときは、真剣に相談に乗ってあげようと思う。
88. ものの値上がりがすごいので、物の値段を下げてほしい。金融機関の安定を求めます。
89. みんな平等の世の中へ。
90. 学業への影響を減らしてあげてほしい。
91. ヤングケアラーの問題は子供の心身に影響を与える繊細なことなので、こういうアンケートは大切だと思います。
92. 私自身や周りの人でヤングケアラーがいないので、実はあまり身近に感じる事が出来ていません。将来介護職に就きたいと思っているので個人的に勉強はするつもりですが、そうでない人達がヤングケアラーなどについて知る機会がもっと増えたらいいなと思います。
93. ヤングケアラーがどこまでが含まれているのか、また、それによって生活に影響が生じた場合にはどのような対応をされるのか。状況を知るのはもちろん、具体的な対応策がないとこのような事態は変わらないのでは無いかと思います。伝えようとしても周りの大人に言っても意味がなかったり、曖昧に誤魔化されたり、頼り方がわからない人もいると思うので、家庭の事情というのは難しい課題かもしれませんが、解決のために頑張ってもらいたいと思います。
94. それに関する指導。知識を教えること。
95. 自分の家の事だと人に話しづらかったりしてひとりで抱えてしまいそうだなと感じた。
96. 友達にケアラーがいたら、相談してもらえそうな頼れる人になりたいなと思いました。
97. ヤングケアラーはとても深刻な問題だなと思った。このような問題を解決すること

は不可能に近いのかなとも思った。

98. 私はヤングケアラーでもなく、近くにそれらしき人もいなかったが、実際にそうである人が身近にいたら支えになりたいとおもった。
99. 何か、私たちがその子たちのためになれるようなことがありましたら、教えていただきたいです。対応や話しかけ方など、大切にして欲しいことなどありますでしょうか？多くの人が何らかの形でそれらを知ることが出来れば、今よりもヤングケアラーの人たちが生活しやすい社会にすることが出来ると思いますので、何卒ご検討よろしくお願いします。
100. ヤングケアラーの問題を解決するための良い方法だと思いました。
101. よくわかんない。
102. 実際にいても表面化はしにくい問題。家庭調査票に項目の追加なども必要ではないか。
103. 支援ももっと増やしたほうがいい。
104. 学校の老朽化をどうにかしていただきたいです。
105. スムーズに回答出来て良いフォームだと思います。
106. ヤングケアラーの方の負担を最大限減らせるようにするにはどのようなことが必要なか知りたい。
107. 親が思うほど子供は子供で無いと私は思います。家庭の事情が重い程、相談しづらく自分だけ我慢すれば良いと感じる。いかに私達がそれに気づき距離を縮められ、その子との信頼関係を築けるかだと思います。一番近い大人としたら学校の先生だと思いますが。
108. 障害などを持つてる人を社会全体で支えていくべきだと思う。
109. 福祉施設や児童施設の充実化を求める。
110. 就職や友人関係などに影響が出てしまうのは良くないと思うから、そういった環境をもっと整えてほしいと思う。
111. いずれの人も平等に教育を受けられたり就職出来るようになって欲しい。
112. 自分や自分の周りにはヤングケアラーはいないけどこの先で家族の介護や看病をしている子に出会ったら身体的にも精神的にも手伝ってあげたいと思った。
113. ヤングケアラーの人は自分では周りに相談できないと思うし、自分で全部やろうとしてしまうと思うから、周りの人達が気づいて、本人の精神的な負担だけでも軽くできるようにしてほしい
114. 施行する行政の人間の勝手な想像ではなく、ヤングケアラーの当事者たちの声を反映した政策を行ってください。
115. ヤングケアラーで支援を受けれていない人は自分がヤングケアラーだと気づけていないのではないかな。このアンケートでヤングケアラーに気づくのは難しいのでは。
116. こういう活動や調査が全国でもっと活発に行われたらいいなと思った。

- 117.このアンケートで支援を求める人は少ないのではないかと思います。公助は受けていいものだ、という考えをもっと浸透させなければ効果が薄いと思ったからです。
- 118.ヤングケアラーの人は自身がそうであると気付かないのでは無いかと。それが当たり前だろうから。
- 119.相談を受けたりしたことはないが、学校を辞めてしまった子の様子がヤングケアラーのようで、毎日学校に来てても疲れていて、とても辛そうだった。学校を辞めなくてはならないような状況にならないような支援が早く普及して欲しい。
- 120.ヤングケアラーは発見するのが難しいと思うが、絶対にいると思うので自治体は積極的なサポートを行える仕組みがあると良いと思う。
- 121.ヤングケアラーは当事者でも隠そうとする人が多いときいたので、このようなアンケートを行っても隠す人は隠してしまうのではないかと思います。
- 122.話を聞くだけでなく、具体的にお金の支援や制度の使い方を教える支援が必要だと思う。
- 123.身の回りにヤングケアラーがいるかは分からないが、いるかもしれないと考えさせられた。
- 124.家族の世話等で 学業成績に支障が出た場合夏休み等にオンライン授業が補習として受けられたら いいと思います。また 病院への付き添い等で学校を欠席する場合 欠席扱いにならない等の対応があればいいと思います。
- 125.とにかく小学校からヤングケアラーに関して教えて欲しい。子供は自分の置かれている状況が異常だ、ということを知らないから。
- 126.行政がもっと支援すべきだと思う。ボランティアがどうにかできる範囲では無いと思う。
- 127.まず第一に、ヤングケアラーを孤立させてはいけないと思います。
- 128.ヤングケアラーは大変だと思うので支援してあげて欲しい。
- 129.ヤングケアラーに出会った事がないと思っていたけど、私が知らないだけで沢山いるのだと感じた。ヤングケアラーとそうでない人で時間の使い方や精神的な負担の違いが出ると思うので、そこへの対策をして欲しいと思った。
- 130.ヤングケアラーの方が不自由なく生活できるような支援。
- 131.ヤングケアラーに対する対応を五兆円の費用の中で対応して人の世話をすることに苦痛を感じないようにさせたりお金の苦勞をさせないようにしたりするといい。生まれた子供に対しての対応も勿論必要だがそれ以外にも対応すべき点は多数ある。
- 132.実態を把握するのは大変ですし、踏み込むことも難しいかと思いますが、子どもの生活権、学習権が、保障されて自分のやりたい道へ自立していけるよう支援をしていただけたら、すばらしいと思います。学校がまず、窓口になれるよう先生方と生徒の信頼関係が大切ですね。行政でもこのように、知らせたり、実態を把握するために、今後もよろしくお願いいたします。

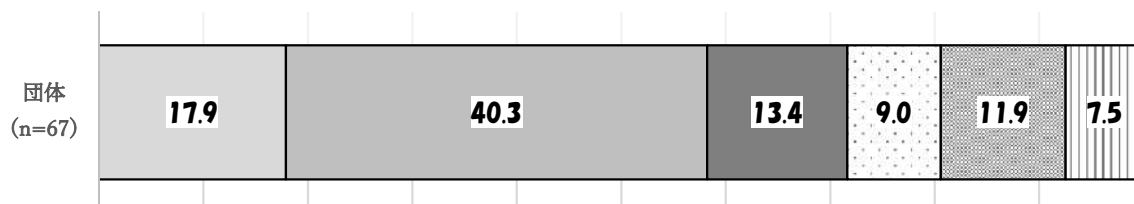
133. ヤングケアラーが原因で学校生活だっったりに影響が出てしまうことがあることを知りヤングケアラーの方への支援が多く広まったらいいなと思いました。
134. ヤングケアラーの人達や馬鹿にする言動など態度をしない。学校で今一度、先生達が皆にしつこいぐらいに言った方がいいと思います。先生の前では良い生徒のフリをして裏では暴言を吐いてる人がいるはずなので!
135. 自分や自分の友達にヤングケアラーの人はいませんが、もしこれからヤングケアラーの人に出会ったら、優しく平等に接していこうと思います。

VI ケアラーを支援している団体等

質問1 ご回答いただく貴事業者・団体について

単位：％

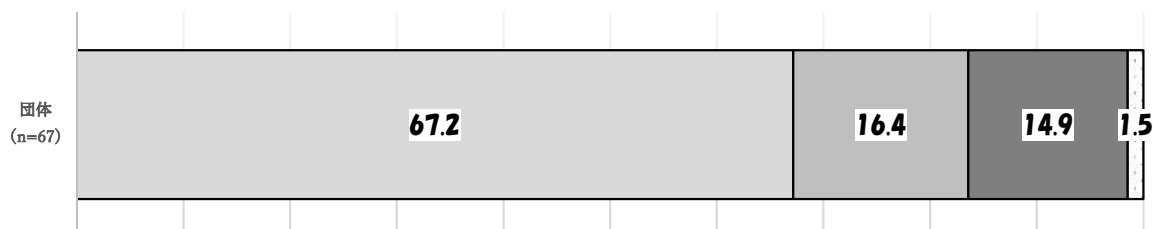
- ☐ 地域包括支援センター
- ☐ 居宅介護支援事業所
- ☐ 障がい者（児）相談支援事業所
- ☐ 介護者サロン
- ☐ オレンジカフェ
- ☐ その他ケアラーの支援に係る団体等
- ☐ 子ども食堂
- ☐ 回答不備・無回答



質問2 ケアラーに関する認知度について

単位：％

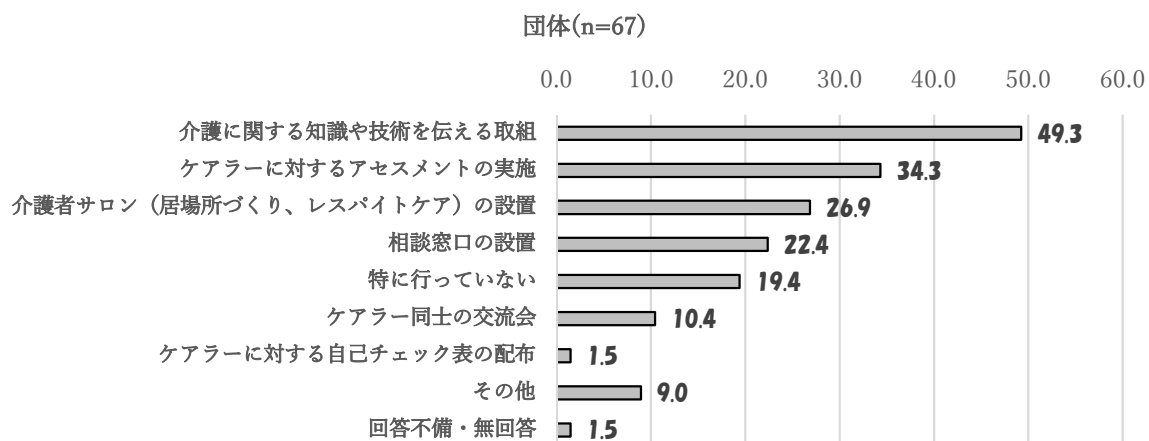
- ☐ 全ての職員が知っている
- ☐ 多く（半数以上）の職員が知っている
- ☐ 一部の職員は知っている
- ☐ いずれの職員もあまり知らない
- ☐ 知らない
- ☐ 回答不備・無回答



質問3 ケアラー本人への支援として、ケアが必要な人をサービスに繋げる以外に行っている支援について（複数回答）

「介護に関する知識や技術を伝える取組」と回答した割合が、49.3%で最も高く、次いで「ケアラーに対するアセスメントの実施」、「介護者サロン（居場所づくり、レスパイトケア）の設置」の順で高い。また、「特に行っていない」の割合が、19.4%となっている。

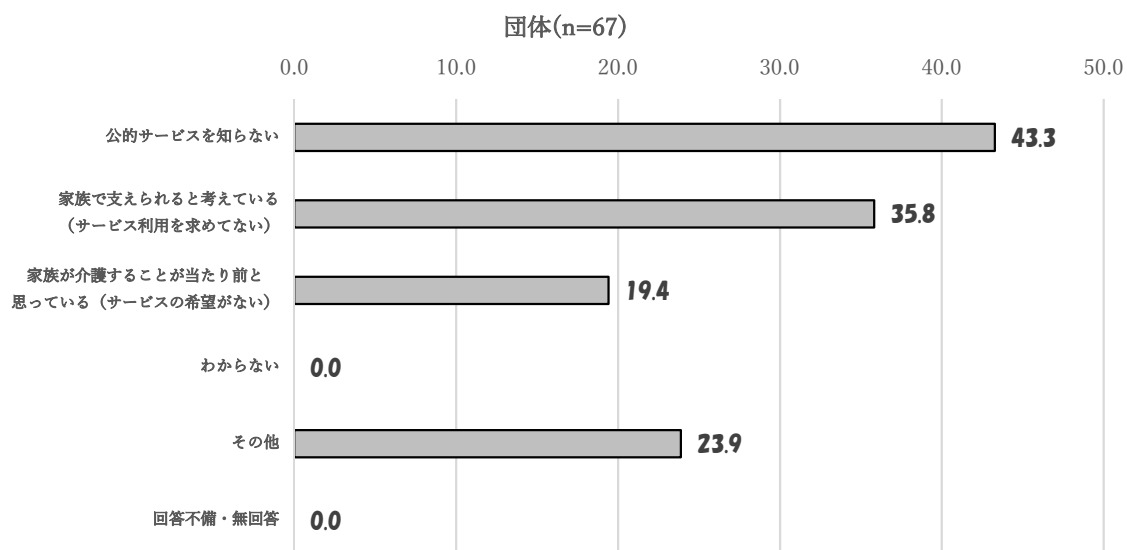
単位：%



質問4 介護や療育などのケアを必要としている人が、そもそもの相談に繋がらない理由について（複数回答）

「公的サービスを知らない」と回答した割合が、43.3%で最も高い

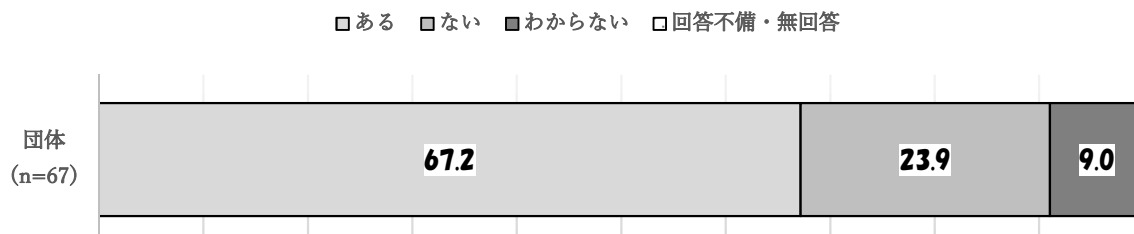
単位：%



**質問 5 過去に受けた相談の中で、ケアを必要としている人が、
公的サービスの利用に至らなかった事例について**

「ある」と回答している割合が、67.2%で最も高い。

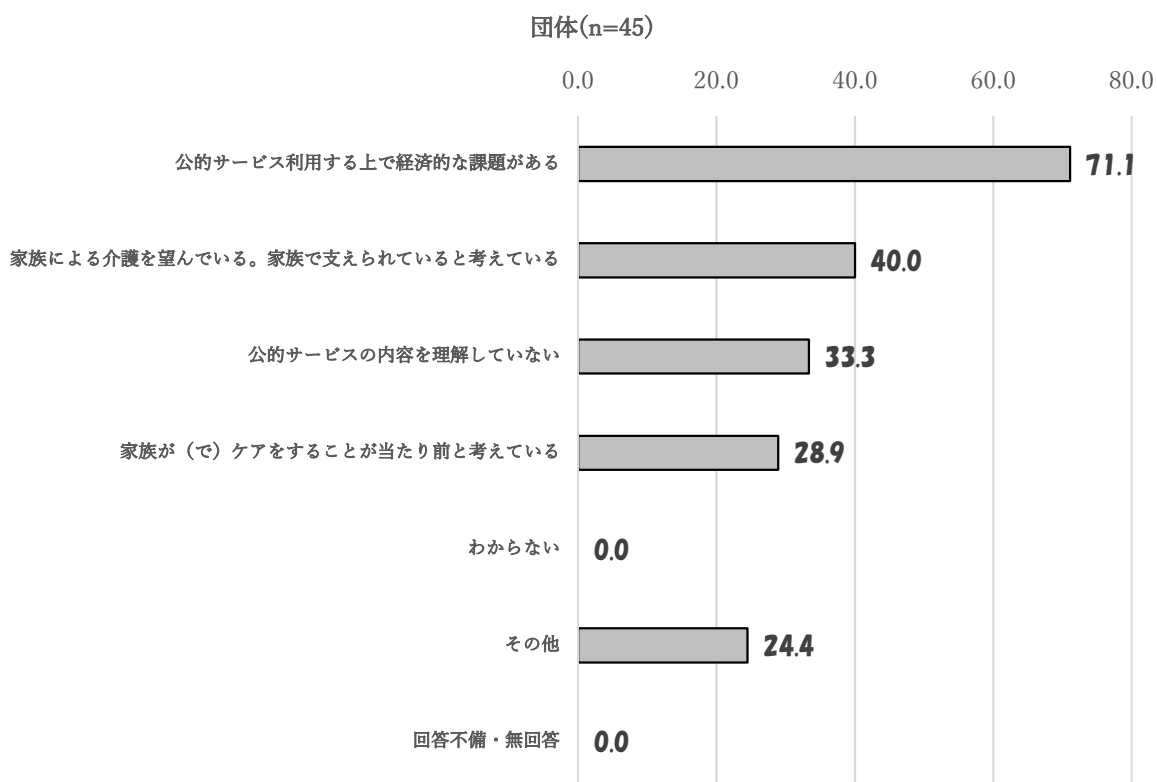
単位：%



質問 6 相談につながったにもかかわらず、公的サービスの利用に至らなかった理由について（複数回答）（質問5で「ある」と回答した方）

質問5に関連して、「公的サービス利用する上で経済的な課題がある」と回答した割合が、71.1%で最も高い。また「家族による介護を望んでいる。家族で支えられていると考えている」、「公的サービスの内容を理解していない」の順で高くなっている。

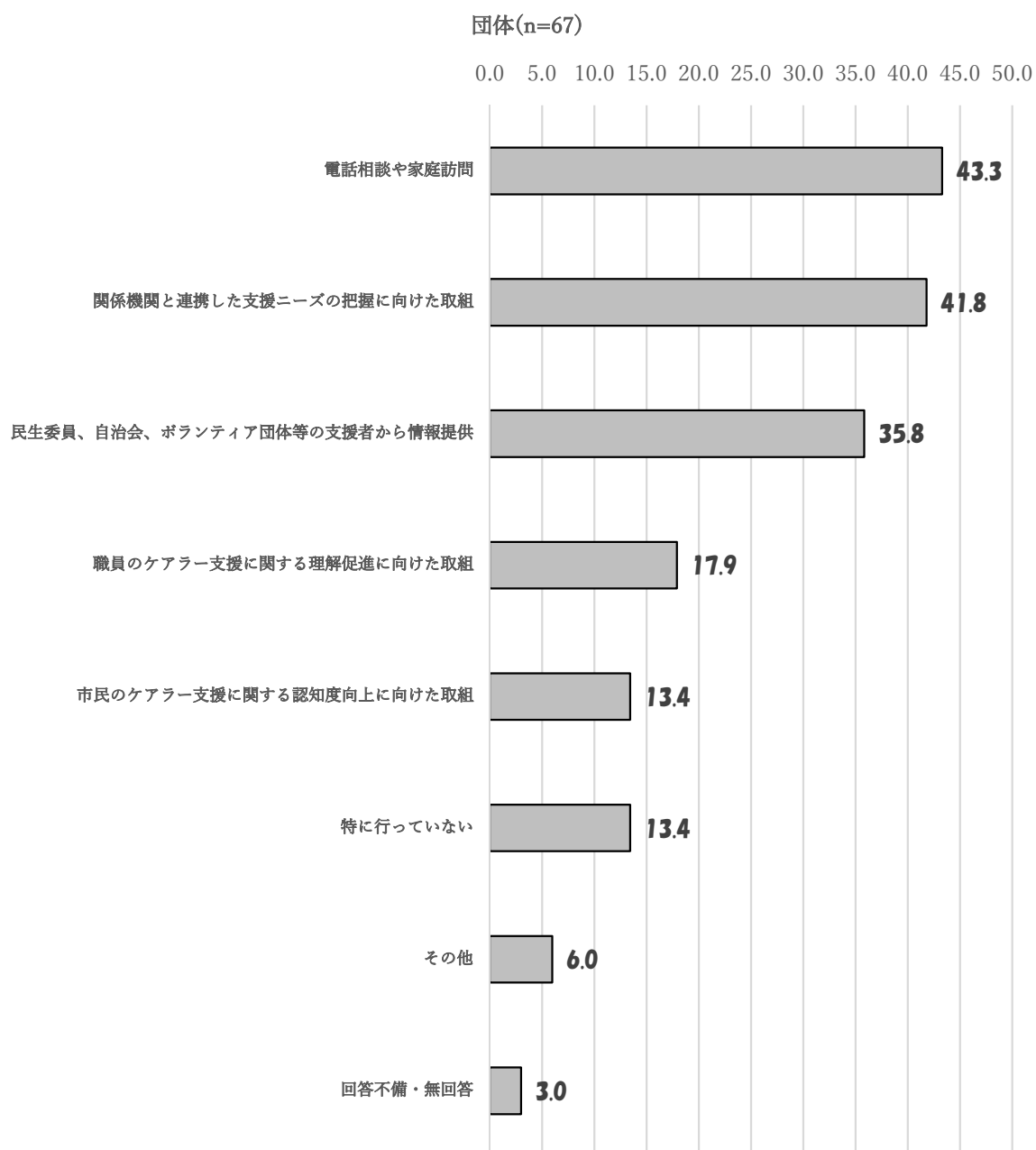
単位：%



**質問 7 支援につながりにくい家庭を支援に結び付けるため、
どのようなことを行っていますか。(複数回答)**

「電話相談や家庭訪問」と回答した割合が、43.3%で最も高く、次いで「関係機関と連携した支援ニーズの把握に向けた取組」、「民生委員、自治会、ボランティア団体等の支援者から情報提供」の順で高い。また、「特に行っていない」と回答した割合が13.4%となっている。

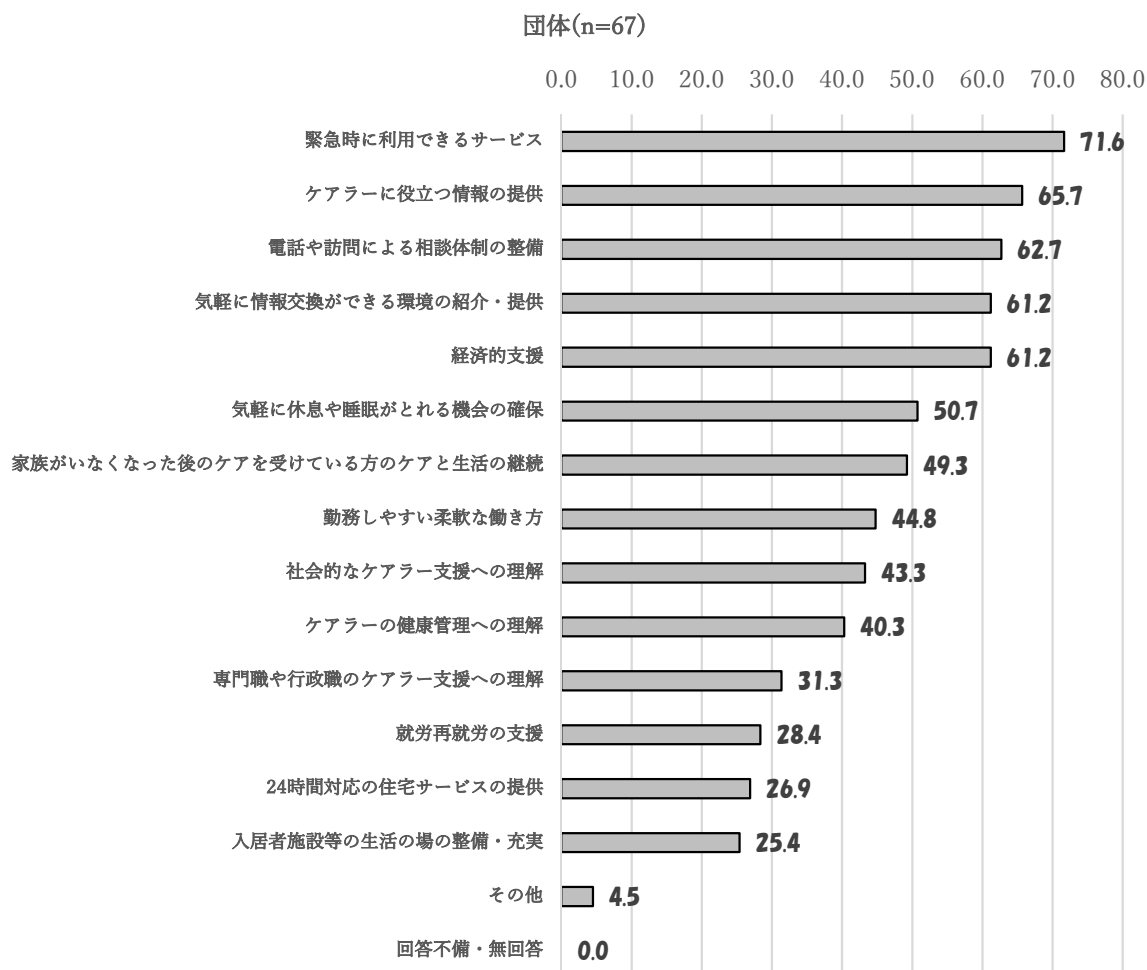
単位：%



**質問 8 ケアラーに求められる（必要と思われる）
支援について教えてください。（複数回答）**

「緊急時に利用できるサービス」と回答した割合が、71.6%で最も高い。次いで「ケアラーに役立つ情報の提供」、「電話や訪問による相談体制の整備」の順で高いが、多くの項目が回答されている。

単位：％



質問 9 ケアラー支援や民間支援団体に対する支援の要望があればご回答ください。

<意見全文（原文のまま）>

1. 民間さんと責任のラインが不透明
2. ケアラーご自身がメンタルで服薬されていることも多いです。その中で子どもをバス停や学校まで送る、迎えに行く等に変化を感じる方も多いです。有料のサービスへの抵抗もあります。こういったところで体制を整えていくことが出来るか、また繋がりを持つことができるか、事業所の相談員達も考えるところです。
3. 私達は子ども食堂を運営していますが、食支援や居場所の提供が必要な児童の情報はあまり入りません。（フードパントリーや学習支援の方が多く情報が入るのではないかと思います。）学校が不登校等について把握していると思うので、支援者への情報提供を率先して行なって下さると繋がりやすいのではないのでしょうか。私達にもやれる事があると思いますので、地域の子どもの食堂の存在も先生方に理解していただいてオープンになっていただけると助かります。
4. ケアラー自身、外での交流の場や情報収集に出られるようになることが大事ですが、何かを求めて外へ出ることがないケアラーの支援が必要かと思います。個人情報の関係で難しくはなっていますが、「こちらから出向く」訪問面談等の支援で発掘して行かないと沢山埋もれているように感じています。
5. 家族同居で介護保険利用に「しほり」があり、ケアラーの負担が大きい。
6. 病院や薬局のモニターで、ケアラーが一人で悩まないで、と呼びかけ等を多く放送してほしい。まだ家族制度の考え方があり、長男、その嫁などケアをしなければならないという義務感が強い。
7. ケアラーであることが悪いことではなく、そのことで生きる役割になっている場合があることにも目を向けないとならないと思う。本人のタイミングと、周りが気が付く疲弊のタイミングのずれなどを慎重にチーム共有することが、ケアラーを本当の意味で守ることになると考えている。
8. ケアラーの現在の状況、心情、苦勞を、どこに話せば良いか、わからない人が多い（知らない人が多い）公的サービスがあるにもかかわらず、ケアラーに伝っていない。公的サービスの窓口があっちこっちにいくつもあるため、どこへ相談したら良いかわからないのが、多いのでは？介護に関する相談窓口を大きく 1 つにして（ケアラーには、「あそこに相談に行けば何とかなる」としてもらうこと。
9. 支援に関わる専門職の力量不足を感じます。専門職に対してのセミナーの開催等、レベル（スキル）アップを図るのも重要と考えます。
10. ケアラーが閉じこもりの場合の支援策に有効的な手段がみつからない。
11. ケアラーの方がまずは意識して支援を求められる社会的環境づくりが必要と考えます。それには行政棟の積極的アウトリーチが必須だと思います。このアンケート等がその一助となることを祈ります！！

12. 知られていない。どのような団体がどのようなサービスをするのかわからない。
13. ケアラー自身の病気の事となるとなかなか難しく、支援が途中になったりケアラーの病気の症状により、二転三転し進まない事がはがゆい。・小学校等に認サポに出向くがヤングケアラーの発見はまず、学校ではと思うしかし、学校からの相談はない。
14. 介護している家族の中には、他の家族や協力が得られなかったり、本人の状態が不安定で、相談できる窓口が分からなかったり、本人から目が離さず相談に行けなかったり、今後の経済的な不安が大きくサービス利用に繋がらない方が多いように感じます。介護に疲れ切ってしまい、新しいことを始められない方もいます。若い方では、包括も市役所も病院も平日しか開いていないため相談や受診ができないという理由で仕事を辞める方もいます。もっと早く相談を受けていたら違っていただかもしれないと思いますが、その最初の相談のハードルが高いのだと感じます。せっかく相談できる窓口があるので、私たちも制度や窓口について学び、必要な方にきちんと情報提供していきたいと思います。
15. 民間支援団体です。ケアラー同士で話し合う内容は、シリアスなことです。あまり、人に聞かれたくない内容であるため、安心して悩みを打ちあける場の設定が重要であると思っています。できれば、公共施設の一部を開放してもらえるなどの支援があると良いと思います。・スタッフの研修が必要です。研修を受けることができれば、支援者の選択を広げていくことができると思います。
16. 支援を必要としていて、専門員の視点からも支援が必要と認められるが、利用できる社会資源（特に重度心身障害者向け）が少なすぎる。相談を受けても利用できるサービスがないとなると相談をしようという気持ちが離れてしまうのではないかと？障がい者等相談支援センターが積極的に動いてほしい。
17. 施設（待機、有料）の費用が高い。非課税の方は経済的に困難で、限界になっても介護をしている。10 万円以内で入居できる施設を増やしてほしい。限度額を広げて、介護保険のサービスを利用できるようにする必要があると思います。（要介護 3, 4, 5）
18. 介護保険制度ができて 20 年余りたちますが、市内でも農村地区にお住まいの方や、一部の方に、制度を利用することは恥ずかしいこと、家族ができないのはおかしいという考え方がまだあります。仕事を辞めて親の介護をするのは美徳ではありません。親が亡くなったあとの介護者は再度仕事に戻るのは困難です。ケアラーの人生を考えると、介護離職することは、マイナス面が多いのではないのでしょうか。ケアラーの方が行き詰まらないよう、介護サロンを始めました。初めのうちは他の方の話を聞くだけだった方が、ご自分の介護の話をされ、同じようなことで悩んでいる方がいることがわかって、ほっとした。自分だけじゃないと思うともう少し頑張れるとご意見をいただきました。サロンでは、介護保険の様々なサービス、特に新しいサービスについて説明したり様々な施設の方に来ていただき、施設の特徴を伝えるなど、有益な情報提供もしています。

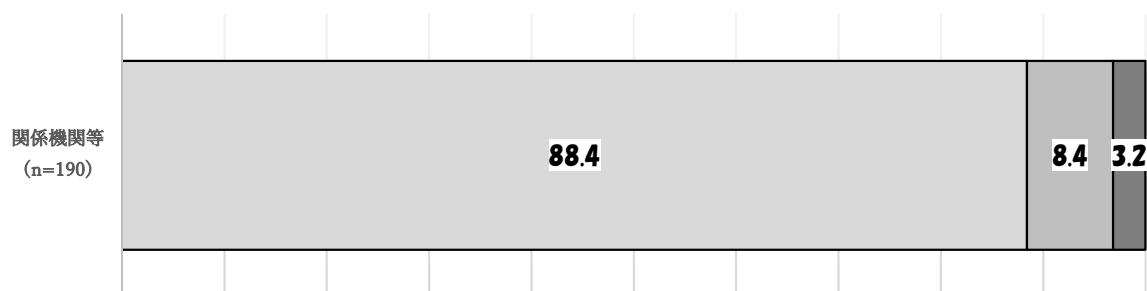
VII ヤングケアラーに関係のある機関等

質問1 ヤングケアラーという概念の認識について

「認識している」と回答した割合が、88.4%で最も高い。

単位：％

□認識している □昨年までは認識していなかったが、認識するようになった ■認識していない □回答不備・無回答



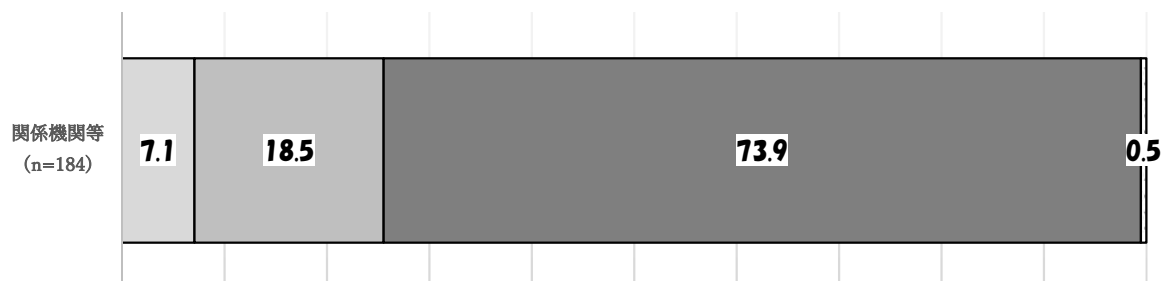
質問2 ヤングケアラーと思われるこどもの実態の把握について

(質問1で「認識している」「昨年までは認識していなかったが、認識するようになった」を回答された方)

質問1に関連して、「該当するこどもがいない」と回答した割合が、73.9%で最も高いが、「ヤングケアラーと思われるこどもはいるが、その実態は把握していない」と回答した割合が、18.5%となっている。実態を把握していると回答した割合は全体の7.1%であった。

単位：％

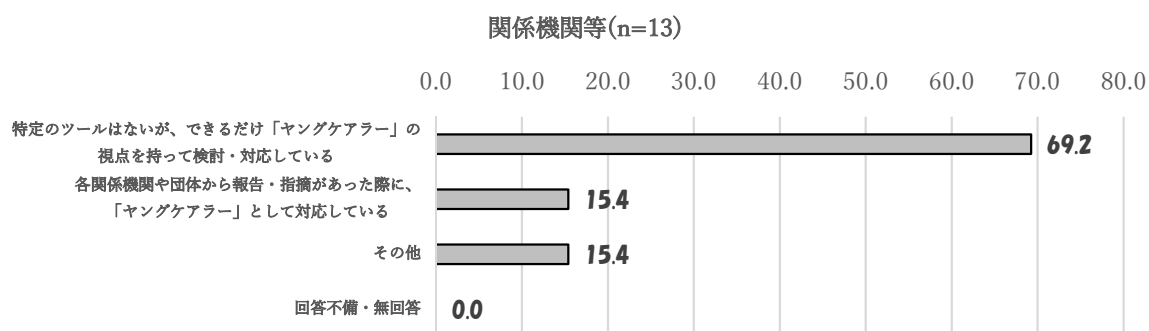
□把握している □ヤングケアラーと思われるこどもはいるが、その実態は把握していない ■該当するこどもがいない □回答不備・無回答



質問3 ヤングケアラーと思われるこどもの実態の把握方法について（複数回答）
（質問2で「把握している」と回答された方）

「特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している」と回答した割合が、69.2%で最も高い。

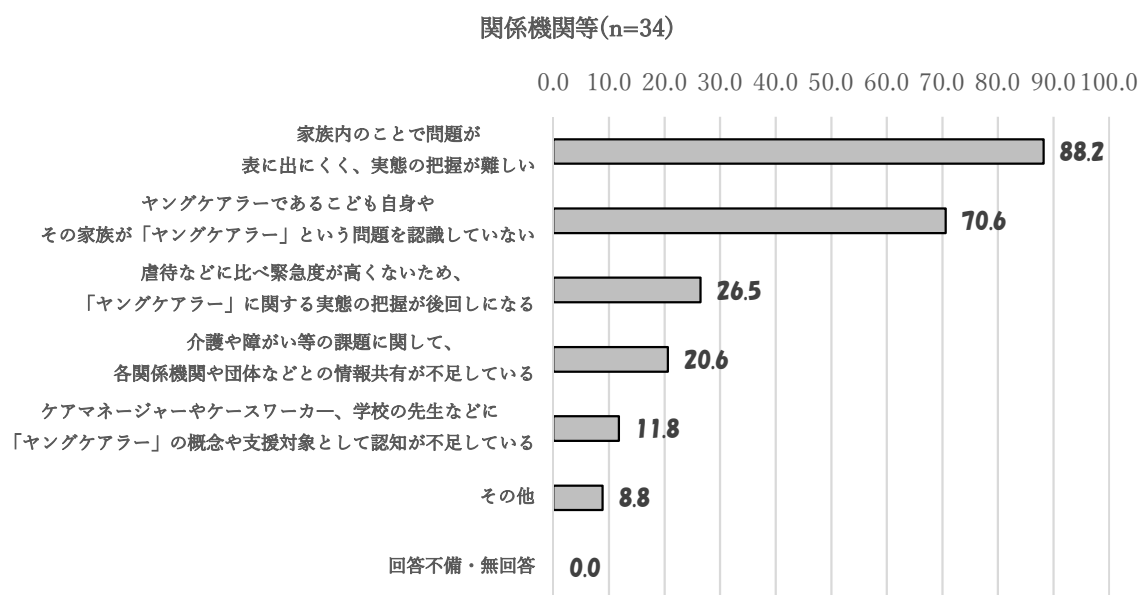
単位：％



質問4 実態を把握していない理由について（複数回答）
（質問2で「ヤングケアラーと思われるこどもはいるが、その実態は把握していない」と回答された方）

質問2に関連して、「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」と回答した割合が、88.2%で最も高く、次いで「ヤングケアラーであるこども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」と回答した割合が高い。

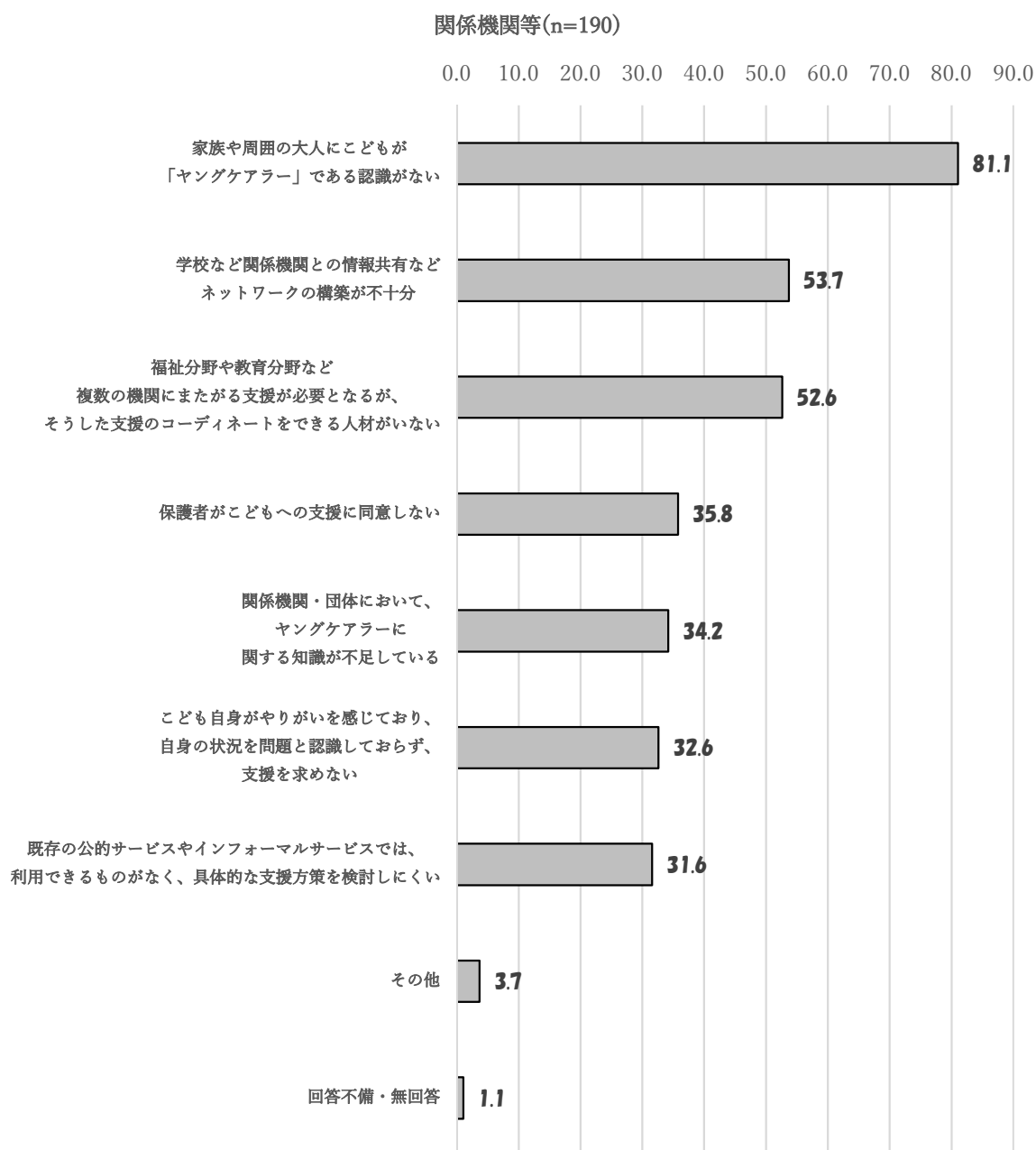
単位：％



**質問5 ヤングケアラーと思われる子どもに対して支援をする際に、
考えられる課題について（複数回答）**

「家族や周囲の大人に子どもが「ヤングケアラー」である認識がない」と回答した割合が、81.1%で最も高く、次いで「学校など関係機関との情報共有などネットワークの構築が不十分」、「福祉分野や教育分野など複数の機関にまたがる支援が必要となるが、そうした支援のコーディネートができる人材がいない」の順で高くなっている。

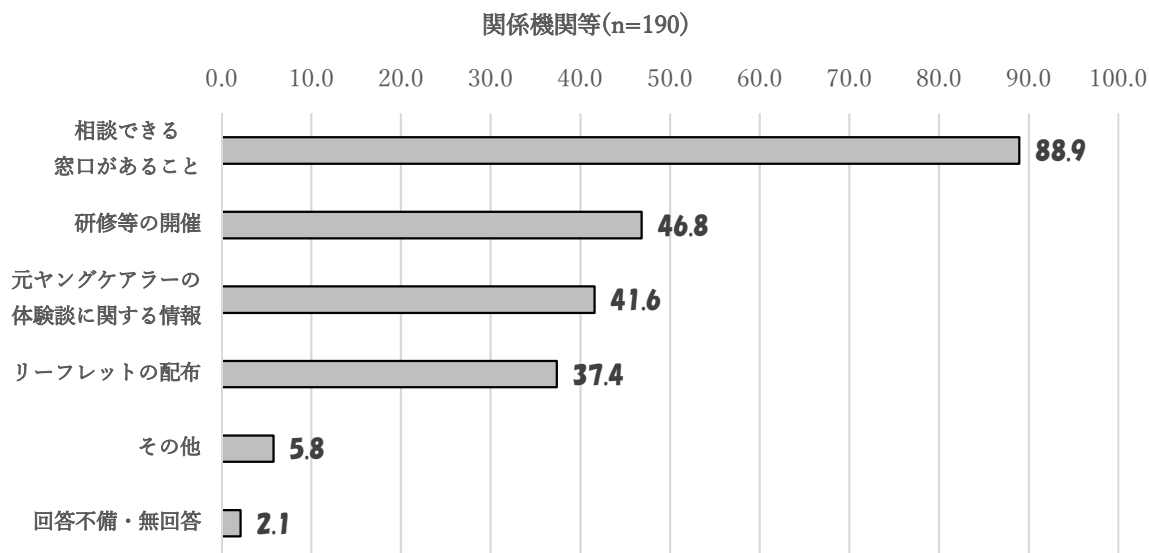
単位：％



質問6 ヤングケアラー支援に求められる（必要と思われる）支援について（複数回答）

「相談できる窓口があること」と回答した割合が、88.9%で最も高く、次いで「研修等の開催」、「元ヤングケアラーの体験談に関する情報」の順で高くなっている。

単位：％



**質問7 ヤングケアラーと思われる子どもへの対応として、
学校やケアが必要な家族の関係機関等に期待することについて**

<意見全文（原文のまま）>

1. 助けを求めやすい窓口となるようにする。相談や話を聞くだけでなく、実際に介入できるような体制を整える。
2. ゆっくり寄り添ってあげて、相談して良い事をわかってもらう。
3. ヤングケアラーに対して、具体的に何を支援するのかを明確にし、窓口はワンストップで行わないとならないので、たらい回しにせず相談に乗れてスピーディーに動ける機関を作って頂きたい。
4. 十分なヒアリング。
5. 専門職が相談しやすい環境。
6. 頻繁な家庭訪問による現状の確認。公的支援の紹介。
7. 『お手伝い』と『ヤングケアラー』との違いを明確にする。例えば、『いじめ』は「嫌な思いをしている本人が『いじめ』と感じた時点で『いじめ』となる」というように、誰でも判断できる基準があると認識しやすいように思う。ヤングケアラーの定義として「本来大人が担うと想定されている家事や・・・」とあるが、人によって捉え方が異なるので、渦中にいる人にとっては認識しづらいように思う。
8. 家族に問題意識を持ってもらうこと。

9. 虐待と同様に、早期発見と共にそれを報告や相談に繋げられる体制作りをする。
10. 中学生から保護者代理が可能ということが、保護者にとって上の子は頼りになる、面倒見がいいという感情を優先しすぎて、何事においても「上の子には下の子をも任せられるんだ」という判断が軽率に感じることがあります。第2子以降出産前の段階で市や病院から保護者には間違った認識をしないよう理解を得られる機会があるといいと思います。
11. ヤングケアラーの子どもが、自分はヤングケアラーなんだと自覚できる情報を学校等から伝えられると良いと思う。他に出来る家族がいなければ子どもは助けを求めるすべをしらず自分で頑張ってしまうと思う。
12. まだ認識できていない方や認識不足な方も多いと思うので、まずはじめの一步は何から始めるべきなのかということを1人でも多くの人に届けられたらいいのかなと思います。また、ヤングケアラー本人が自分の思いを話せる雰囲気作りや場所作りも大事になってくるのかなと思いました。
13. 実態の把握と相談しやすい環境を整え、現状の状況が問題だということを気づかせ支援していく体制の構築
14. 見てみぬふりをせずまずアクションをおこすこと。
15. その子にとって信頼、安心できる場所や人とつなげること。
16. 開かれた相談窓口。
17. 質問4にも書いてあるように、家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい為、様々な方面からの支援が必要だと思う。(公的家庭訪問等)
18. こどもが不利益にならないよう関係機関が十分なサービスを提供する。
19. 一人でも多くの子の未来を閉ざすことがないようにして欲しい。
20. 関係機関等による家族への具体的支援。
21. ヤングケアラーへの意識を常に持ち、寄り添う気持ちが大切かと思います。
22. 義務教育の早い段階で授業内容に取り込み必須課目とし、子供に認識してもらう。
23. 越谷市ではSSWが学校の依頼を受けてから派遣される。学校に常駐でないため発見がまず遅れる課題がある。SSWを中学校に常駐させ、中学校に進学してくる小学校も支援の範囲とすることが早期発見や支援になると思う。
24. 実態調査、そこに至った経緯を確認して支援や見守り、保護者への面談、当事者のカウンセリングなど。
25. 子ども自身が気づかなければ支援が難しい問題なので、まず実態を把握すること。
26. 実態調査をしっかりとする。
27. 早期発見、気になる学生には頻繁に声を掛ける。
28. ヤングケアラーとなっているお子さんに対して、福祉や教育など多岐にわたる分野であっても、迅速にサポート体制を築けること。また、対象者だけでなく、周囲の

大人、子ども達に対して「ヤングケアラー」を認識するための研修や講座開催を定期的に実施すること。私自身もまだまだ認識不足が多く、より多くの実態把握、各事案に対する対応策を学ぶなど定期的に学ぶ機会を持ちたいが、なかなか研修や講座などが無い。

29. 子どもの学生時間はとても短く、その子や家族を中心にし、長い期間に渡り、取り巻く環境を調整する人(部署)がある事が重要だと思います。
30. 家庭訪問や経済援助、相談等が素早くできると、良いと思います。
31. 子どもからの sos に気づける人材の確保と育成。しっかりとした補助体制の確立。
32. 1 生徒の早期発見（気づき）・情報共有
2 生徒の相談対応（聞き取り）・実態把握・判断
3 生徒と sc・ssw や福祉機関との連携・校内支援体制の確認が考えられます。生徒との信頼関係を構築し、孤立しないようにすることが大切だと感じます。
33. ヤングケアラーと思われる子どもが孤立していたり、支援者へ敬遠することがあるので、焦らずに本人の困り感を聞いて必要な支援を一緒に探して欲しい。
34. 学校、スクールソーシャルワーカー、保健所、市関係機関、民生委員、近隣の方、友達、親等子供と親と、気持ちのとれる方が、継続して、根気よく、接触していく事が必要。必ず、誰かに相談してくることがあり、周囲は、ケアラーだと、感じたら、関係機関と連携していき、継続的な支援が必要である。
35. このようなご家庭は、情報を受け取れていない場合が多いと考えられるので分かりやすい情報の提供を定期的に配信する。また本人達は無自覚であったりそこまで深く考えていない時が多い為その子とコミュニケーションを常々取っていて会話の中から情報を大人が拾う事が出来たらと思う。また学校からのケアラーの情報を見聞きし本人が気づき話せる関係性を築けている大人、学校が存在していたらと期待する
36. ヤングケアラーを発見する場として学校は重要な役割を果たせることを期待する。学校がヤングケアラーを発見しても、どこにつながればいいかわからないので必要な支援につながっていない場合が多いのではないかと危惧している。
37. ケアラーとなっている児童生徒が気軽に相談できる専門的な福祉サービスへつながる知識を持ったワーカーや周囲の助けが受けやすい環境がある事が身近にあることが大切だと考えられます。ご家庭や家族の事なので本人も相談しづらい想いと相談しても解決しないと感じている場合があるので ケアラーとなっている児童生徒に寄り添いながら、福祉等に連携してご家庭のケアにあたれるワーカーの必要性を感じます。
38. 外国にルーツをもつ親子の場合、子が親の代わりに関係機関との調整等を行うケースがありました。そのような子の負担軽減のために、親と子それぞれに伴走できるような資源やネットワークがあるとよいと思います。
39. ヤングケアラーかどうかは地域などでは認識することが難しく、子供が発信してく

れないと分からないことが多いように思う。学校での気づきから行政や地域に繋がれるラインがあれば良いと思う。

40. 今までは身近に、ヤングケアラーと思われる子どもがおらず、またその様な子どもの実態を耳にすることがなかったので、どの様な対応が必要かどうかといったことも分からない。
41. 家族はその家族のあり方が当たり前だと思っているので、学校で介入することは少ない。民生委員等、近所で目をかけてくれる人の存在が近頃は難しくなっているが、家の様子を気にかけてくれる人の存在があったらと思う。
42. ケアをすべき人が福祉、行政を使ってケアを代わりにやってあげることが必要だと思う。生活に苦しんでいる家庭ほど子供に頼るしかない(親は働くしかない)と思うので、金銭面での補助をしてあげなければ解決しないと思う。
43. ヤングケアラーの早期発見。ヤングケアラー自身、自分で助けを求める事ができること。周囲の援助。社会全体の福祉。(本人が訴えなくても支援が必要な家庭を支える事ができること)
44. 学校に相談室を設ける。
45. ヤングケアラーという言葉をもっと広げ、身近に感じられると良い。知らない人も沢山いると思う。ヤングケアラーに気付いておらず、必死で生きている子も多いはず。どうにかして支援の広がりや、自ら助けを求められるネットワークがあると良い。ヤングケアラーについて、アイドルや有名人などの CM も良い力になると思う。
46. ・家族を大切に作る心を大切にしつつも、福祉の充実を図ってほしいと思います。
・地域で助け合う越谷。
47. ・実態を掴むことがとても難しい。学校だと家庭内のことについて、どこまで踏み込んでいいのか迷ってしまうことがある。虐待と違ってなかなか表面に出てこない分、対応が遅くなってしまう結果、様々なことに影響が出てしまう気がする。
・希薄になりつつ近所との繋がりが重要なのかなと感じる。
・仕事を持つ母親が増え、余裕がないのも一つの要因。働く母親の支援ばかりが先立っているが、家庭でしっかり子供と向き合いながら生活している母親にも、もっと支援をしていくと様々な問題が解決していくのではないかなと思う。
48. 声をあげる事ができず、人知れず悩んでいる子供達の救い上げ。
49. 少子化対策として子育て支援をしているが、支援金は生活費に充てられる事の方が多いため使用用途を明確にしなくては対策としての意味がないと思う。社会をとりまく環境は子供主体とうたっているが、主体性を尊重していると言えるのだろうか。
50. 相談窓口があること等の情報発信を増やしてほしい。「TEL 相談」もあれば良いのでは？
51. 最近ヤングケアラーの言葉をよく耳にするようになりましたが、やはり家庭内のこ

となので中々気になる子がいても踏み出せない部分ではあると思います。実際、まだ幼児なので家庭内で問題を抱えていそうな子は見受けられませんが、もしそういう子供を受け持つようになった際には、どのような対応を取るべきなのか、相談出来る機関などを周知しておきたいと思いました。実際、問題を抱えて困っている子供が相談しやすいような支援と、近くにいる大人や教師が早く気付いてあげられるようにもう少し社会全体で支援したり、参加出来るような場を作ってほしいです。

52. 速やかな情報共有と実態把握(初期段階)までの早急な対応を期待します。
53. とてもセンシティブで個人情報の話なので、周囲も入り込みにくい問題だと思います。カウンセラーや心理学を学んだ者を公共機関に配置したり NPO などの団体の充実を図ることも必要だと思います。「家庭内」という狭い場所で当たり前に片付けられ苦しんでいる子供がいることのないよう、しっかりとした対応や基礎的事項の可視化が必要だと考えます。
54. 本人の大変さを相談できる人、場所があることが大切だと思います。SOS から具体的な支援へと結びつけられるサポートを期待します。
55. 乳幼児対象の職場ですので対象になる子供はいないのですが、相談できる窓口が身近にあり、いつでも S O S が出せて支援や相談が受けられるようになることを願っています。
56. 子だくさんのご家庭で、下の子が生まれるたびに上のお子さんが長期で学校を休み、年下の子の面倒を見ているという話を聞く(世間話・母親コミュニティーの場)で、学校側がそのことで動いている様子はなかった。個人情報という大きな壁がある為、立ち入ることが困難な場合もあるでしょうが、誰かが手を差し伸べる事で救われる子供がいることを忘れてはいけないと思います。業務に追われ疲弊している学校にどこまで期待できるのかとも思います。
57. 乳幼児の施設ですので対象になる子供はいないのですが、身近にいつでも気軽に相談が出来る場所があると良いと思います。
58. ・本人がヤングケアラーではないかと気付くように、リーフレットの配布や、相談できる窓口があること。
・本人が家族や学校等で話せる機会を作ってあげること。そこから負担軽減になるように、各関連機関につなげてほしい。
59. ・気軽に相談できる場所や人がいる環境を作る。
・困っている支援について自分以外でも支援してくれる人がいる事を伝えられる情報やサービスの提供。
60. 子供側も家族(親)側もヤングケアラーだと自覚、認識できていないことがまだ多いのだと思います。CM で知る人もいるように、小中高、またはよく行くお店や企業などで勉強できる機会、相談できる明確な機関を知れる機会が増えることを期待します。
61. ヤングケアラーかどうかの判断が難しい。具体的な事(こんなことをやっている子)

など、例があると良いかなと思う。

62. 子供の利益を一番に守りながら家族を包括的にサポートし、環境をできるだけ変えずに支援することも大切です。
63. 情報共有、横のつながり。
64. 教育現場でのヤングケアラーの発見や、本人からの相談窓口への訴えた後の公的サポートを体験談用に広報することで、ヤングケアラーの気付きや周囲への啓発に役立つと思います。また、介護保険のケアマネージャーのような人の専任が望ましいと思います。その人を通じて、既存の福祉サービスにつなげていく所から始めるのが良いと思います。
65. 本当に必要な支援。
66. ・対象の子供が助けを気軽に求められる雰囲気と、求め先が広く伝わっていること。
・抱え込まなくても手助けをしてくれる機関としっかり繋げてあげること。
・繋げた後も、助けて欲しいことをきちんと伝えられているか定期的なフォロー。
67. ・ヤングケアラーと分かっているにもかかわらずそれをカバーする機関が少なく、又、本人が言わなわい限り家族、親戚は感じていないので、機関に伝わることがない。そのような家庭がある場合、関係機関が確認のため近隣の人に聞いたり、本人に機関を伝えるだけでなく、小さい子の場合もあるので一緒に手続きを行う。
・ヤングケアラーをしている人たちの心のケア。(カウンセリング等)
68. 兄弟がヤングケアラーにあたるのではないかとと思われることがある。家族状況の把握は、あまり踏み込めないこともあり悩むところである。このような定期的な調査があると良いかなと思う。
69. 該当する家族や学校近隣住民からの情報提供がないと、中々実情が掴みにくいのが現状である。リーフレット等を通じ、児童虐待同様、通報情報提供を求められたら良いと考える。
70. ・どのような相談窓口があるのか、利用できる社会資源があるのか、当事者が情報を得る機会を設ける。
・公的、民間問わず、安価で気軽に頼れるサービスの普及。
71. 保育所では、「そうかも・・・？」と思われるケースがあっても、家庭内に入りこむことが出来ないため、まずは、相談できる窓口が、わかりやすいと良い。
72. 地域全体で、子どもたちのサポートがし易い環境と人を育てる。個人の学ぶ権利を守る。
73. 子どもが安心していつでも頼てる心の拠り所になることを期待します。
74. 大人が気付き、子どもへの声掛け支援につながるようになってほしい。
75. 速やかに相談できる窓口の設置。子どもが子どもらしく生活ができるように、サービスをすすめる人を置く精神的、経済的な部分にも安心できる居場所作り。

76. ヤングケアラーと直接関わる職員は温かく丁寧に対応し困りごとなどなんでも相談できるような関係づくりを行い何かあった時に然るべき支援へと繋げられるようにしていくことが大切だと思います。
77. ヤングケアラーを知ることが大切で、「おうちの手伝いをしてえらいわね」という考えにならないこと。家事や介護におわれ、自分の時間がなく、一人で悩んでいる場合もあるため、手を差しのべることが大切。その子の本当の気持ちを理解し、適切な支援をしていくことが大切。
78. 夕食提供、自習室、伴走支援等、取り組みがあってもそういった所との関わりを嫌がる本人、家族。本当に高い壁が、それぞれにあるように思います。その壁に小さな穴を開ける事が大きな1歩のような気がします。「行政に頼まれる事は恥ずかしい」と思う事、「家族が頑張ればなんとかなる」と言う思いが子ども達の小さな1歩が踏み出せないのではないかと思います。本人に寄り添う事も大切だと思いますが、距離感を大切にしながら、人としての生活の確保をして、子ども達の将来の夢が押つぶれてないようにしてい頂ければと思います。
79. 学校等で一斉にアンケートをとったり、周知をする事により、子どもの置かれている環境の把握や、知識の共有が出来るのではないかと考えられます。
80. 生徒の様子で少しでも気になることがあったら、教員、相談員など周囲と情報共有する。
81. ・当事者である子どもの気持ちに添った支援をつくっていくこと。
・子どもの気持ちを、代弁することを、考えて欲しい。(親にむけて)
・ケアされる側の助ったと思える様なサービスを具体的につくって欲しい。
82. 地域ごとの自治会の人のつながり、また、民生員会・公などすべての機関が連携し、各家庭にヤングケアラーはいるかいらないかの情報をしっかりと把握できるようにし、ヤングケアラーがいたならば、すぐに手を差し伸べることができるような体制が築けていたらと思います。そして、もし、学校や園にヤングケアラーがいた場合は、その子に対して、一番望ましい対処法を行うために、知識を得る研修が大切になってくるのではないかと思います。よろしくお願いいたします。
83. ・養護的な面をサポートし、気が付いてあげるような職員の配置。
・子ども自身に長苦節（子どもがいいやすいような場、手順）相談できる場所を作る。学校では難しいかもしれませんが、自由あそびの授業を設け、コミュニケーションを多く取る時間を設けて家族環境を把握できるようにしていけたらと思う。
・周りの気がついた人が言えるような窓口
84. その家庭全体で困っていることを、定期的にききとったり、緊急時には訪問等の対応ができるソーシャルワーカーのような方がいて、支援できる福祉等を紹介し、利用可能までみちびいてほしい。
85. 保護者への支援
86. ・本人がヤングケアラーという認識がない為、表面化しにくい→広報媒体の作成。

広報啓発を通じて認識度を高める。

・スペシャルワーカーの配置学校との促進する。相談しやすい環境との整備。

87. なかなか学校等が家庭へのプライベートに踏み込むことは、難しいと思います。ヤングケアラーというもの、相談機関あることなどなど知らせていった方がよい。また、もっともっと福祉の方で予算が使えると「助けてほしい」と言いやすい。世の中になるのではないかと思う。
88. ・周りの大人が気づくことが重要。(学校の先生など)・相談しやすい子どもと大人の関係性。
・ヤングケアラーと思われる子どもの親の職場の対応(仕事も大事だが子育てを大切にしているという声かけ)
89. 子どもが一人で抱え込まないように、気づいてあげる。負担になってないか、ストレスを抱えてないか察知してほしい。そして、実態を把握し、行政サービスを利用できるように社会全体で支えていけたらと心理的サポートを必要な気がします。
90. ・話をじっくり聞く。(一人一人違うと思うので)本人が困り感や支援の必要性を感じているのか。
・よく聞いて本人と相談した上で適切な関係機関につないでいけたらと思っている。
91. 相談でき、話を聞く場があるという事。手助けする人がいるという事を広く知ってもらう様、ケアラーのこどもに届くように告知を(ポスター等で)それと、先生やまわりの人の見守り気づきを。
92. 学校では把握が難しい。そして、まだ対応したことがないのでわからないことが多い状況がある。ヤングケアラーの子供への支援ができるように今後関係機関と協力したい。しかし、虐待案件等も増えており、これ以上学校のやることが増えるのは、厳しい現状である。地域力の活用をしたらよいと思う。実態を一番よく知っている地域で、見守りし、ヤングケアラーと思われる子どもの早期発見、早期対応、支援ができるシステムを希望する。
93. ・福祉分野や教育分野など複数の機関での情報共有及び機関同士の支援の強化(学校では発見することが難しい)・子どもは家族の世話をしていることが当たり前に思っていて自分がヤングケアラーだと分からない子もいるためそのような子のためにも、出前講座などをやるとよい。
・学校、家族、地域、医療関係機関が連携して、ケアをする子供の生活を把握し、細かなサポートをしていく必要がある。
94. 学校でのヤングケアラーの発見は難しいと思われますので、やはり近隣住民が発見することが最善と思います。ただご近所関係が希薄になっている現在、それを見つけることが重要となると思います。昔であればおせっかいおじさん、おばさんがいるのが日常だった気がします。今の世の中その事事態が法律にふれてしまう可能性が出てきてしまうので干渉する事が難しいかと思われます。なのでそういう役割を

担う方を自治体などで選定するのも一つの手かと思います。

95. 自園は小さな子どもをお預かりしているので、ヤングケアラーということの問題に関係していないが、コマーシャルでヤングケアラーについてとりあげられているが、もっと多くの人々が、目にできるような方法があればいいと感じています。学校など家庭環境の把握をすることがどこまでできるのか？先生方に課せられる仕事の多さを考えられると難しいのではと思ってしまいます。地域の方との密接な関係が築けるようにするにはどうしたらいいかと思います。
96. 本人とその家族、双方をサポートする環境が整う事を望みます。

令和5年度 ケアラー・ヤングケアラー実態調査結果

発行年月日 令和6年2月

発 行 越谷市 地域共生部 地域包括ケア課

〒343-8501

埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号

電 話 048-963-9163